

345  
510

北海道衛生火防展覽會報告

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



特 219  
410



北海道衛生火防展覧會報告





裁 總  
官長廳道海北  
雄 秀 田 池



裁 總 副  
長部察警廳道海北  
郎 太 潤 垣 稻



會 館 兩  
長 市 館 兩  
一 森 本 坂



副會長  
兩館市助役  
彌吉茂樹



副會長  
兩館警察署長  
井上金之助



協贊會長  
函館工商會議所頭  
坂本 作平



協贊會副會長  
函館工商組聯合會長  
齋藤 榮三郎



協贊會副會長  
函館工商會議所副頭  
岡本 康太郎



委員長  
函館市會議長  
高橋文五郎



副委員長  
市立函館病院院長  
山脇正次



副委員長  
函館市會議副議長  
綿引綱



長 部 防 火  
長會合聯合組防豫災火市館函  
八 平 谷 岩



長 部 生 衛  
長會合聯合組生衛市館函  
郎 次 龜 田 市



長 部 查 審  
敬安村西士博學醫



長 部 務 總  
長課生衛市館函  
作 與 島 宮



長 部 營 經  
事理所議會工商館函  
一 貞 林 小





長部副部務總  
部警署察警館函  
郎五寬橋三



長部副部生衛  
長部支館函會師劑藥道海北  
豐佐若



長部副部防火  
頭組防消館函  
吉彌田勝



長部副部查審  
長部支館函會師醫科商道海北  
三代千川谷長



長部副部生衛  
會支館函會生衛立私本日大  
郎太房田野事幹



長部營經  
長課務庶所議會工商館函  
郎次定崎島



長部副部防火  
會合聯合組防豫災火市館函  
長組町寶 長會副  
郎太奧田村



長係明説部防火及部生衛  
頭會支館函會生衛立私本日大  
郎一與藤齋



長會師醫館函  
幹內木士博學醫



長科兒小院病館函  
夫龍部阿士博學醫



長係護救部務總  
長會副會師醫市館函  
郎淑田新



長科人婦產院病館函  
傳田陽士博學醫



長次係務庶部務總  
任主生衛署察警館函  
吉定井深



長係場式部務總  
長會副會合聯合組生衛市館函  
百時藤伊長組



長係務庶部務總  
任主生衛市館函  
久藤齋



長次係備警部務總  
長部二第和防消館函  
郎太重原菅



長次係備警部務總  
任主防消署察警館函  
七久藤齋



長係管工部務總  
長師技市館函  
輔正島本



長係計會部務總  
役入收市館函  
次照山坪



會支館函會生衛立私本日大  
長係傳宣 頭會副  
二洲池菊 ネーブル・マニトウ



長係場會部務總  
長組町濱仲町大  
郎太彦摩當



長係査審部査審  
部支館函會生衛立私本日大  
彰田松事幹



長係飾裝部防火及部生衛  
長所張出廳道海北  
二善井石



長係待接部務總  
事幹會憲同習講生衛市館函  
郎次幸安廣



部防火及部生衛  
長係品出  
門衛左七崎白



長係送着部防火及部生衛  
長組綾五  
郎次元田鷹



長組町見船  
治勉崎山



長組町泊春山  
作官木熊



長組町神天  
郎四彌川小



長組町止駒  
郎次岩木々佐



長組町臺  
郎次直坂黒



長組町冷銀  
衛兵新端川



長組町籠旅  
作正田宮



長組副町ヶ四外町天辨  
吉彌川小



長組町黒大  
郎次六田成



長組町ヶ三外町潤鱸  
郎三與村田



長組町元  
衛兵久 森



長組町岡富  
郎十金藤齋



長組町所會  
郎八瀬間



長組部西町濱東町廣末  
衛兵久田三



長組部東町濱東町廣末  
郎太彌塚石



長組副町壽  
吉金賀額



長組町場船  
次愛達安



長組町頭地谷  
助之卯田前



長組町柳青  
郎次權田和



長組町日春  
郎太新浪藤



長組町生相  
藏 米 村 杉



長組町吉住  
助 喜 山 丸



長組町藏地  
吉 寅 島 大



長組町須比惠  
作 耕 木 々 佐



長組町萊蓬  
德 道 尾 高



長組町川西  
藏 庄 尾 寺



長組町止沙,町川豊  
松 末 側 前



長組町旭  
作 郡 崎 杉



長組町榮  
郎 次 金 谷 丸



長組町川東  
郎 次 才 田 塚



長組町風松  
門衛右元谷水



長組町雲東  
衛定木鈴



長組町羽香  
郎太山瀬川



長組町砂眞  
吉平田浦



長組町岡鶴  
郎次他香五



長組町松若  
藏吉藤工



長組町砂高  
衛兵金川古



長組森高  
三陸岡松



長組部東町川新  
一定村河



長組町森大  
助儀島西



長組町繩大  
門衛左郎 治葉稻



長組部東岱ヶ代千  
郎三登岡増



長組町川新  
之純村菅



長組部西岱ヶ代千  
助之久野澤



長組田龜  
藏留田菊



長組町岸海  
吉鶴宅大

(員 役 元)



長係務庶部務總  
藏吉本谷



長組町日春  
郎次勇村祐



長部副部生衛  
始藤内故



北海道衛生火防展覽會報告 目次

第一編 展覽會	一
第一章 開催の趣旨	一
第二章 組織	二
第一節 規則	二
第二節 處務規程	四
第三章 會議	九
第四章 會場	一六
第五章 出品	一七
第一節 出品規程	一七
第二節 出品の概況	二〇
第三節 陳列の分擔	二三
第四節 陳列の概況 附陳列目錄	二五

(一) 衛生部……………二五  
 (二) 消防部……………六八  
 (三) 商品部……………九八

第六章 宣傳、催物……………一一一

第一節 宣 傳……………一一一  
 第二節 催 物……………一二四

第七章 觀覽と取締……………一二〇

第一節 觀 覽……………一二〇  
 第二節 取 締……………一二一

第八章 儀 式……………一二三

第一節 開 會 式……………一二三  
 第二節 閉 會 式……………一二八

第九章 經 費……………一三二

第十章 釀金及寄附金……………一三八

第十一章 役 員……………一四八

第二編 協 贊 會……………一八九

第一章 組 織……………一八九

第二章 協贊事業……………一九一

第一節 餘 興……………一九一  
 第二節 接 待……………一九二  
 第三節 即 賣 店……………一九二

第三章 經 費……………一九四

第四章 役 員……………一九五

頁	行	課	正
九	八	大日本私立衛生會函館支部	大日本私立衛生會函館支會
七	六	衛生組立	衛生組合
七九	九	カハホネ	カハホネ
八三	一	水谷友右衛門	水谷元右衛門
八四	七	曙町組長	曙町組長
八五	七	部長	部長島崎定次郎
八七	一	末廣町西部組長	廣末町西部組長
八八	一	一盤淵町組長	一盤淵町組長
八九	六	部長	外三ヶ町組長 部長西村安敬
九〇	六	部長	副部長長谷川千代三

# 第一編 展 覽 會

## 第一章 開催の趣旨

惟ふに拓殖の根幹なる保健衛生と火災豫防とは、自覺ある個人の自治的協力に俟つべきは言を須ぬ所である、北海道廳に於ても夙に茲に意を致され、衛生に付ては明治二十三年、火災豫防に在つては明治四十三年に各組合設置に關する規定を定め其年より我が函館市を始め全道隨所に組合設立を見、今や殆ど全道に遍き、其數衛生組合は千七百、火災豫防組合は九百の多きを算し、着々其機能を發揮し、以て人口二百八十餘萬、生産年額五億五千萬圓に達する、超速度の本道拓殖に貢獻する所蓋し甚大なるものがあるのである。

然るに昭和六年は本道に衛生組合創立四十年、火災豫防組合創立二十年に當り、而も近時複雑なる世相は財界未曾有の不況と相俟つて吾人の身體財産を、より能く愛護を要するものあるに、却て障害せらるゝこと甚しく、拓殖の進展を阻碍すること大なるものありて、道民に對し健康増進と保健衛生状態の改善と火災豫防とに一大覺醒を促すべき時機に際會したのである。而して之が啓發誘導の方途多種多様なるが、實物展示の方法が効果顯著なることは既往の實績が克く之を物語つてゐる。

茲を以て衛生組合創立四十年、火災豫防組合創立二十年を記念し、道民の衛生火防に關する思想の劃期的普及徹底を圖る目的にて、北海道廳、函館市役所、函館警察署賛同の下に、函館市衛生組合聯合會、函館市火災豫防組合聯合會、函館市内各衛

生及火災豫防組合、函館衛生講習同志會、大日本私立衛生會函館支會、函館市醫師會、函館醫事講究會、北海道齒科醫師會函館支部、函館藥劑師會、函館藥業組合の五十九團體が一團となり、財界は不況のドン底を辿る非常時を顧みず、敢て本展覽會を開催したのである。

## 第二章 組織

### 第一節 規則

#### 北海道衛生火防展覽會規則

- 第一條 本會ハ北海道衛生火防展覽會ト稱ス
- 第二條 本會ハ北海道ニ於ケル衛生組合創立四十年及火災豫防組合創立二十年ヲ記念シ衛生火防ニ關スル思想ノ劃期的普及徹底ヲ圖ルヲ目的トス
- 第三條 本會ハ函館市内ニ於ケル衛生火防ノ各團體之ヲ主催ス
- 第四條 本會ハ昭和六年八月十日ヨリ同月二十四日迄十五日間函館市ニ開設ス
- 第五條 本會ノ事務所ヲ函館市役所内ニ置ク
- 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

總裁	一名	副總裁	一名	會長	一名
副會長	二名	顧問	若干名	評議員	若干名
理事	若干名	委員長	一名	副委員長	二名
委員	若干名				

第七條 總裁ハ北海道廳長官、副總裁ハ北海道廳警察部長ヲ推戴ス

會長ハ函館市長ヲ副會長ハ函館警察署長及函館市助役ヲ推薦ス

顧問以下ノ役員ハ會長之ヲ囑託ス

第八條 本會ニ左ノ職員ヲ置キ會長之ヲ囑託ス

幹事 若干名 書記 若干名

第九條 本會ノ出品ハ審査品即賣品及參考品トシ其細目並出品陳列ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 出品ハ希望ニヨリ之ヲ審査ス但シ參考品ハ此ノ限りニ在ラス

第十一條 審査ノ爲メ出品物ヲ消耗又ハ毀損スルコトアルモ出品人ハ之ニ對シ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 審査ノ結果優等ト認メタルモノニハ其出品人ニ對シ褒賞ヲ授與ス

第十三條 審査ニ付テハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十四條 觀覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條 本則施行上必要ナル規定ハ會長之ヲ定ム

## 第二節 處務規程

第一條 總裁ハ本會ヲ總理ス

副總裁ハ總裁ヲ補佐シ總裁事故アル時ハ之ヲ代理ス

第二條 會長ハ本會一切ノ事務ヲ掌理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ之ヲ代理ス

第三條 顧問ハ會長ノ諮詢ニ應ス

第四條 評議員ハ會務ニ關スル重要事項ヲ評議ス

第五條 理事ハ重要ナル會務ヲ審議シ且會務ヲ分掌ス

第六條 委員長ハ委員ヲ指揮シテ會務ヲ處理ス

副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アル時ハ之ヲ代理ス

委員ハ會務ニ從事ス

第七條 本會ニ左ノ五部ヲ置キ部ニ係ヲ置ク

總務部 經營部 衛生部 消防部 審査部

第八條 總務部ノ事務分掌左ノ如シ

庶務係

一、人事、會議、儀式ニ關スル事項

二、文書ノ收發、記錄、統計、報告ニ關スル事項

三、印章ノ管守ニ關スル事項

四、規程制定ニ關スル事項

五、各種集會ニ關スル事項

六、優待券、徽章及門鑑ニ關スル事項

七、他部ノ主管ニ屬セサル事項

會計係

一、經費ノ豫算並決算ニ關スル事項

二、金錢ノ出納ニ關スル事項

三、殘品ノ處分ニ關スル事項

會場係

一、會場内外ノ設備ニ關スル事項

二、會場内外ノ取締ニ關スル事項

三、看視員勤務ニ關スル事項

式場係

一、式場ニ關スル事項

工營係

一、營繕其他工務ニ關スル事項

二、土木ニ關スル事項

接待係

一、來賓接待及團體歡迎ニ關スル事項

警備係

一、警備ニ關スル事項

救護係

一、救護ニ關スル事項

第九條 經營部ノ事務分掌左ノ如シ

宣傳係

一、新聞通信、廣告、宣傳ニ關スル事項

催係

一、催シ物等ニ關スル事項

第十條 衛生部及火防部ノ事務分掌左ノ如シ

出品係

一、出品ノ勸誘ニ關スル事項

二、出品物ノ受入送付等整理ニ關スル事項

三、出品カード、目錄等ニ關スル事項

四、其他出品ニ關スル事項

着送係

一、出品物ノ接受及送還ニ關スル事項

陳列係

一、陳列品其他ノ配置ニ關スル事項

二、陳列ニ伴フ設備ニ關スル事項

裝飾係

一、會場内外ノ裝飾ニ關スル事項

説明係

一、説明ニ要スル設備方法ニ關スル事項

二、説明員ニ關スル事項

第十一條 審査部ノ事務分掌左ノ如シ

審査係

一、審査職員及審査事務ニ關スル事項

二、審査報告ニ關スル事項

三、褒賞ニ關スル事項

第十二條 部ニ部長一名及副部長二名ヲ理事ノ中ニ就キ、係ニ係長一名及次長二名ヲ委員ノ中ニ就キ會長之ヲ囑託ス

第十三條 部長ハ部務ヲ掌理ス

副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アル時ハ之ヲ代理ス

第十四條 係長ハ其分掌事務ヲ處理ス

次長ハ係長ヲ補佐シ係長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第十五條 事務ノ處理ハ成ルベク文書ニ依ルベシ口頭ヲ以テ處理シタル時ニハ其ノ要旨ヲ成ルベク記録シ置クベシ

第十六條 處理案ハ副部長、部長、副會長ヲ經テ會長ノ決裁ヲ受クベシ

處理案ノ他部又ハ他係ニ關係アルモノハ關係ノ係部ニ合議スベシ

第十七條 左ノ事項ハ部長ニ於テ專行ス

一、部員ノ市内出張ニ關スル事

二、既定事項ノ照會、回答及通知ヲ爲ス事

三、總務部長ノ同意アリタル一廉五拾圓未満ノ物品調達ニ關スル事項

四、其他輕易ナル事項

第三章 會 議

本會開催の機運熟すると共に、昭和五年十一月準備委員協議會を開き其後開會まで二十二回の役員會合を重ね慎重審議を盡されたもので、本會の會務が圓滑に進行し、克く所期の目的を達し得たのは、役員諸君の盡力参劃に負ふ所が大いのである、今會議の概要を陳ぶるに先ち、七月二十八日の評議員會に於ける坂本會長の挨拶要旨を採録する。

評議員會々長挨拶要旨

御繁多の折柄斯く多數の御會同を得ましたことは私の最も欣幸とする所であり、本展覽會は謂ふ迄もなく本道に於ける衛生組立創立四十年及火災豫防組合創立二十年を記念し、衛生火防に關する思想の劃期的普及徹底を圖る目的の下に市内關係團體が企圖して二十萬市民に呼びかけたのであります、併しながら此大不況なれば當初は其成否を危れましたが、先づ當市選出道會議員各位の御盡力により展覽會として類例なき破格の道廳援助の確定を見て主催者の意は強められ次で市内各種團體並有志諸彦の贊助、取り分け本日御會合を煩はしました各位自らの御發奮と御助援とにより茲に財的基礎略ぼ確立を見、今や句餘にして本展覽會の幕が切り落さるゝ事になりましたのは洵に欣快措く能はぬ所でありまして、贊助各位に心から感謝の意を表すものであります

斯く絶大の協賛を辱ふせる他面に主催側就中井上副會長を始め理事並委員諸君の苦心努力も亦多大でありまして其一端を申すと斯種展覽會は其性質上陳列品の悉くは吾人の健康上又は災害豫防上有益ではあるが得て見榮なきが常であります、故に

其缺を補ひ新機軸を築かむとして東京大阪方面より展覽資料の粹を蒐め來り其數實に千餘點に達し而も蒐集品は平面的のものよりも立體的のもの多く、殊に電動模型のもの尠からぬのであります。

今衛生部に就て其一を申上ぐると微妙な理化學的作用なる我々の生活機能を電光により目のあたり見せる身長十二尺以上のロボットの如きは世界的の作品で、其他博覽會等に於ても觀られぬ珍品多々あるのであります。

又『健康は運動から』をモットーの下に運動に關する陳列を加へて在來衛生展覽會の型を破りたるが如き、火防部に在つても失火原因其他を十七場面のパノラマ式に展示せむとするが如き衛生火防と謂ふ局限的でありますが實質に於ても將又觀物としても充實され從て建坪千三十坪の會場は狹隘にて數百坪を増築するのであります、尙會期中協賛會に於て毎日嶄新なる餘興を催さるゝ外、音楽堂兼用の舞臺を後庭に設けて、音楽、童謡、童話、活動寫眞其他の催し物を行ふのであります、殊に主催協賛團體の發奮により會期中健康相談デー、愛齒デー、妊婦相談デー、火防デー等の場内催しものを行ふ豫定であります、當市に於ける斯る施設としては未曾有のもので全く三二年式の展覽會が實現さるゝものであります。

更に又當市と唇齒輻車の關係にある渡島、膽振、十勝、日高の各沿海の方々の觀覽に便せむとして該沿岸に航路船を有せらるゝ金森商船株式會社、函青汽船株式會社、株式會社恒産組、藤山要吉、山本厚三、濱岡林松其他の各位が本展覽會に祝意を寄せられ、八月五日より十九日間奉仕的に函館往復乗船賃三割引せられたことを深く感謝すると同時に該地方に於ける各位の御得意先其他知己等に團體又は個人の觀覽方を精々御勧誘を御願ひ致します。

以上本展覽會の概要を申上げて之より協議事項に移りますが、要は有意義なる本展覽會をして最も盛況に且有効に了らしめむことに此上とも深甚なる御盡力を希ふ次第であります。

#### 會 議 要 項

準備委員會 昭和五年十一月二十一日

- 一、展覽會規則ニ關スル件
- 二、展覽會經費豫算ニ關スル件
- 三、處務規程ニ關スル件

準備委員小委員會 昭和六年三月九日

- 一、會場撰定ニ關スル件
- 二、役員豫選ニ關スル件

準備委員會 昭和六年三月二十日

- 一、役員分掌ニ關スル件
- 二、會場ニ關スル件

理事會 三月二十三日

- 一、實行豫算ニ關スル件
- 二、役員囑託ニ關スル件
- 三、委員會開催ニ關スル件



四、會場及會期ニ關スル件

役員(次長以上)協議會 四月四日

一、陳列品蒐集及出品勧誘ニ關スル件

二、出品規程制定ニ關スル件

三、係委員囑託ニ關スル件

四、ポスター其他宣傳方法ニ關スル件

五、船車賃割引交渉ニ關スル件

六、其他

理事會 五月四日

一、募集ポスター圖案審査ニ關スル件

衛生火防兩部各長協議會 五月五日

一、陳列ニ關スル件

衛生部小委員會 五月八日

一、衛生部直營室ニ關スル件

衛生部直營室小委員會 五月十九日

一、各室經費豫算ニ關スル件

二、各室擔當者豫定ニ關スル件

同 會 五月二十五日

一、有料出品ニ關スル件

衛生火防組合長會議 六月三日

一、寄附金募集ニ關スル件

理事會 六月十七日

一、直營室陳列ニ關スル件

二、場外設備ニ關スル件

三、催シ物ニ關スル件

四、宣傳ニ關スル件

五、電燈電力ニ關スル件

六、下足扱ニ關スル件

直營室係員協議會 六月十六日

一、陳列品ニ關スル件

出品係員協議會 七月六日

一、有料出品ニ關スル件

直營室委員協議會 七月十六日

一、陳列品ニ關スル件

同 會 七月二十日

一、陳列ニ關スル件

理事會 七月二十日

一、直營室陳列ニ關スル件

全委員協議會 七月二十四日

一、設備裝飾ニ關スル件

二、直營室陳列ニ關スル件

三、普通出品ニ關スル件

四、即賣店ニ關スル件

五、宣傳ニ關スル件

六、催シ物ニ關スル件

七、看視員ニ關スル件

八、評議員優待ニ關スル件

九、開會式ニ關スル件

一〇、處務規程改正ニ關スル件

一一、豫算ノ追加更正ヲ理事會委任ノ件

評議員會 七月二十八日

一、街路裝飾ニ關スル件

二、入場券前賣ニ關スル件

幹事協議會 七月二十八日

一、街路裝飾ニ關スル件

二、入場券前賣ニ關スル件

三、事務分擔ニ關スル件

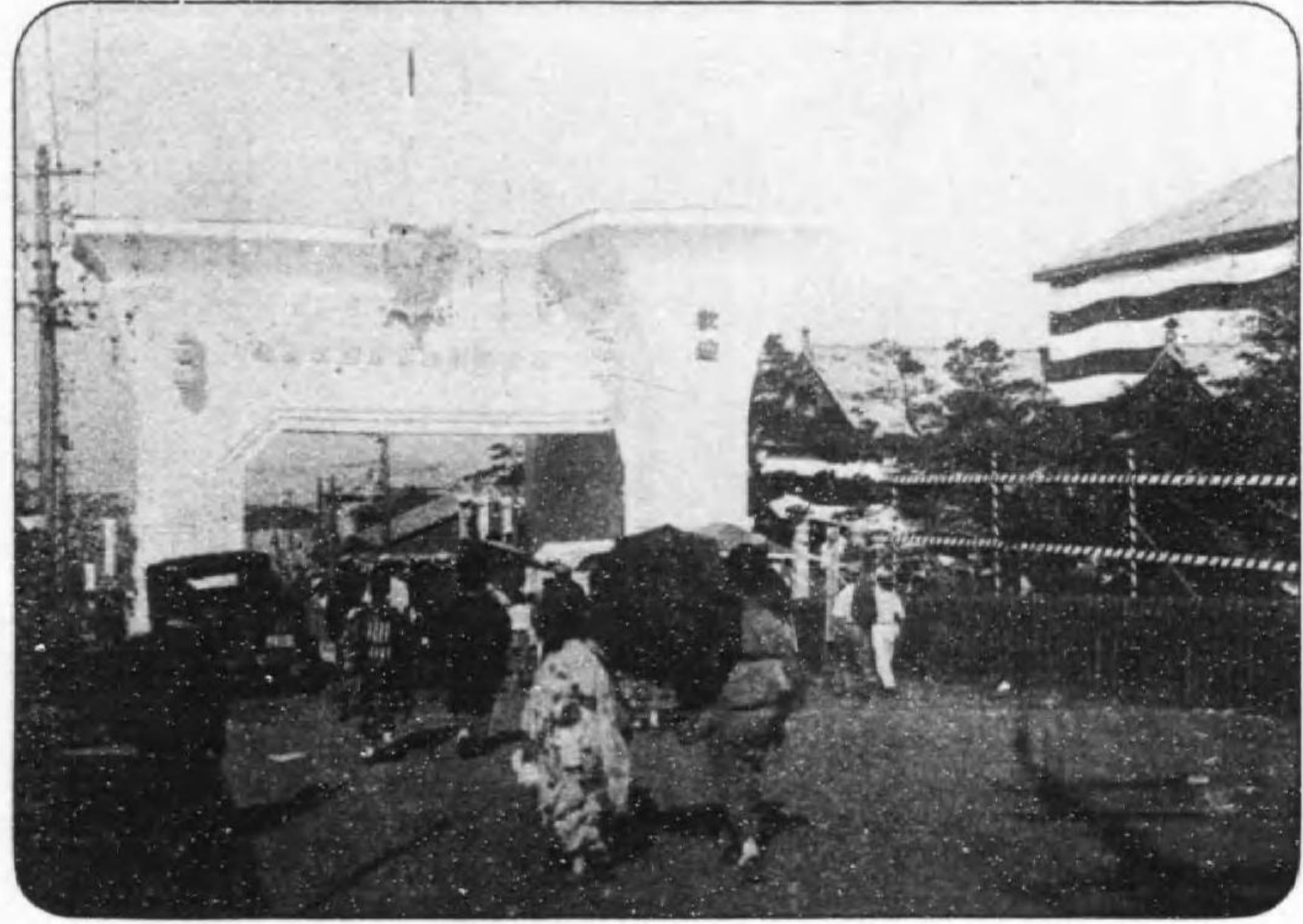
理事會 七月三十日

一、諸般事項ノ打合

直營室委員會 七月三十日

一、陳列ニ關スル件

以上



會場正門

#### 第四章 會場

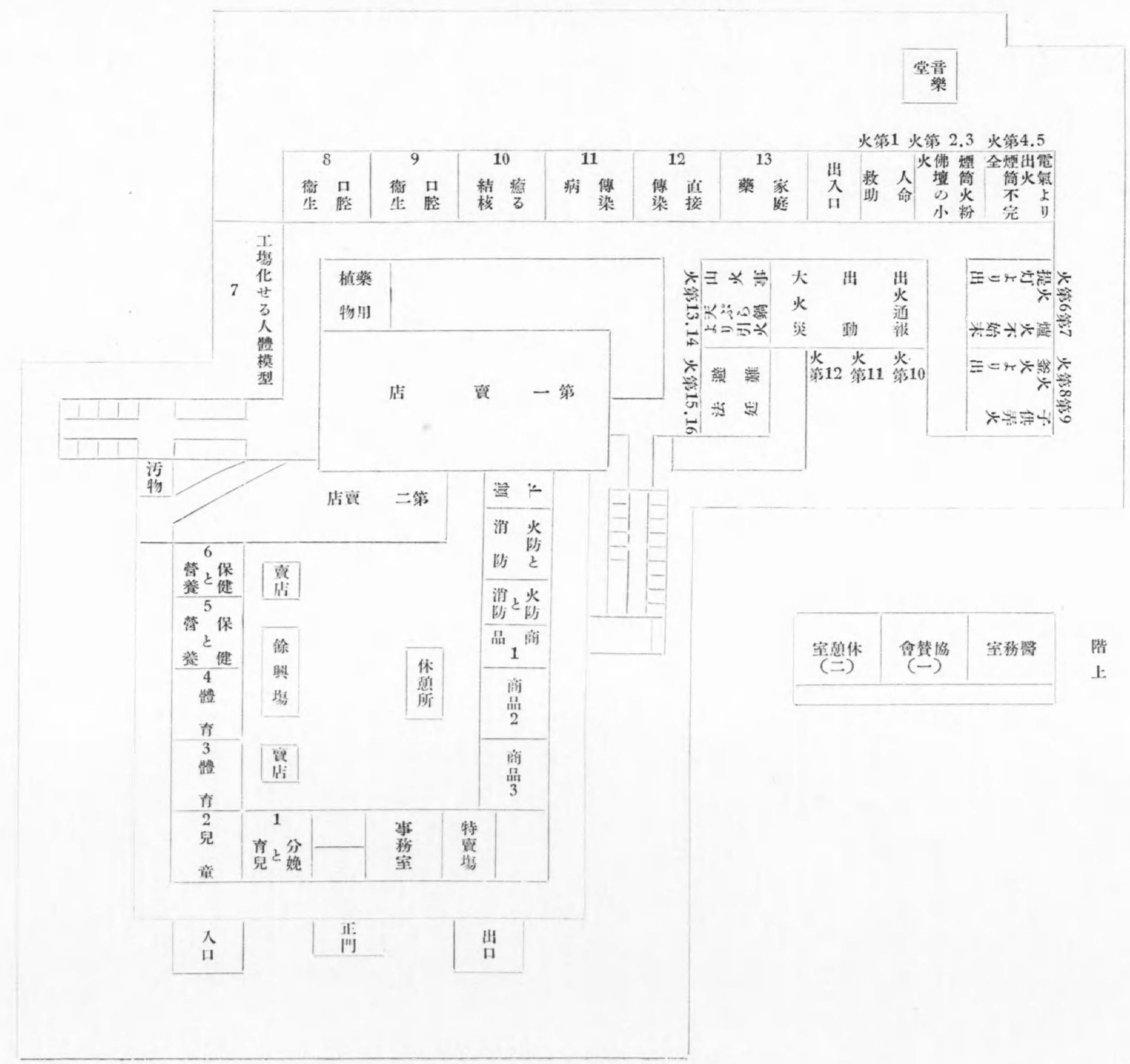
會場は春日、青柳兩町に跨る市立住吉小學校の校地と校舎とを充てたのである、位置は觀客の吸收に至便に非ざるも、敷地の周圍に廣き道路を繞らし、中央に屋外體操場が設けられ、換氣採光何れも佳良にて展覽會場として好適であつた。

敷地は二千八百七十坪あるが建物は千三十坪に過ぎないので、本會が九十六坪五合を又協賛會は九十坪を増築し、外に二十坪の藥用植物陳列場と十三坪の奏樂堂を假設したのである。

會場入口には高二十七尺、外巾三十九尺内法二十一尺の白漆喰塗、數個の大電燈を附した丁字型の正門を建設し、又會場正面軒下から紅白の幔幕を張り、夜間は投光機から放たる電光に、一層の美觀を呈し非常に好感を與へた。

又場内の陳列配置は別圖の通りである。

北海道衛生火防展覽會場平面圖



## 第五章 出品

### 第一節 出品規程

第一條 審査品及參考品出品ハ本規程ニ依ル

第二條 本會ニ出品セントスル者ハ第一號書式ニ依リ出品申込書ヲ昭和六年六月十五日マデニ本會ニ差出シ其ノ承認ヲ受クルモノトス

出品物運轉ノ爲メ動力ヲ要スルモノハ陳列ノ爲メ特別ノ裝置ヲ要シ又ハ館外ニ陳列ヲ要スルモノ若クハ基礎工事ヲ要スルモノニ就テハ申込書ニ其ノ旨記載スヘシ

第三條 前條ニ依リ本會ノ承認ヲ受ケタルトキハ本規程第四條ノ料金ヲ昭和六年七月十日マデニ本會ニ納付スヘシ 但シ審査希望品ニ付テハ第二號書式ノ解説書ヲ添付スヘシ

第四條 出品人ハ陳列場所使用料トシテ左ノ金額ヲ本會ニ納付スルモノトス 但シ本會ニ於テ特ニ必要ト認ムル出品ニ對シテハ本料金ヲ減額又ハ免除スルコトアルヘシ

- 一、館内板間 一間ニ付 (間口約六尺) 拾五圓  
(奥行約二尺五寸)
  - 二、館外土地 一坪ニ付 貳拾圓
- 半間又ハ半坪ノ場合ハ半額トス

- 第五條 出品ヲ取消シ又ハ減少シタル場合ト雖モ既納ノ料金ハ返還セス
- 第六條 出品物ハ昭和六年八月三日ヨリ同月七日マテノ間ニ搬入陳列スルコトヲ要ス
- 第七條 出品物ノ荷造、運搬、陳列、裝飾、動力及其ノ他特別ノ装置ニ要スル費用ハ總テ出品人ノ負擔トス本會ニ於テ特ニ看視保管ヲ要スト認メタル陳列品ノ看視保管ニ要スル費用亦同シ
- 第八條 本會ハ天災事變其ノ他不可抗力ニヨリ生シタル出品物ノ損害ニ對シテハ其ノ責ニ任セス
- 第九條 出品物ハ賣約ヲ爲スコトヲ得ルモ開催期間中ハ之ヲ場外ニ搬出スルコトヲ得ス
- 第十條 出品物ノ搬出及工作物ノ撤去ハ開會ノ翌日ヨリ三日以内トス若シ期間中ニ搬出又ハ撤去セサルトキハ本會ニ於テ適當ノ處置ヲ爲シ費用ハ出品人ヨリ徴收ス

式書號一第

出品申込書

一、出品物

品名	用途	數量	單價

二、陳列場所

館内板間  
館外土地

坪間

賣品  
非賣品

右出品致度此段申込候也

昭和六年 月 日

住所

氏

名

函館市役所内  
北海道衛生火防展覽會御中

一、運轉ヲ要スル機械等ノ出品ニ付テハ動力ノ種類及馬力數ヲ記載スヘシ

式書號二第

北海道衛生火防展覽會出品物解説書

品名	品種	出品
		住所
		氏職業 氏名
創業年月	製造所ノ所在地	
	生産加工製造ノ方法 概要	
	原料ノ種類及其產地	
	用途及其ノ特長	

從業人員及原動力ノ種類並馬力	一ヶ年ノ		販路	業務上ノ經歷概要	從前ノ受賞、内外博覽會又ハ共進會ニ於テ受ケタル褒賞ノ年月日及内容	審査請求ノ主眼又ハ審査上特ニ必要ト認ムル事項
	數量	價格				

注意

- 一、本解説書ハ二通提出スルコト
- 二、本解説書ハ一品毎ニ別紙ニ認ムルコト
- 三、本解説書ハ審査上重要ノ資料タルニ付説明ハ簡明ニ記述シ且字體ハ明瞭ナルコト

### 第二節 出品の概況

優良資料の出品を遍く全国より募る爲めに、出品勧誘の遺憾なきを期することは、本會の目的達成上最も緊要の事柄である

依つて全國主要の官公衛、團體、會社其他に書面を以て數次依頼し、他面井上副會長、市田衛生部長、岩谷火防部長、宮島總務部長、野田衛生副部長等が札幌、東京、大阪方面に交互に出張勧誘を行ふたのであるが、商品部の出品に付ては白崎出品係長と齋藤脩平委員とに負ふ所は多いのである。

今、衛生、火防直營室の主なる出品先と點數とを掲ぐると左の通である。

一九四點	内務省 社會局	二九點	文部省 體育課
七點	隊軍科學研究所	一〇四點	北海道 廳
二三點	日本 赤十字社	三七點	日本結核豫防協會
一二點	日本トラホーム豫防協會	一七點	大阪 市民病院
二點	日本生命保險協會	二二九點	ライオン齒磨口腔衛生部
二點	大阪 四天王寺	二八五點	大日本消防協會
二六點	大阪 消防署	六七點	市立函館病院
二七點	函館藥劑師會	六點	函館警察署
六八點	函館市役所	五八點	函館蹴球團
二八點	日魯漁業會社蹴球團	八點	函館商業學校
一七點	函館卓球協會	一七點	春日町青年團
一點	大日本弓道會函館支部	三四點	函館體育協會弓道部

五點	市立柏野療養所	二九八點	函館藥業組合
五點	大日本私立衛生會函館支會	五點	函館師範學校
一〇點	彌生小學校	六點	新川小學校
一〇〇點	一箭會	二一九點	川口屋運動具店
三一點	森屋百貨店	一點	今井吳服店
八五點	久慈運動具店		

第三節 陳列の分擔

出品の陳列は先づ衛生部、火防部、商品部、即賣部の四部門に大別し、即賣部は協賛會は經營に委ね、商品部は出品係委員は出品勧誘、小間割等に當られ、衛生、火防兩部は各陳列室毎に擔當の特別委員を擧げて本會直營の下に陳列を系統的に、且直覺的に會得せしむる方法を執つたのであるが、其概要は次の如くである。

衛生部	第一號室	分娩と育兒	擔當委員	醫學博士 陽田 傳
	第二號室	兒童	同	醫學博士 阿部 龍夫
	第三號室	體育(一)	同	藥劑師 松谷利喜智
		體育(二)	同	函館市體育協會

火防部	第四號室	體育(二)	同	同
第一室	第五號室	保健と營養(一)	同	藥劑師 若佐 豐
人命救助	第六號室	同(二)	同	同 野田房太郎
	自第七號室至第九號室	口腔衛生	同	ライオン齒磨口腔衛生部
	第十號室	癒る結核	同	醫師 伊藤 晃彦
	第十一號室	傳染病	同	醫師 長谷川 文博
	第十二號室	直接傳染	同	醫師 俣野 純夫
	第十三號室	家庭藥	同	醫師 新田 淑郎
	別室	藥用植物	同	藥種商 濱野末吉
				岩谷平八郎 市田健太郎 細井辰五郎 齋藤長四郎



第二室	佛壇から火災
第三室	煙筒の火の粉
第四室	煙筒の取付不完全
第五室	電氣に原因する火災
第六室	提灯より火災
第七室	爐火の不始末
第八室	竈火から出火
第九室	子供の弄火から火災
第一〇室	出火通報
第一一室	出火動
第一二室	大火災
第一三室	山火事
第一四室	天ぶらの鍋に引火火災
第一五室	避難
第一六室	法廷

火防部擔當委員 二四  
室蘭消防組

星田隆光	辻廣治	佐久間茂八	吉田彦次	尾崎復治	五十嵐重助	館山新太郎	大和田主計	藤原虎治	館岡桐之助	室蘭市野真一
------	-----	-------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	--------

#### 第四節 陳列の概況

衛生、火防兩部の直營陳列は各擔當委員に於て凝らされた嶄新の意匠に基いて、自ら陳列に當たられ殊に本會の目的に鑑みられて、陳列品に一々詳細な説明筆を附けられる等周到に意を用ゐられ、加ふるに各専門の説明係委員は隨時懇切丁寧に説明せられて觀覽者を満足せしめ得たのである。

又商品部の飾窓陳列は廳立函館商業學校生徒の競技になり、一小間毎に異彩を放たれ殊に入場者の投票を懸賞募集したので宣傳として百パーセントであつた。

以下各室に於ける要部の寫眞と陳列品目録とを掲げて、出品陳列に直接間接に多大の同情と後援とを寄せられた大方各位に對し深厚なる感謝の意を表する次第である。

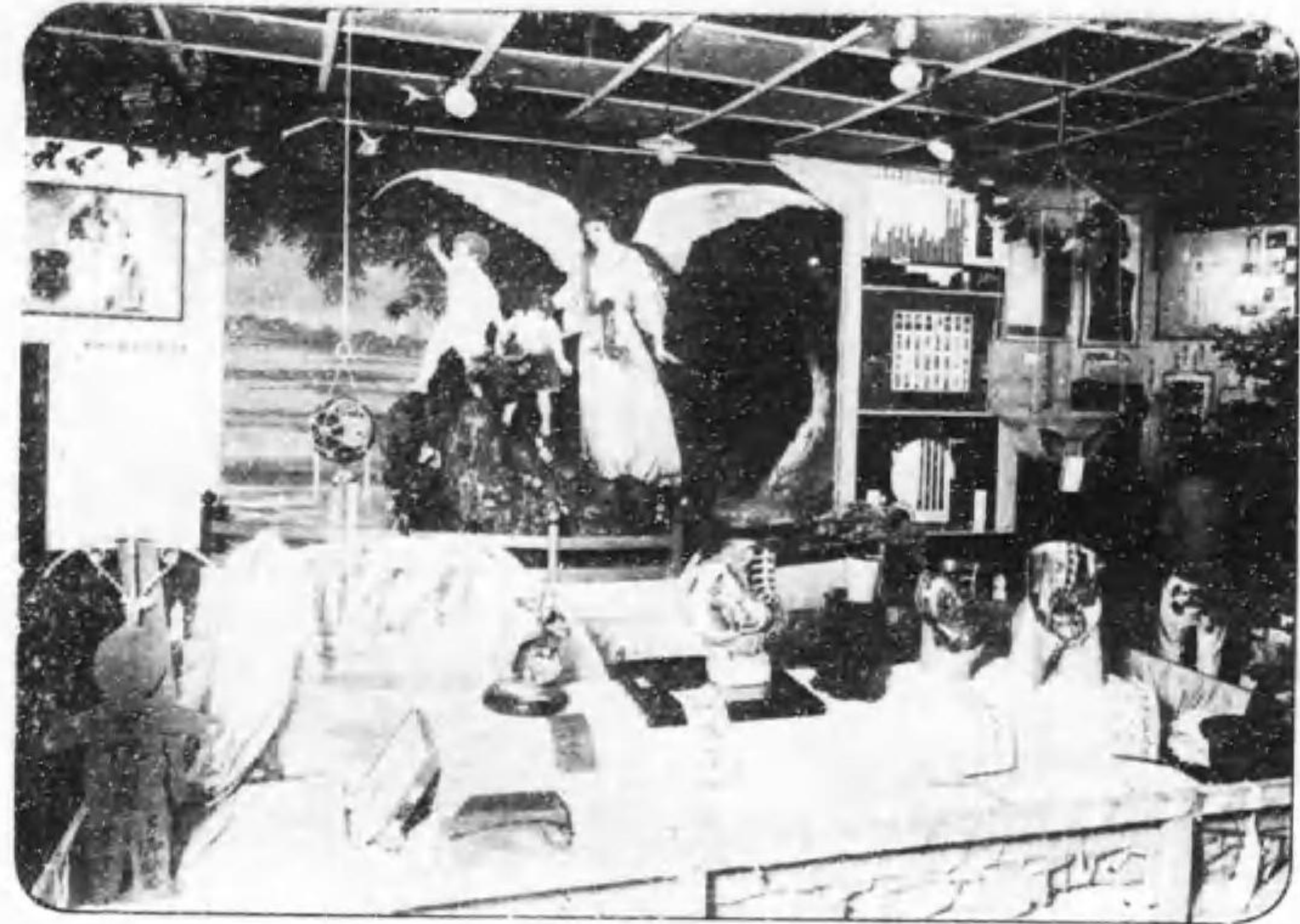
#### (一) 衛生部





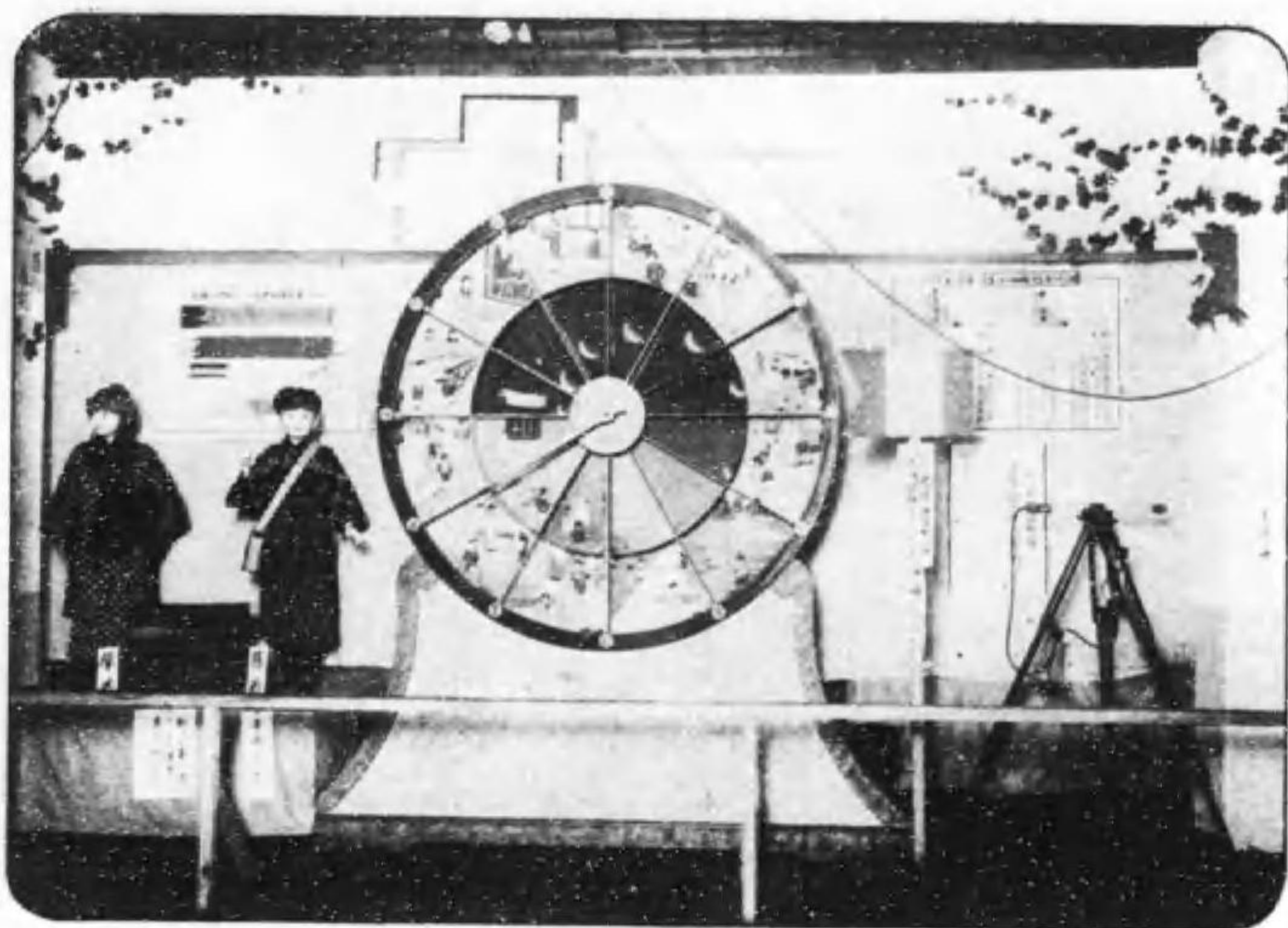
(一) 童 兒

賞 物	名 稱	童 二 號 室	點 數	出 品 人
吹物	昭和五年度函館市小學校兒童 商科診療所ニテ抜キタル乳商	函館 藥劑師會	一	
二十c.e. ビベット			一	
十c.e. ビベット			二	
試薬修酸液一〇〇〇c.e. 入			一	
ニ寸ロート			一	
一對ニフエーノルフタレン液二〇c.e.			一	
スプレー付ルンゲ氏装置			一	
ベツテンコフエル			一	
バリツト水貯槽			一	
ベツテンコフエル			一	
バリツト水貯槽架			一	
百c.e. 丸形コルベン			五	
五十c.e. ビユレット			一	



(三) 兒 育 と 娩 分

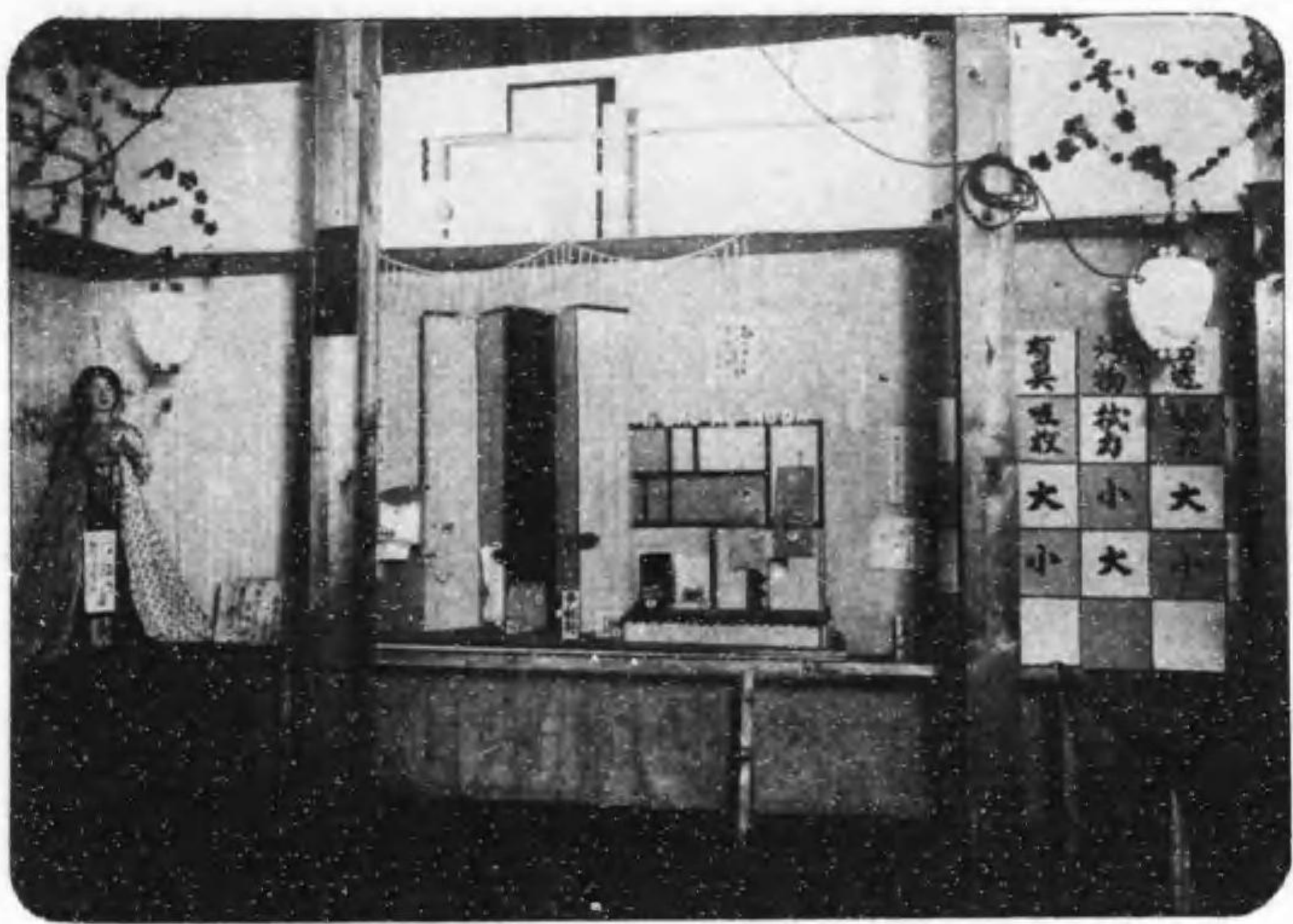
寫眞	婦人の腹部縦	妊婦の腹部縦	正子宮	胎常子宮	漏胸	漏胸	腺病性胸廓	傳染性膿疹	癩癧	小兒先天梅毒	初生兒膿眼	空腹便瀉	慢性腸カタル	胃腸カタル	大腸カタル	小腸カタル	不消化便	腸カタル	健康便	胎便	人體便	三日月型	喇叭管	
七枚市立函館病院	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
抱き方、寢方	座方の善悪	牛乳の吞ませ	方注意	兒童發育狀態	帝王切開術	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後	胎前胎後
四枚同	二枚同	七枚同	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院	市立函館病院



(二) 童 兒

模

- ビュレット架 同
- 五百定規 一〇〇〇 c.e. 同
- 炭酸曹達液 一〇〇〇 c.e. 同
- バリット水 一〇〇〇 c.e. 同
- 武榮炭酸ソーダ液 一〇〇〇 c.e. 同
- ルンゲツエツケンドルフ氏瓶 同
- 三〇〇 c.e. 細共口瓶 同
- ゴム布 同
- 寒暖計 同
- 型 同
- 衣服保温實物立體模型 展 覽 會
- 衣服人形模型(衣布付) 今 井 吳 服 店
- 電氣時計「兒童の一日」 文 部 省
- 薄着厚着人形模型(衣布付) 日 本 赤 十 字 社
- 表 同
- 衛生上より算出したる學生々徒時間表 文 部 省
- 睡眠時間の標準と實際 同
- 通學距離通學に要する時間並に携帶品 同
- 重量の標準 同
- 明治三十三年生徒と昭和四年生徒の體 同



(三) 童 兒

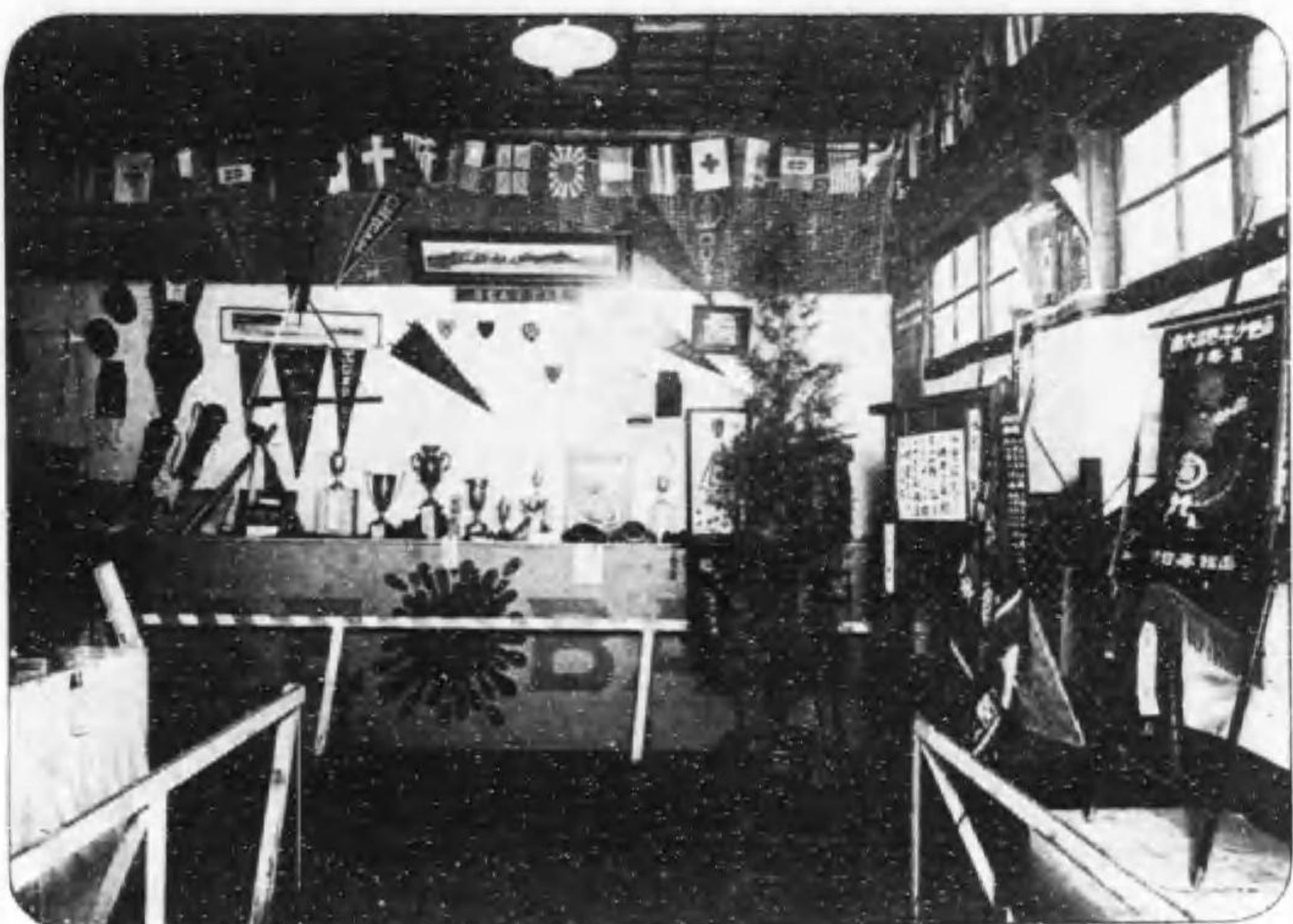
其

- 全國小學校一年生地方別身長表 同
- 函館市内小學生兒童齲齒所有者率 函 館 市 役 所
- 函館市内小學生六歳臼齲齒蝕率 同
- 函館市衛生婦手當狀況 同
- 函館市小學校兒童近視統計 同
- 函館市小學校兒童發育平均表 同
- 函館市小學校トラホーム統計 同
- 全國生徒最近十ヶ年齲齒累年比較 文 部 省
- 學生々徒及兒童最近十ヶ年「近視」累 同
- 年比較 同
- 學生々徒及兒童最近十ヶ年トラホーム 同
- 累年比較 同
- ベツテンマーフエル公式書 函 館 藥 劑 師 會
- 同 同
- ルンゲ、ツエケンドルフ氏對照表 展 覽 會
- 衣服汚染表 同
- 其 同
- 他 同
- 一日川柳 展 覽 會
- 厚着薄着歌謠詞 同
- 學校衛生歌謠詞 同
- 衣服汚染歌謠詞 同









(六) 育 體

ゲートボール	二	森屋百貨店	函館少年野球	二	函館少年野球
野球部	同	久慈運動具店	函館小學校野球	一	函館小學校野球
グロリア	同	久慈運動具店	全道棒太野球	一	全道棒太野球
ミット	同	久慈運動具店	函館選抜野球	一	函館選抜野球
フアストミット	同	久慈運動具店	球協主催函館野	一	球協主催函館野
マスケ (小)	同	久慈運動具店	球大會 (高)	一	球大會 (高)
ボリスノ野球團	同	久慈運動具店	カッパ	一	カッパ
選手サインボール	同	久慈運動具店	函館市體育協會	二	函館市體育協會
バット	同	久慈運動具店	函館教職員	一	函館教職員
タイカツバ選手	同	久慈運動具店	バレエボール大	一	バレエボール大
化粧バット	同	久慈運動具店	少年野球大會	二	少年野球大會
アロテクタイ	同	久慈運動具店	道南軟式野球	一	道南軟式野球
腰當て	同	久慈運動具店	函館少年競泳	一	函館少年競泳
スパイク	同	久慈運動具店	ハソイ	一	ハソイ
帽子	同	久慈運動具店	ニューヨーク	一	ニューヨーク
大洋クオーム	同	久慈運動具店	シカゴ大學	一	シカゴ大學
ユニフォーム	同	久慈運動具店	寫眞	一	寫眞
メダル (額入)	同	久慈運動具店	巨大なる	一	巨大なる
六大學マーク	同	久慈運動具店	ペーパーブルース	一	ペーパーブルース
優勝旗	同	久慈運動具店	荒谷野球團	一	荒谷野球團
全日本軟式野球	同	久慈運動具店	シヤトルに於け	一	シヤトルに於け
選手権大會北海	同	久慈運動具店	早大渡米軍と	一	早大渡米軍と
道支部	同	久慈運動具店	美加登朝日兩軍	一	美加登朝日兩軍
渡島少年野球	同	久慈運動具店	明治神宮外苑	一	明治神宮外苑
大會	同	久慈運動具店	野球場	一	野球場

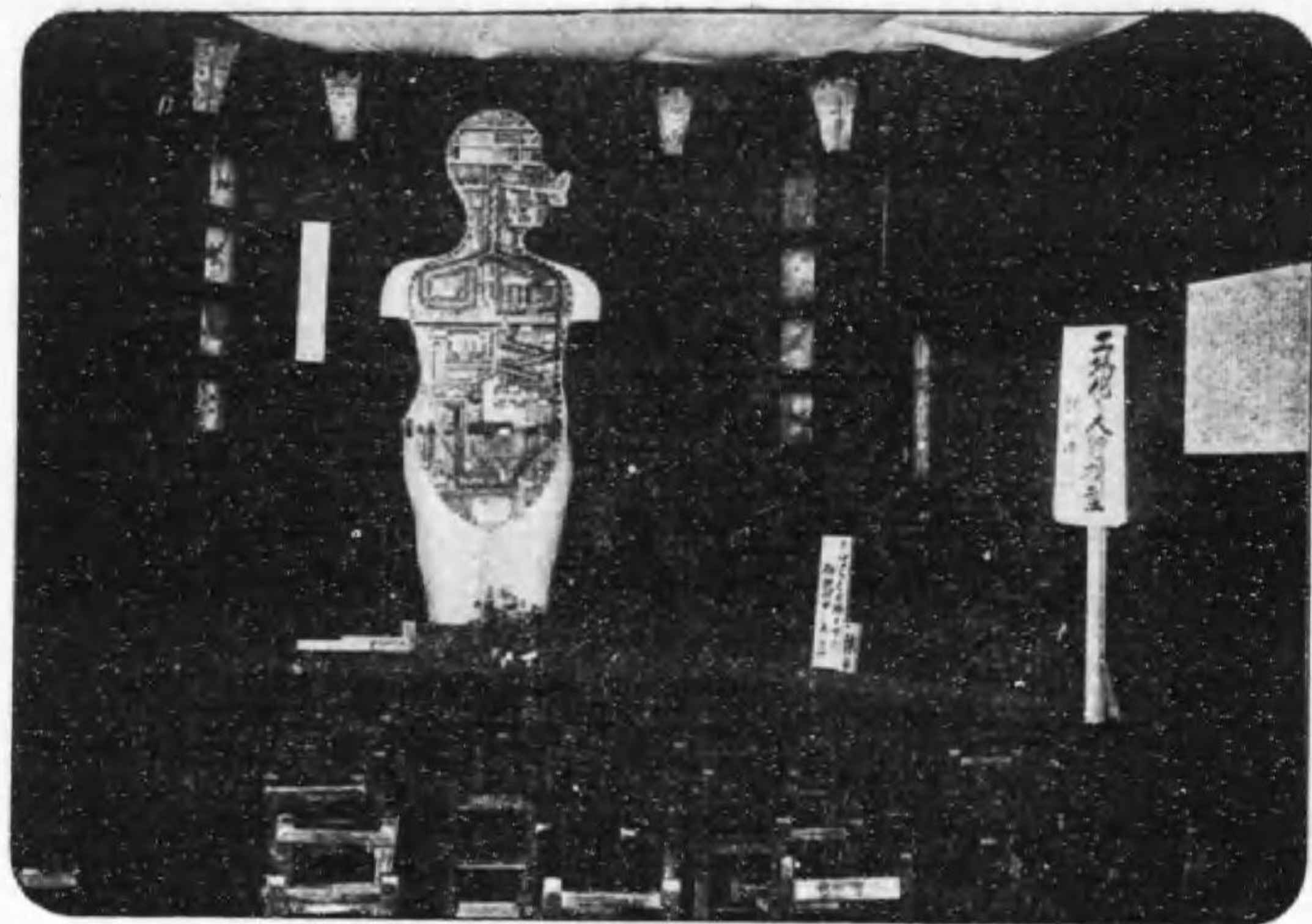
品名	点数	出品人
機上より撮影せるローマの コロシニウム フランク・フルト綜合運動場	一	文部省體育課
三角旗	一	同
早稲田大學	一	久慈運動具店
ホノルル	一	同
ユナイテッド	一	同
シヤトル	一	同
シカゴ	一	同
その他	五	同
角道部	一	古川榮八
化粧廻	一	同
行司衣裳	一	同
力士手形額	二	同
優勝旗	三	彌生新川協會
小學生相撲記念品	一	新川小學校
大日本相撲力士鏡	一	古川榮八
體育テスト用投的	一	千代ヶ岱小學校
寫眞	一	同
大角力寫眞	一	同
浦ノ濱に就て	一	同
天覽相撲	六	古川榮八

品名	点数	出品人
當ノ花引退記念 明治神宮相撲場	一	文部省體育課
圖表	一	同
大日本相撲協會役員表	一	同
同 勸進元	一	同
同 番附表	一	同
現力士詳細表	三	同
本邦女生徒(十四歳)服装の變遷と發達	一	文部省體育課
男女年齢別身長比較圖	一	同
男女年齢別體重比較圖	一	同
明治三十三年の生徒と昭和四年の生徒の身長の比較	一	生命保險 會社協會
其他	一	同
角道	二	古川榮八
天覽相撲拜記	一	同
大日本相撲協會設立趣意書	一	同
同 寄附行爲	一	同
同 寄附行爲細則	一	同
同 名簿	一	同
行司と階級	一	同
體育の「テスト」案	二	千代ヶ岱小學校
衛生訓練要目	二	同
除塵塗油の研究	一	同
學生マラソン優勝旗	一	函商競技部









(一) 生衛腔口

品名	七號室	出品人
口腔衛生パンフレット(額面)	一	東京ライオン商磨
ライオン商磨刷子を作るまで(額面)	一	口腔衛生部
商磨と商刷子	四	同
工場化せる人體生活機能電光表示	一	東京ライオン商磨
電動大模型	一	同
商刷子の運動方法	一	同
ライオン・デンタルヘルスゲーム	一	同
寫眞	一	同
兒童商科院設立者	四	同
軍隊及小學校に於ける商料設備	四	同
(ガラス寫眞)	四	同
洗面所と商刷子(ガラス寫眞)	四	同
商刷子の良し悪し	四	同
理想的な商刷子	四	同
商を磨く時	四	同
榮冠	四	同
愛商	四	同
歩哨	四	同
良心(ガラス寫眞)	四	同
其他	一	同
商に關するユーモア漫畫	一	同
商の磨き方良否	一	同
電動模型	一	同
電燈陣列箱	一	同
寫眞額入説明附	一	同
板畫	一	同



(五) 養營と健保

品名	七號室	出品人
家集群居の圖	一	内務省社會局
絶対に廢止すべき悪習慣の圖	一	同
廢すべき酒壺の交換圖	一	同
結核菌退治の圖	一	同
流水に因る結核傳染圖	一	同
手放して咳と噴嚏は禁物なる圖	一	同
注意すべき古着の一例を示す圖	一	同
寢具に因る病の傳染圖	一	同
別室汚物	一	同
實物	一	同
輕便塵芥容器	一	同
立體的自動蓋塵芥箱	一	同
模型	一	同
衛生便器	一	同
圖表	一	同
函館市塵芥一日一戸排出量表	一	函館市役所
各都市別塵芥平均排出量表	一	同
函館市排出塵芥分類表	一	同

工場化せる人體模型の説明

我々の生活機能は微妙な理化學的作用であつて、之を目のあたりに見る事は如何にしても不可能であります。世に人體の解剖學的構造に關する模型は澤山ありますが、我々の生活機能を如實に描寫して説明したものは全く無いのであります。

ライオン齒磨口唇衛生部は多年口腔衛生の研究と、其の國民的普及に全力を傾注して居りますが、今回上述の趣旨に鑑み、國民衛生教育の一助ともならん事を希ひ、前代未聞の生理的模型の製作を計畫したのであります。爾來弊部に於ては苦心を重ね、我々の生活機能を一日瞭然たらしめんが爲に、電光の明滅を以てしたる興味深い工場化せる人體大模型の完成を遂げ茲に親しく御紹介する次第であります。

神 經 系

(模型に於ける白線の場所)

御覽の通り前頭部には人間の意志の室があつて、隣接きの顛頂部には意志の傳へた命令の是非善惡を監視する理性の室があります



(二) 生 衛 腔 口

後頭部には追憶や經驗を顧みて物事を判断する室があります。以上の三つの室は恰も工場の管理者に當る所です。次に重要な任務を爲すものに腺の中樞、筋の中樞、呼吸の中樞、心臓の中樞、血管の中樞等があります。頭部の背後下にある延髄と小腦とは、電話交換局の様な仕事をするもので、大脳の命令を神經中樞に集中させ、夫々受持の神經系統に傳達する任務を帯びてゐます。

呼吸器及び循環器系

(模型に於ける橙色、赤色及び青色)

呼吸器の關門は鼻で、咽頭から胸部に、更に氣管から肺臟に達します。さて空氣中の酸素と、消化せられた營養物中の色々な分子は共に結合して熱を發生し、燃焼しますがこの兩者を結合させるものは循環系統なのです。我々の血液は、動脈により肺臟で得た酸素を營養物の蓄積した場所へ運び、そして靜脈によりこの結果發生する有毒瓦斯殊に炭酸瓦斯を吐き出す爲に再び呼吸器へと逆行するのですこの血液の運行を司るものは實に心臓です。ところで心臓に送られた血液は濾臟(濾過器)マルピギー氏小體)で高壓の下に壓搾されて血液の改造を行います。又この濾過装置に身體の警官とも言ふべき多數の白血球が集合してゐて、中を流れる血液に運ばれて出で去ります。そして血液の他の部分はタービン(渦輪)調帯の方へ流れて行きます血液は總ての骨髄の中にも入ります、殊に四肢の大なる長骨内に入つて赤血球の供給を受けます。又他の血液は腎臟に入り、濾過装置を通つて廢棄物殊に肝臟から流れ出る尿素を排出して小便を造り、膀胱の中へと滴下します。

消 化 器 系

(模型に於ける黄色及び褐色)

消化器の出発點は口で、食道から胃へ、胃から腸へ、腸から肛門へと通ずるのです。食物は先ず裁斷器(切齒)によつて咬み切れ、ローラー(臼齒)で細々に碎かれて、唾液に混つてどろどろになり、少量づつ嚥み込まれます。胃の中では先づ第一に鹽酸によつて消毒され、第二に食物中の蛋白質を分解するペプシンの作用を受け、第三に脂肪を消化する胃酸の作用を受けます。かうして食粥は幽門の方へ移り、少しづゝ腸へと送られるのです。腸内では胆汁、唾液、腸液といふ三種の消化液が合流して、胃から送られて來たものを更に消化します。そして食粥は是等の作用によつて、脂肪、蛋白、糖分等の營養素が夫々溶解し易い分子に分解せられ、腸壁の孔を通つて腸管を去るのです。そして脂肪は乳糜管を通つて胸部に流れて行く靜脈に送られます。蛋白質と糖分は腸から血液に合流する前に肝臓を通過して検査を受けるのです。殊に注意すべきは糖分が水に溶解し易い爲に肝臓の細胞から流れ出るのを防ぐ方法として、不溶性性の澱粉の形に變へて肝臓に貯藏される事です。その他肝臓は蛋白質の價値を調べ、不用なものは尿素とし、又毒素を破壊して血液細胞の整理をする等實に大切な役目をします。

斯くの如くして營養物は關係臓器内に送られ夫々血液中の酸素と共に燃焼し活動の緒につきます。この様に我々の生活機能は呼吸器によつて吸入されて空氣と消化器によつて攝取せられた營養物との、微妙な共同作業によつて始めて回滑に活動するものであります。



(三) 生 衛 腔 口

品名	點數	出品人
口腔衛生(二)八號室	一	東京ライオン齒磨
齒磨體操(電動)	一	口腔衛生部
乳齒上下顎	一	
乳齒吸收不全	一	
永久齒上下顎	一	
六歳臼齒に依る頰部膿瘍	一	
齶齒の臼齒	一	
チフテリア幼兒の口	一	
健全な臼齒	一	
潰瘍性口内炎	一	



(四) 生衛腔口

品名	点数	出品人
健全商交換	一	東京ライオン商磨 口腔衛生部
單純性口内炎	一	同
齲齒交換	一	同
驚口瘡	一	同
齒と妊娠	一	同
齒槽膿漏初期	一	同
同 末期	一	同
寢る前齒を磨かない時の細菌	一	同
寢る前齒を磨いた時の細菌	一	同
圖表		
齒に関する掛圖	四五	東京ライオン商磨 口腔衛生部



(五) 生衛腔口

品名	点数	出品人
口腔衛生(三) 九號室		
實物		
齒に関する呪	三	東京ライオン商磨 口腔衛生部
寫眞		
土人と齒	一〇	東京ライオン商磨 口腔衛生部
齒に関する呪	六	同
圖表		
齒に関する掛物川柳と俳句	一二	東京ライオン商磨 口腔衛生部
齒に関する傳説(畫額)	一四	同
植物と齒	一五	同
其他		
錦繪に現れた楊子	六	東京ライオン商磨 口腔衛生部
齒に関する通俗漫畫	一〇	同
齒に関する繪馬	四	同



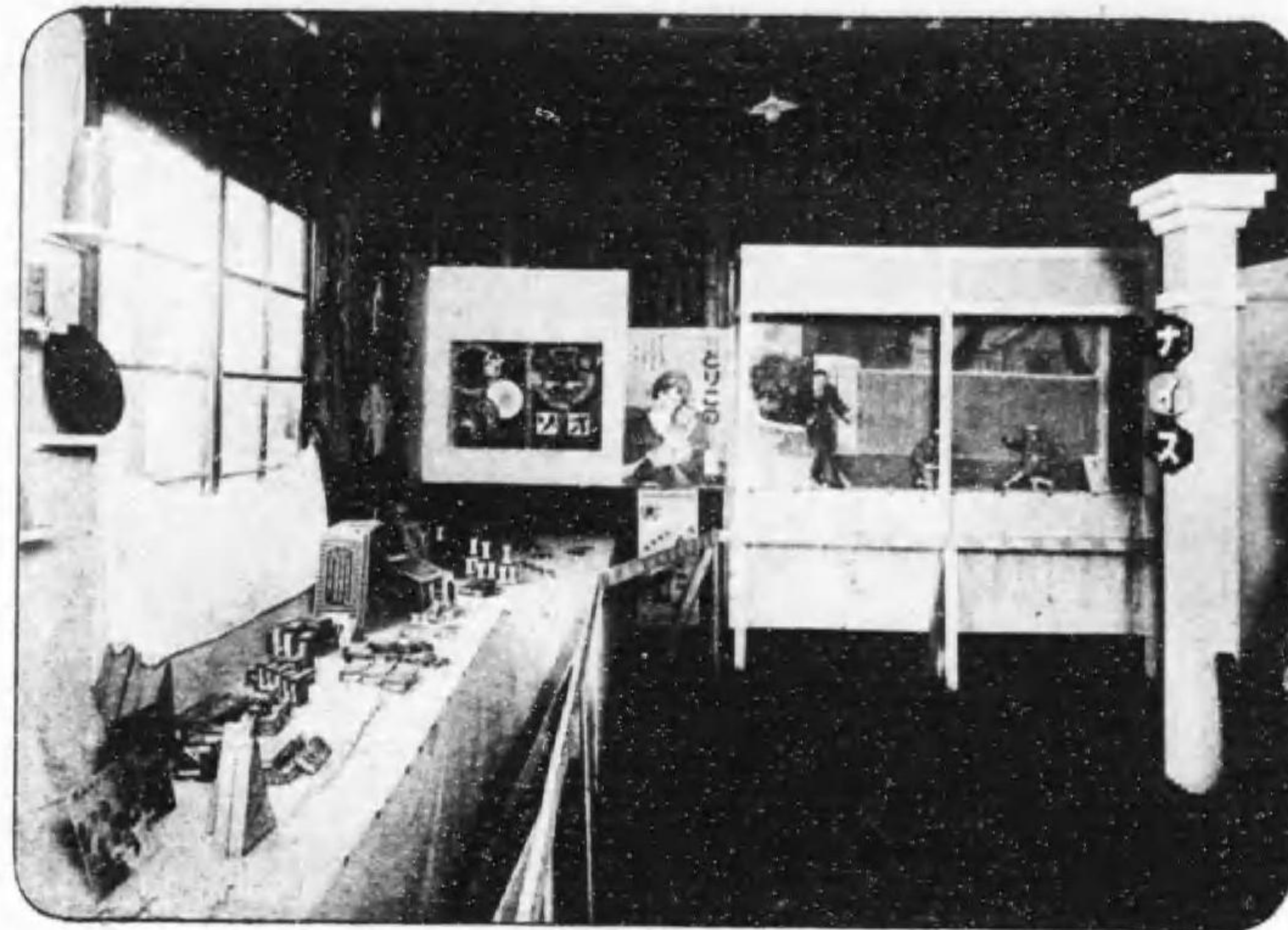




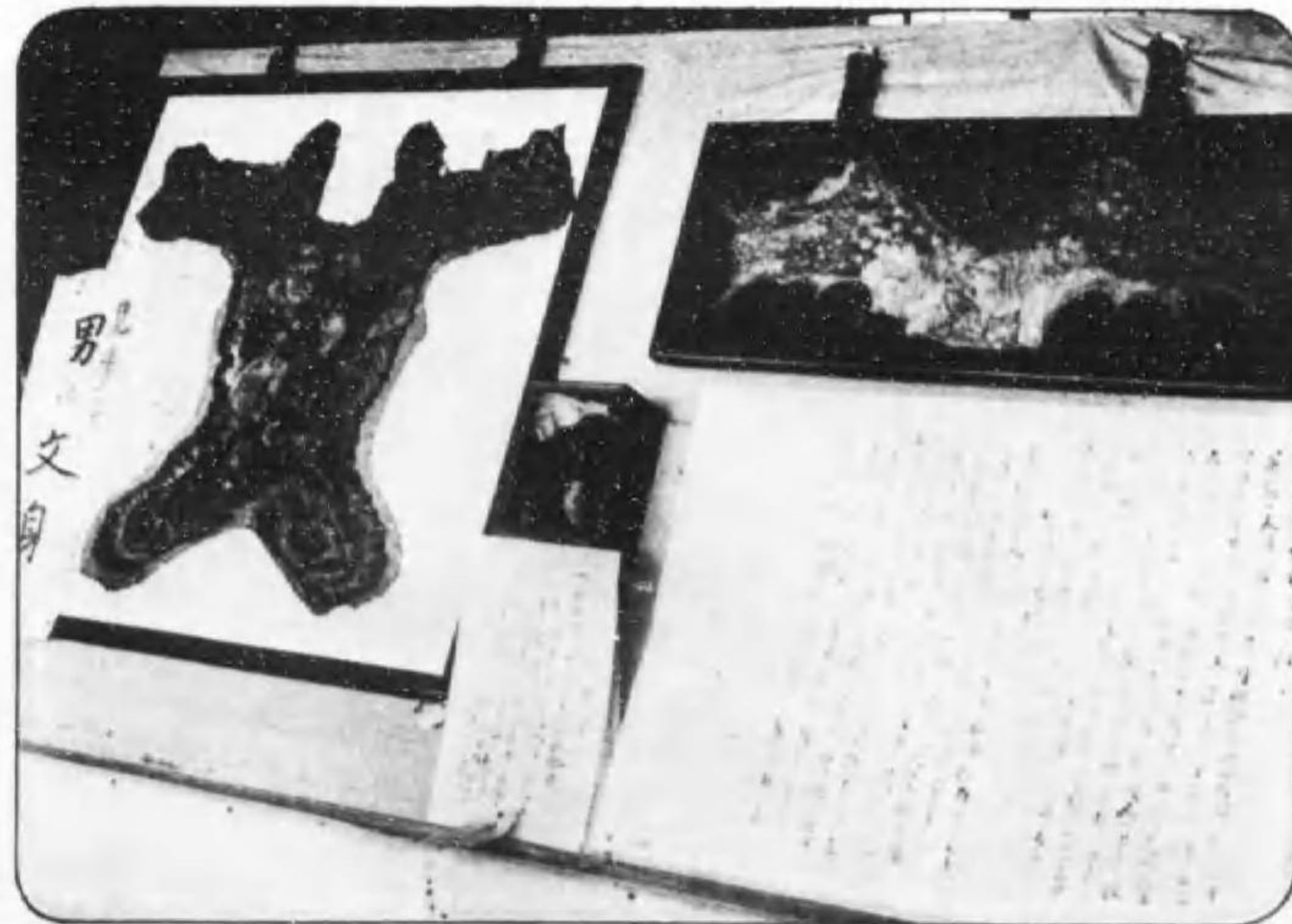








(三) 藥 庭 家



(列陳室號二十) 品 考 參



(二) 藥 庭 家

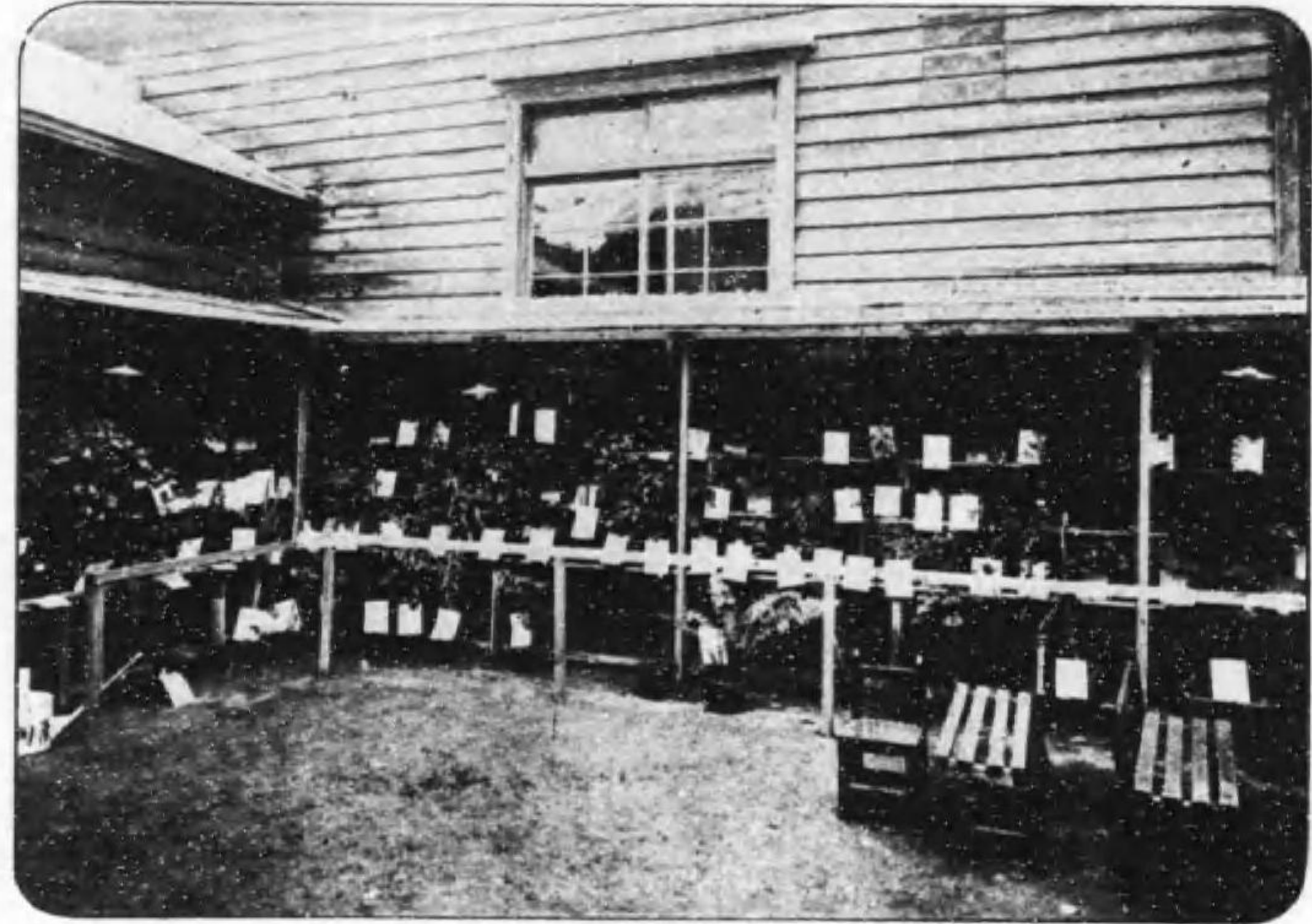
以下ボスター 若やなぎ (ボスター)	二	函館藥業組合
牛黄同	一	同
ノバミドン錠	一	同
四割ラツクンス	一	同
健胃固腸丸	一	同
モスキート	一	同
るり羽	一	同
プロチン	一	同
ダモラ	一	同
シツカロール	一	同
オゾ	一	同
ドリコノ	一	同
ハゲシラズ	一	同
ポリタミン	一	同
日ノ本メンタム	一	同
カモ牛の ハイトリ紙	一	同
ボラギノール	一	同

サロメチール	一	同
チミツシン	一	同
キノミール	一	同
ボンホリン	一	同
蜂蜜葡萄酒	一	同
ナイス	一	同
バイエル	一	同
ソマトーゼ	一	同
コリフィン	一	同
ボンボン	一	同
ポリタミン人形	二	同
ナイス額	一	同
ヨウモト ニツク額	一	同



(一) 物 植 用 藥

名 稱	藥 用 部	効 用	名 稱	藥 用 部	効 用
イワオモタ	葉	五淋白濁(外)	クシヤクシ	葉	疥毒
ワラビ	同	痔利尿解熱	ダシヤクシ	葉	疥毒
ラシダ	同	リユウマチ	ウキグサ	同	利尿毒瘡
ニラ	全根	癩蟲驅除	ヒカゲカク	花	癩癩部撒布
ノビル	同	強壯止血(外)	イロヒバ	全	下血脱肛通經
キボシ	同	補血催眠(外)	アカマツ	葉	不老強壯
ウバユリ	同	瀉毒	イロヒバ	葉	同
ワスレクサ	葉花	解熱緩和	朝鮮マツ	實仁	毒瘡洗滌
テンモント	根	鎮痛強壯利尿	クロマツ	葉	強壯
ウヤガヒゲ	同	祛痰、解熱	イチヨウ	葉	心腎脾胃強壯
ヤアラシ	同	祛痰、解熱	ガマノホ	同	脚氣鎮痛
アマナ	同	症瘧面腫	ゼンマイ	葉	止血收斂
スイセン	同	瀉毒	トクサ	全	水腫脚氣淋病
ナツスイセ	同	瀉毒	ミクリ	全	水腫脚氣淋病
ホコリ	實根	血止ヒマアカ	ヒルムシロ	全	心汗滑血(久)
エビネ	根	血の道	クワイ	根	服禁
ツチアケビ	實	淋病止痛	サジマモダ	同	產後血悶(多)
ドクダミ	全	變質瀉毒	カサノスマ	根	食嚴禁如婦食
クサノテツ	全	瀉毒	ウマノスマ	根	強壯利尿(多)
ヤツメラン	全	瀉毒	クサノスマ	根	解熱喘息痔瘻
シ、ガシラ	全	瀉毒	ハトムギ	實	(多服禁)
			ヨシ	根	健胃利尿鎮痛



(二) 物 植 用 藥

名 稱	藥 用 部	効 用	名 稱	藥 用 部	効 用
マコモ	同	治淋帶下鎮痛	カラス	同	鎮吐祛痰胃疸
シロモロコ	根	利尿	ビシヤク	同	鎮痛外用
モロコシキ	實根	下痢利尿	セキシヨウ	根	強壯内臟皮膚
カヤツリ	全	祛痰脚氣	ミヅバセウ	全	發汗利尿
アカガ	生	瀉毒	ツユクサ	葉	利尿通便
ハハキ	實	瀉毒	アマトコロ	同	滋養強壯
ツルナハマ	葉	瀉毒	ナルコユリ	同	同
チシヤ	葉	瀉毒	オモト	根	腫毒疔瘡牙痛
ヒユ	葉	解熱驅風眼強	スブラン	全	強心
イノコヅチ	根	收斂	サルトリイ	根	痛風微毒腰痛
ケイトウ	葉	赤痢痔疾眼強	ヤナギ	葉	吐血咯血(外)
ヤマゴボウ	根	水腫利尿	コリヤナギ	皮	金瘡腫商
スベリヒエ	葉	大小便通治淋	カハヤナギ	皮	金瘡(外)
ハコベ	葉	催乳胃腸調氣	ドンダリカ	皮	(外)乳痛金瘡
ツメクサ	全	生汁瘡傷齒痛	シハ	皮	腫腫瘡
ハス	葉	利尿小兒乳積	ヤマクハ	根	赤白痢驅蟲
スゲ	塊根	解熱強壯止血	ホツボ	實	祛痰利尿
コンニャク	同	通經祛痰	イラクサ	全	健胃消化
シヨウブ	同	病利イレキ淋	アサ	實	鎮痛利尿通經
ヘビノタイ	同	健胃耳日強壯	ムカゴイラ	全	鎮痛利尿
			イヌタデ	同	下毒蠅驅除
			ギシギシ	同	血の道痔瘻
			イタドリ	根	頭瘡
			ニハヤナギ	全	利尿通經
					淋病霍亂黃疸

名稱	藥用部	効用
イシミカワ	根	止痛生汁毒刺蛇毒
ヘビイチゴ	全	腸カタル赤痢通經
ハマナス	花	生汁(外)火傷諸瘡
ノバラ	根	遺尿口瘡
キンミヅヒキ	同	止痛腹痛強壯
モモ	葉花仁	止血鎮吐痔瘡
ワレモコウ	根	補血強壯
イチゴ	實	食傷霍亂
サカタ	木皮	嘔吐腹痛魚毒
ハギ	葉	暈逆上中毒
サイカチ	果皮	中氣疝氣
クアラ	根	害蟲驅除變質驅毒
ネム	全	眼病一切
クズ	根	風濕一切酒毒驅
ホド	根	強壯解熱催吐
ハマエシドウ	根	凍傷解熱催吐
フジ	花	強心劑胃痛
ユキノシタ	全	耳ダレ頭瘡水泡
トリノアシ	根	(生)漆腫毒刺
スミレ	全	頭痛感冒
ニシキギ	葉	通經ヒステリー
トチ	根	茶代用止痛(胃腸)
トチ	根	外鎮痛
ホウセンカ	種子	解毒
ブドウ	全	益氣利尿強壯
ツタ	同	産後血結未帶下

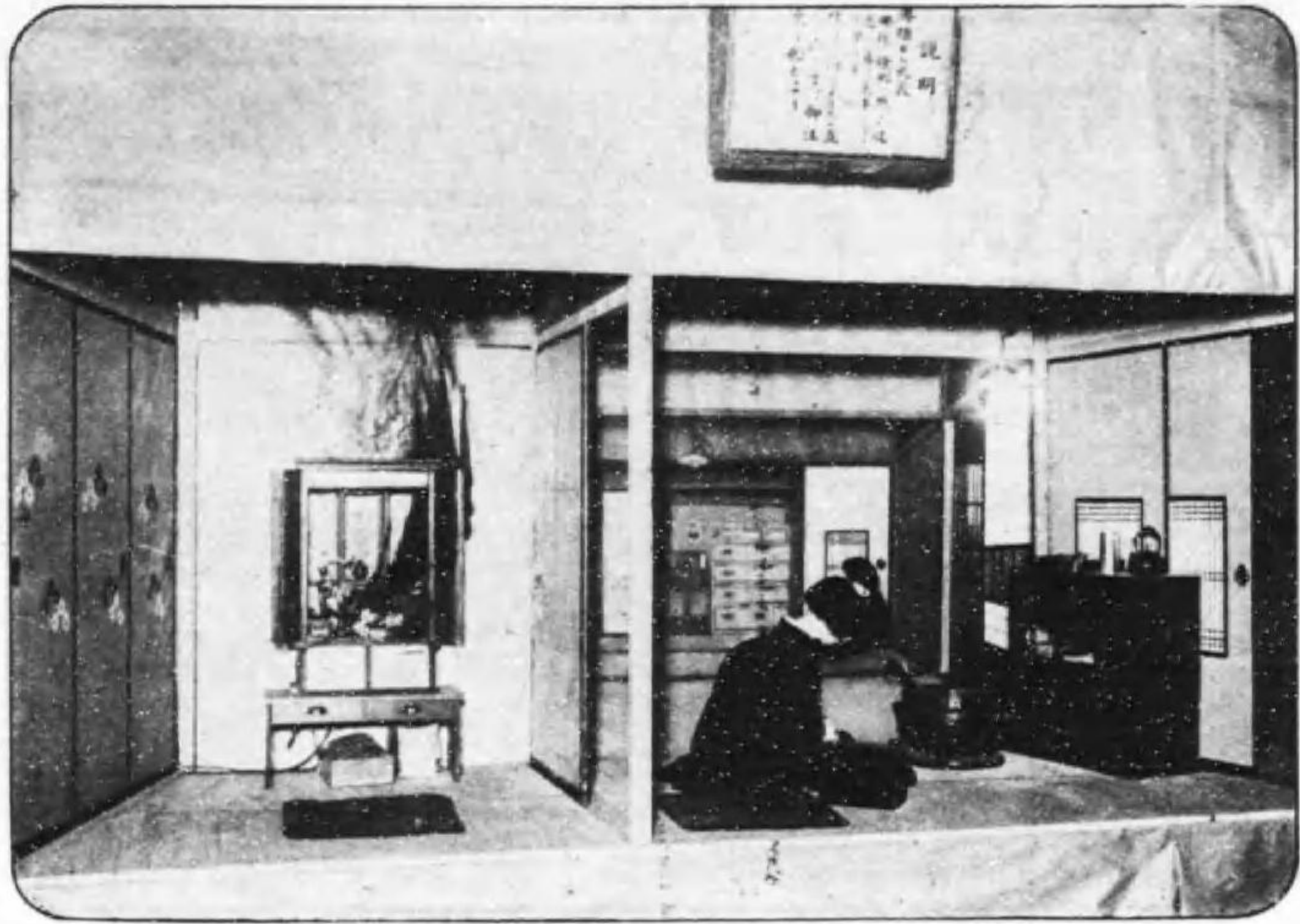
名稱	藥用部	効用
エビヅル	蔓	眼病緩下劑腫毒
カラアオヒ	根	鎮咳淋病
ムクゲ	花	心肝痛
フヨウ	同	痛下痢
イチビ	同	痲瘋中風血の道
サトナシコク	同	痲瘋中風血の道
ワ	同	痲瘋中風血の道
ツゲ	同	痲瘋中風血の道
アジサイ	同	痲瘋中風血の道
ソテツ	同	痲瘋中風血の道
オトギリサウ	同	痲瘋中風血の道
グミ	同	痲瘋中風血の道
ウコギ	同	痲瘋中風血の道
トリトマラズ	同	痲瘋中風血の道
クコ	同	痲瘋中風血の道
ウド	同	痲瘋中風血の道
ドクゼリ	同	痲瘋中風血の道
ボウフウ	同	痲瘋中風血の道
ノダケ	同	痲瘋中風血の道
ヤンキユウ	同	痲瘋中風血の道
センゼリ	同	痲瘋中風血の道
キンボウケ	同	痲瘋中風血の道
キンボウケ	同	痲瘋中風血の道
タガナシ	同	痲瘋中風血の道
オハレン	同	痲瘋中風血の道
ハコボシ	同	痲瘋中風血の道
シヤクヤク	同	痲瘋中風血の道

名稱	藥用部	効用
トリカブト	同	鎮痛強壯
ボタン	同	鎮痛強壯
チドメグサ	同	鎮痛強壯
メドハギ	同	鎮痛強壯
ゲンノショウコ	同	鎮痛強壯
カタバミ	同	鎮痛強壯
アサミ	同	鎮痛強壯
イヌサンショ	同	鎮痛強壯
ヘンルイタ	同	鎮痛強壯
ヒメハギ	同	鎮痛強壯
タカ	同	鎮痛強壯
トウダイ	同	鎮痛強壯
ドクウツギ	同	鎮痛強壯
チドメクサ	同	鎮痛強壯
ツボクサ	同	鎮痛強壯
ホタルサウ	同	鎮痛強壯
シヤクナギ	同	鎮痛強壯
サクラサウ	同	鎮痛強壯
イカリソウ	同	鎮痛強壯
トクモジ	同	鎮痛強壯
クロモジ	同	鎮痛強壯
ケシ	同	鎮痛強壯
クサノオウ	同	鎮痛強壯
ソサビ	同	鎮痛強壯

名稱	藥用部	効用
キリンサウ	生	諸瘡
イレンゲ	葉	諸瘡
ベンケイサウ	同	諸瘡
カハラサイコ	同	諸瘡
ヤマフキ	同	諸瘡
カハネ	同	諸瘡
イチハツ	同	諸瘡
サフラン	同	諸瘡
ホウ	同	諸瘡
コブシ	同	諸瘡
ノコギリソウ	同	諸瘡
ウツハ	同	諸瘡
ヨメナ	同	諸瘡
ヤブタバコ	同	諸瘡
ヒキイヌ	同	諸瘡
ヨモギ	同	諸瘡
チサ	同	諸瘡
三七	同	諸瘡
キク	同	諸瘡
ムシヨケギク	同	諸瘡
ハンゴンソウ	同	諸瘡
ボコリダケ	同	諸瘡
サルノコシカ	同	諸瘡
エフリコ	同	諸瘡
メウガ	同	諸瘡
シヨウガ	同	諸瘡
テウセンアサ	同	諸瘡
ガホ	同	諸瘡

名稱	藥用部	効用
イヌホソク	葉	頭痛解熱鎮咳眼疾
ハダカホソク	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
クバ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
クバインソウ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
オハバコ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ムクゲ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ニハトコ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
キンギンボク	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
オミナメシ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ヘチマ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ヘウタン	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ヤマノイモ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
トコロ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
マツヨヒクサ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ヒシ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
サボテン	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ハハトリグサ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
クマツバ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
オシロイバナ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ゴマ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ヤドリキ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
イケマ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ヒルガホ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
アサガホ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ネナシカツラ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
ムラサキ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾
シロネ	同	頭痛解熱鎮咳眼疾

名稱	藥用部	効用
カントリクサ	同	小兒瘧疾解熱
ウツボクサ	同	小兒瘧疾解熱
カウジユ	同	小兒瘧疾解熱
ハタカ	同	小兒瘧疾解熱
シソ	同	小兒瘧疾解熱
エゴマ	同	小兒瘧疾解熱
ホウナリ	同	小兒瘧疾解熱
センナリ	同	小兒瘧疾解熱
同イボタノキ	同	小兒瘧疾解熱
ツリカネニン	同	小兒瘧疾解熱
ツルニンジン	同	小兒瘧疾解熱
ウツボクサ	同	小兒瘧疾解熱
タニヤウ	同	小兒瘧疾解熱
オニヤウ	同	小兒瘧疾解熱
ヒメアザミ	同	小兒瘧疾解熱
フキ	同	小兒瘧疾解熱
ヨモギ	同	小兒瘧疾解熱
オナモミ	同	小兒瘧疾解熱
メナモミ	同	小兒瘧疾解熱
シラネ	同	小兒瘧疾解熱
カハラクサ	同	小兒瘧疾解熱
モギ	同	小兒瘧疾解熱
ツルニガナ	同	小兒瘧疾解熱
カハラクサ	同	小兒瘧疾解熱
キンセンクワ	同	小兒瘧疾解熱
タウコギ	同	小兒瘧疾解熱
シヅカシハ	同	小兒瘧疾解熱
センフリ	同	小兒瘧疾解熱
バンヤ	同	小兒瘧疾解熱

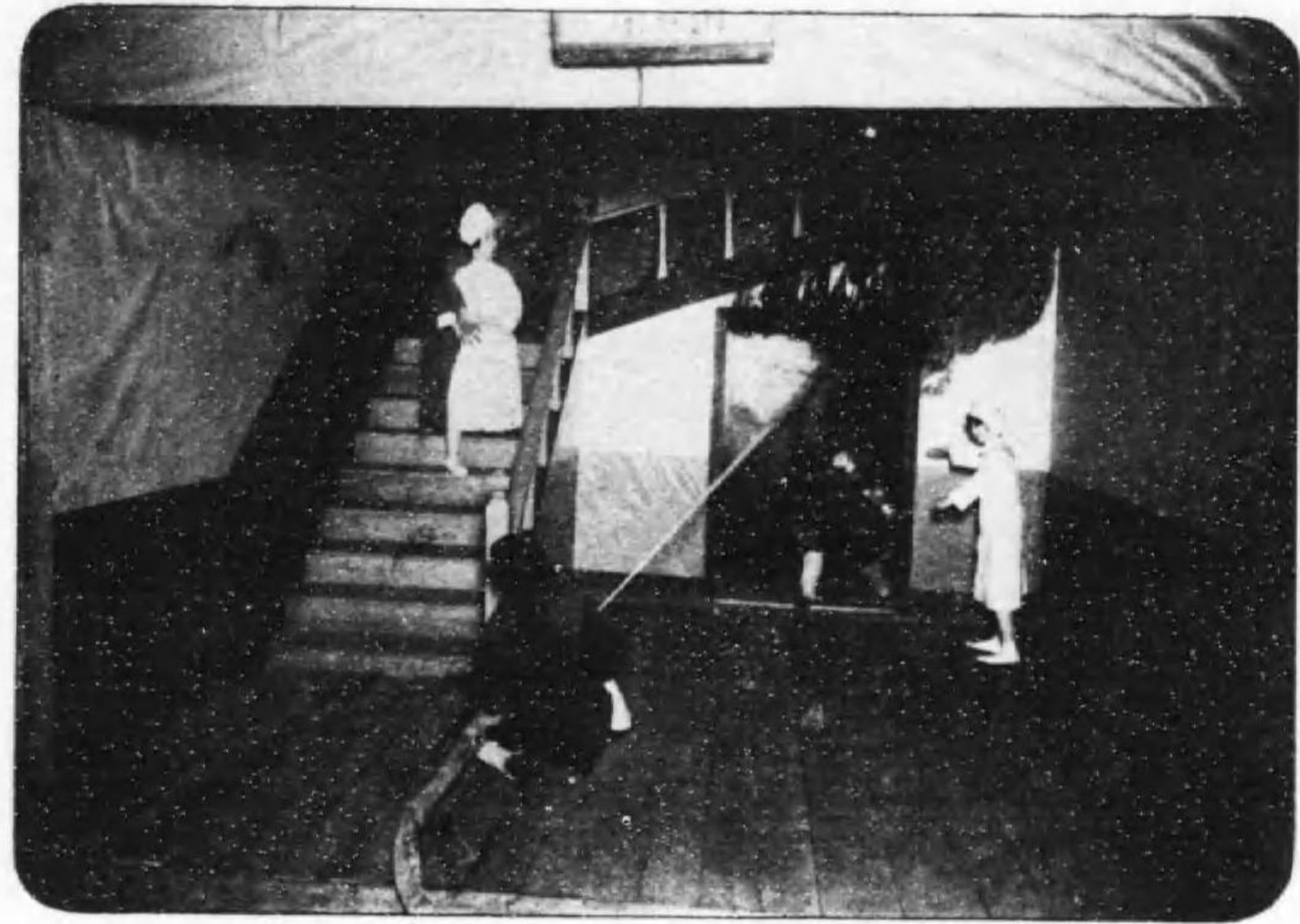


佛壇から火災

2. 佛壇から火災

説明

佛壇の燈明を點した儘忘れて居ると火事になります。  
 禮拜が済みましたら直ぐに消す事に御注意願います。



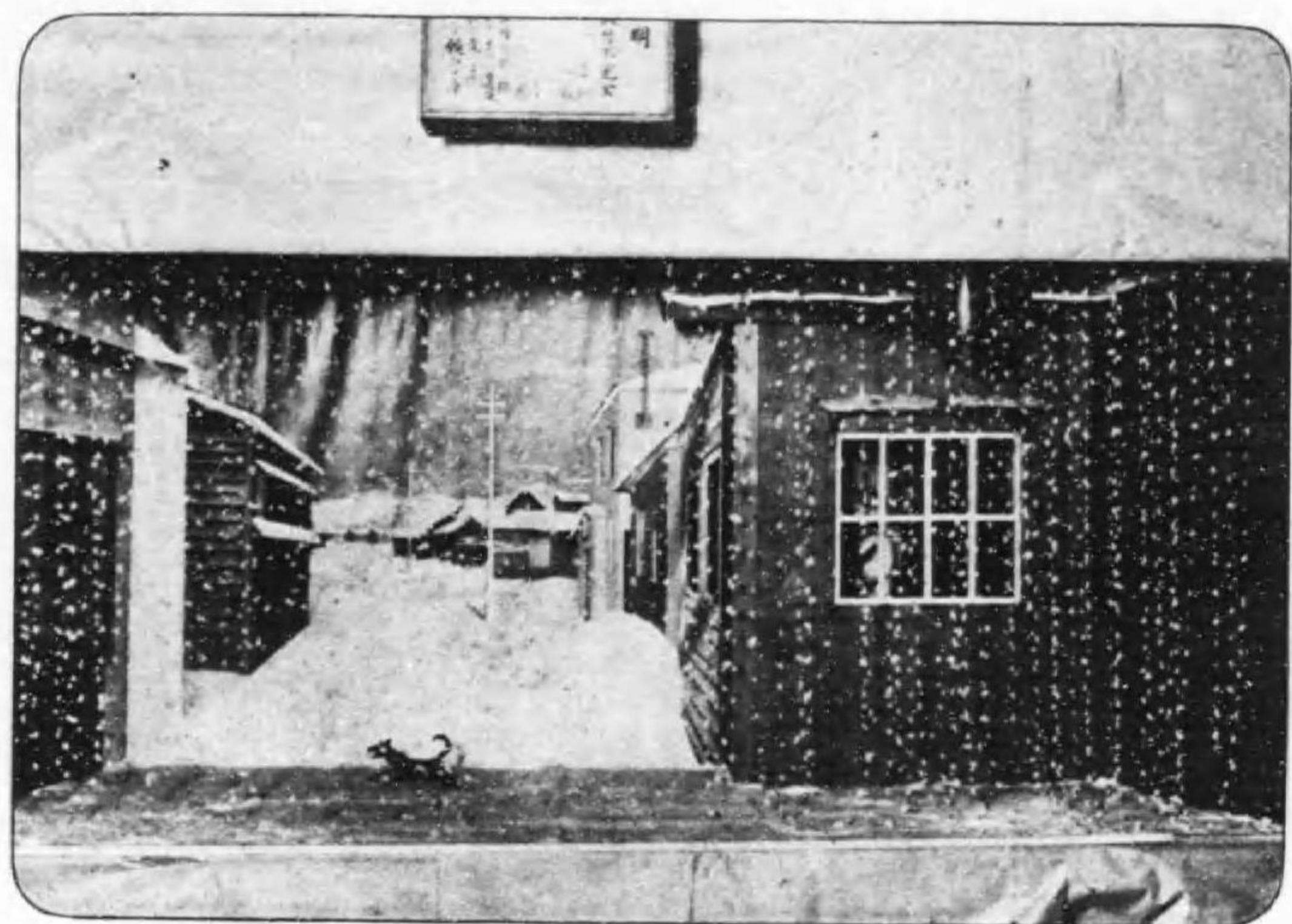
人命救助

(二) 火防部

人命救助

説明

病院の炊事場から發火し忽ち階下一面の火となつたのであります。  
 一消防手は猛火の中より逃げ遅れたる子供を救助して居る有様であります、又一方患者は看護婦の手に依り或は單獨にて避難しつゝある状況であります。  
 學校若くは病院等は勿論斯る場合は迅速に避難し得る様平常訓練して居らねばなりません。



煙筒の取付不完全

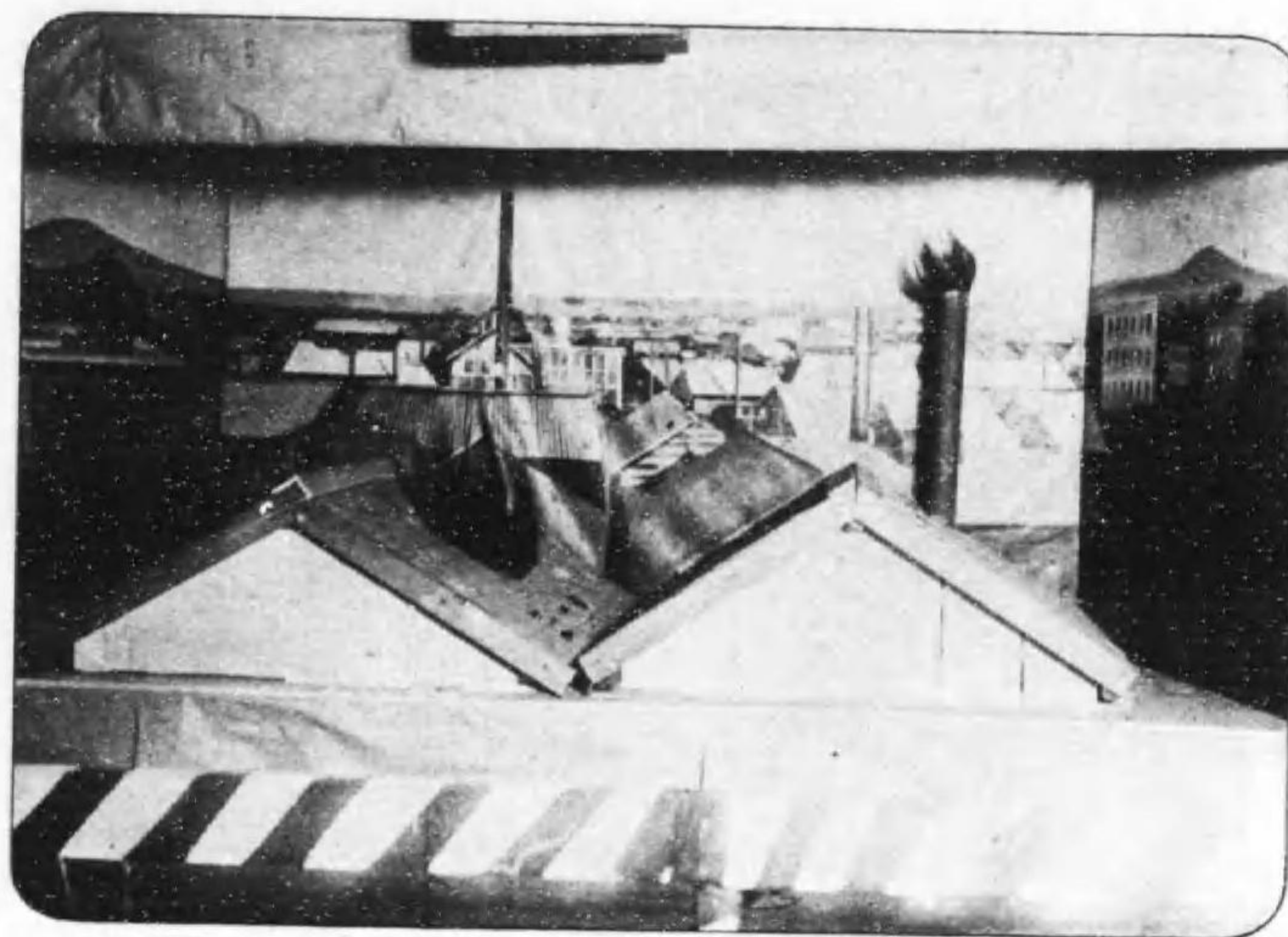
説明

4. 煙筒の取付不完全

煙筒の通過する途中燃質物と接近したり又は取付を粗漏にしたりすると火事になることがあります。

皆さん煙筒の取付は廳令煙筒取締規則に依らなければなりません違反すると處罰を受けます、御注意を願ひます。

×



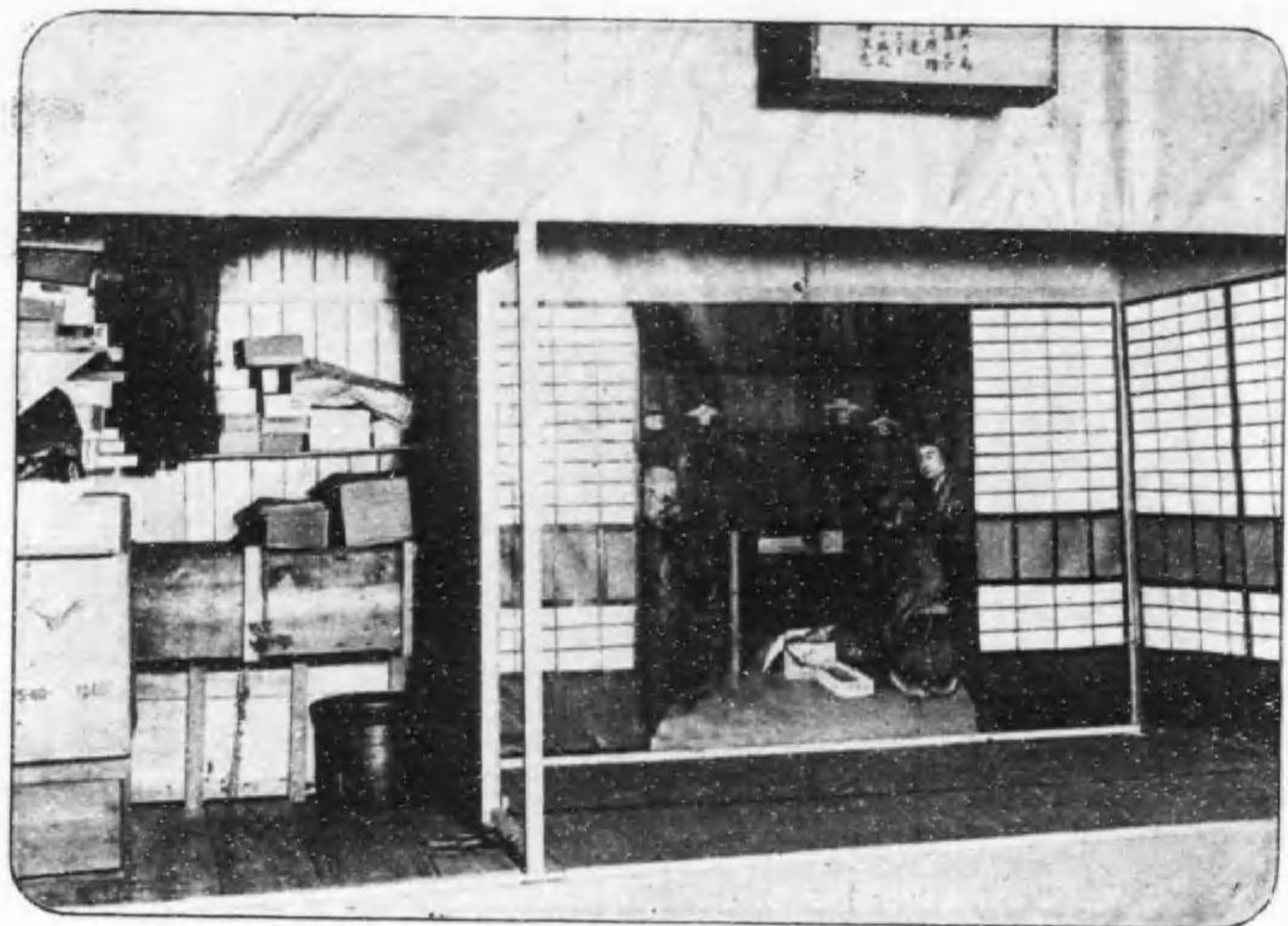
煙筒の火の粉

説明

3. 煙筒の火の粉

煙筒の火の粉屋根に落ちますと火事になることがよくあります。殊に葺屋根は危険です、皆さん掃除を怠らないやうにして下さい。





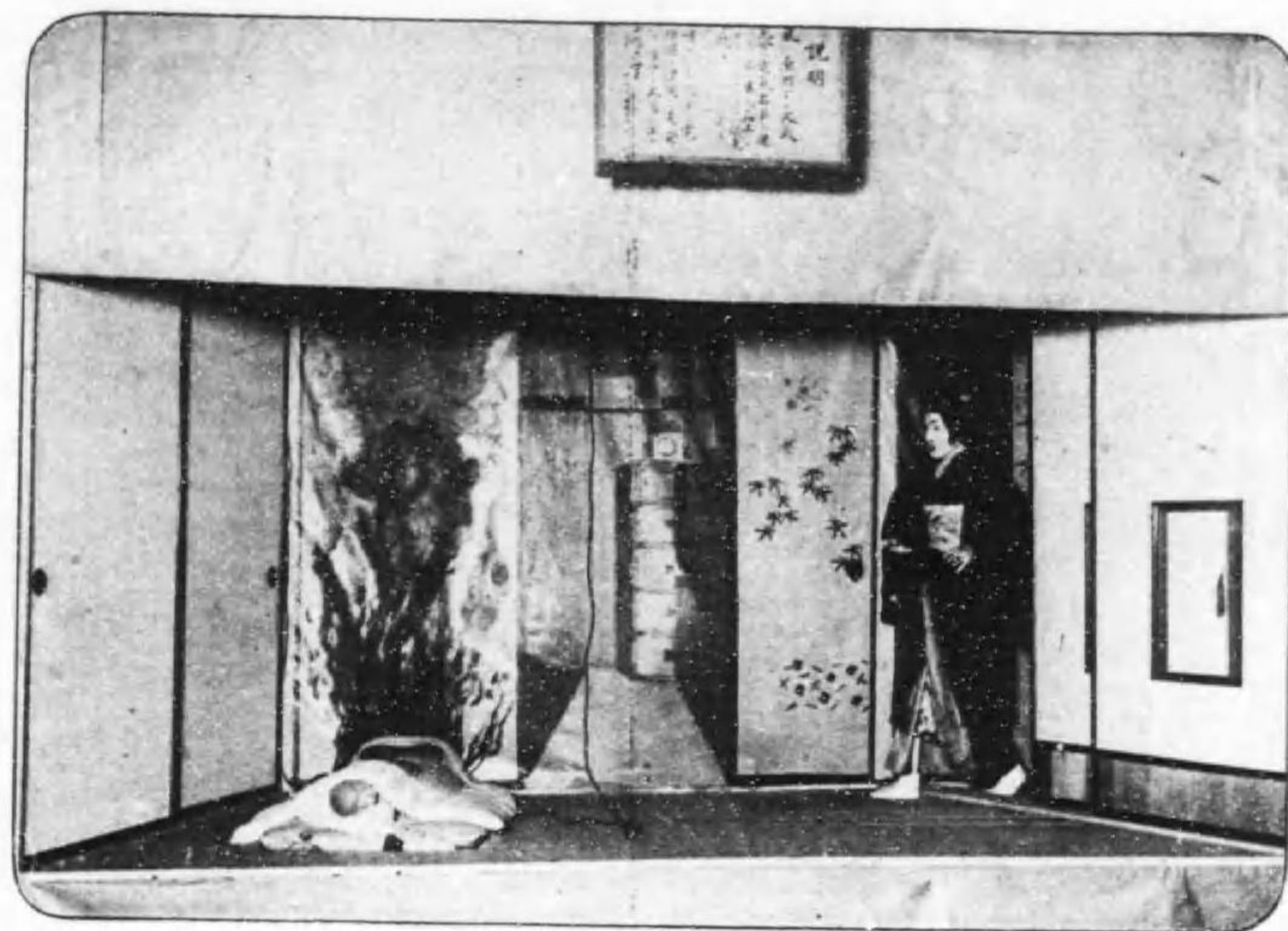
提灯より火災

説明

6. 提灯より火災

雑貨商店に於て商品置場に提燈を置き忘れ  
其儘店頭にて客と應接中提燈より發火し遂  
に火災となつたのであります。  
皆さん提燈は決して點火放しをしない様御  
注意を願まひす。

×



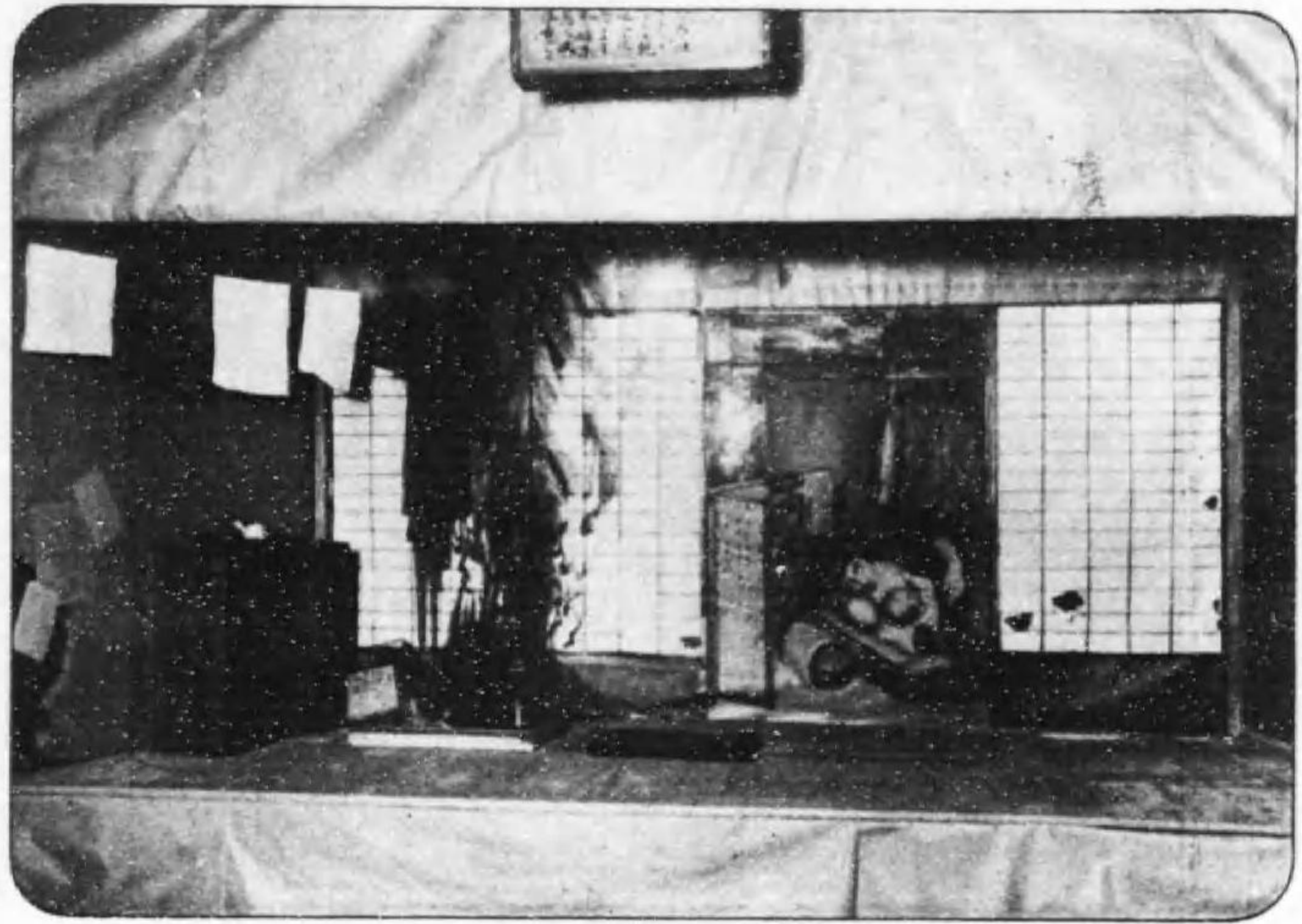
電氣に原因する火災

説明

5. 電氣に原因する火災

不完全の電氣器具を使用したり又は素人が  
加工したりすると、とんでもない間違ひを  
起すことがあります。慎まねばなりません。  
此婦人は不完全な電氣炬燵を使用し遂に發  
火いたし子供を火傷に至らしめたのです。

×

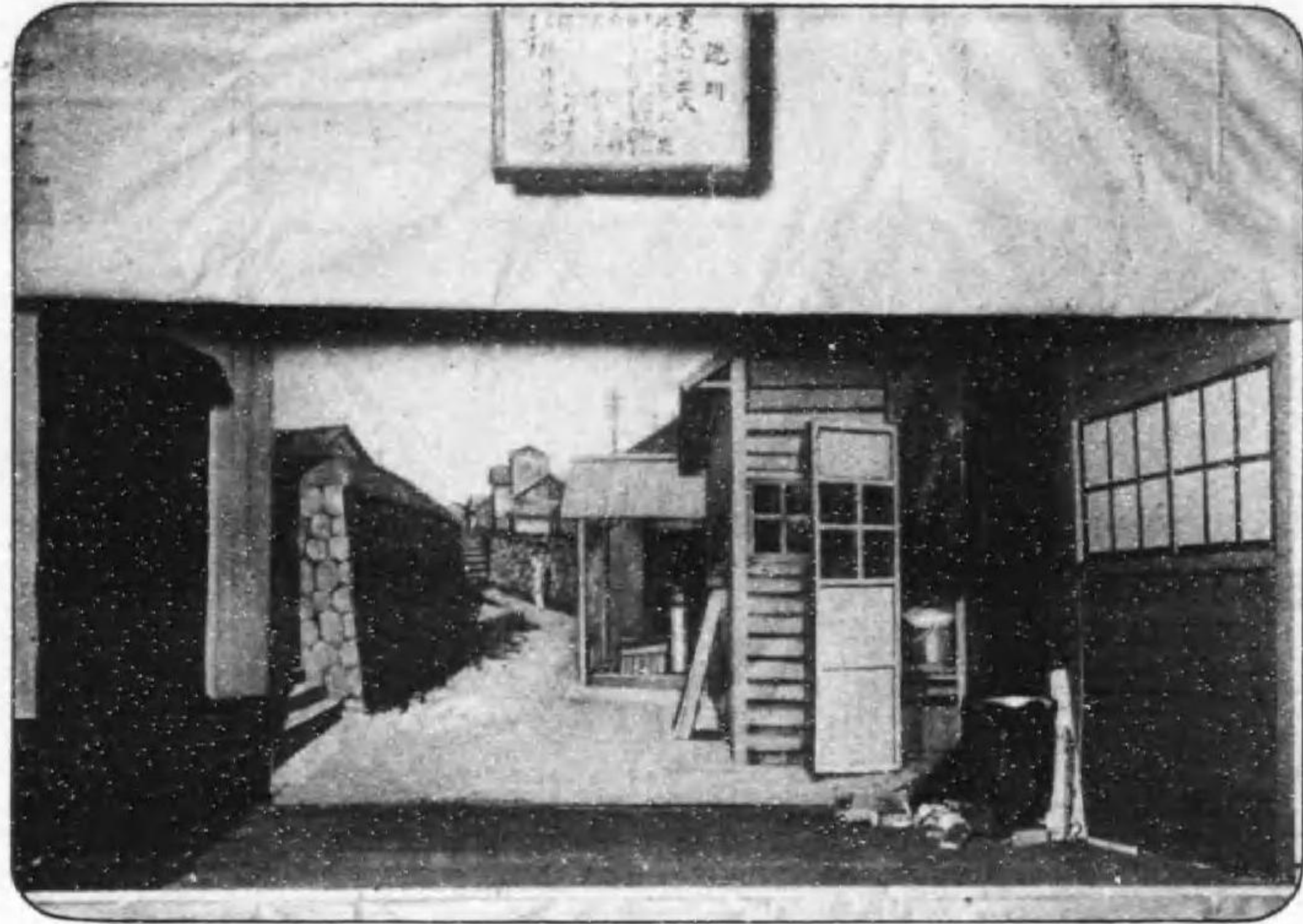


未始不の火爐

7. 爐火の不始末

説明

此の主婦は爐火の始末を怠り熟睡したので  
 爐端に掛け置きたる乾燥物が爐に落ち込み  
 遂に火事となつたのであります。  
 皆さん火氣の始末をしてから御休息み又は  
 外出する様ご注意を願ひます。

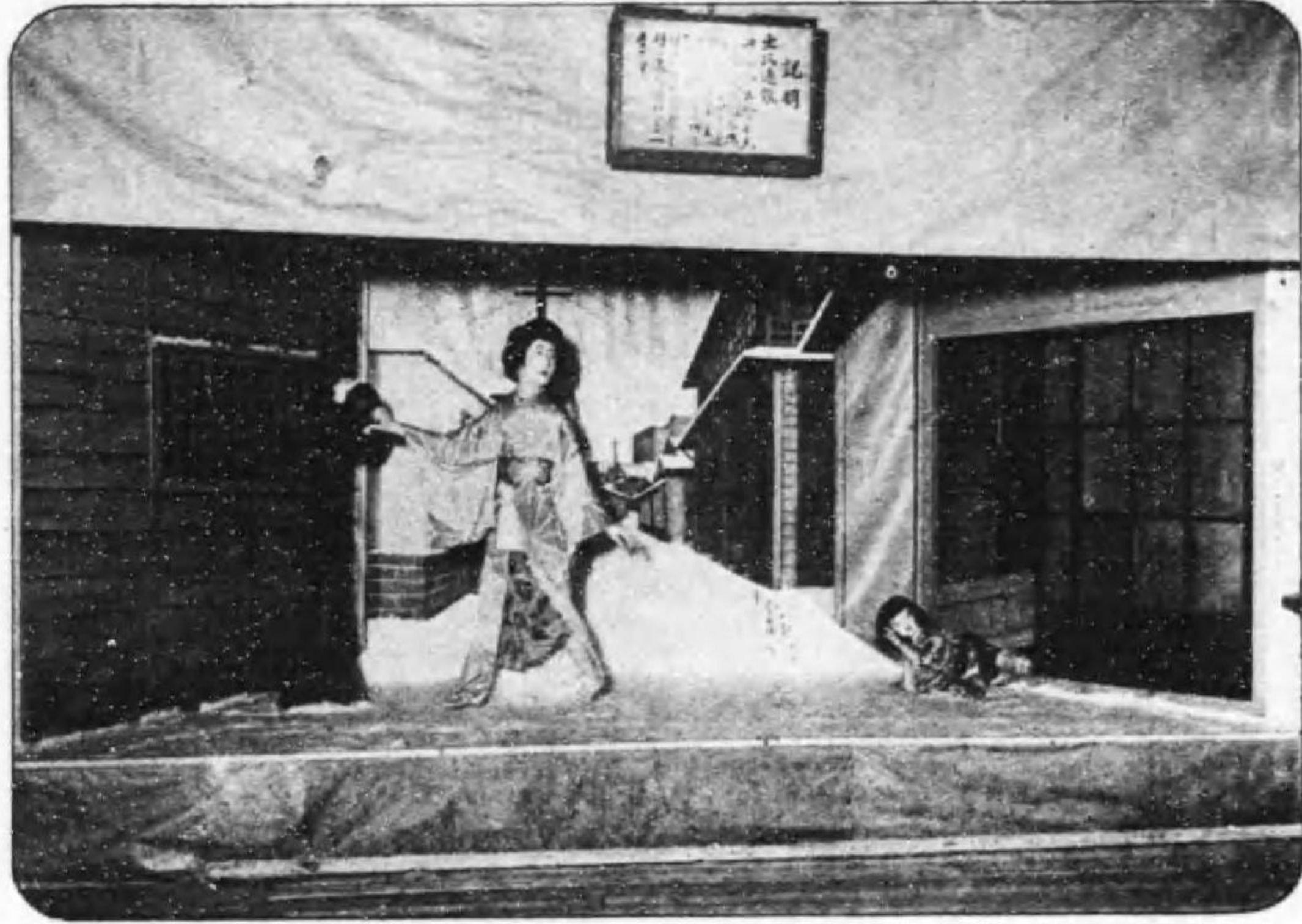


火出らか火竈

8. 竈火から出火

説明

此の主婦が竈に火を焚き付けたまゝ一寸買  
 物に出かけた後で竈前に散亂しある焚き付  
 に移火し遂に火災となつたのであります。  
 皆さん斯る不始末はない様ご注意願ひます



出火通報

10. 出火通報

説明

此の婦人は出火を発見し直に火災報知機にて消防本部へ通報したので大事に至らずに消止することを得たのであります。皆さん出火を発見したる時は速かに通知するが一番です。



子供が火を弄るかから火災

9. 子供の弄火から火災

説明

建築場にて子供が火を弄び居りましたので遂にかんなくづに火が移り火事となつたのであります。皆さん子供にマツチを持たせると斯かる間違ひを出かす事になりますから充分にご注意願ひます。



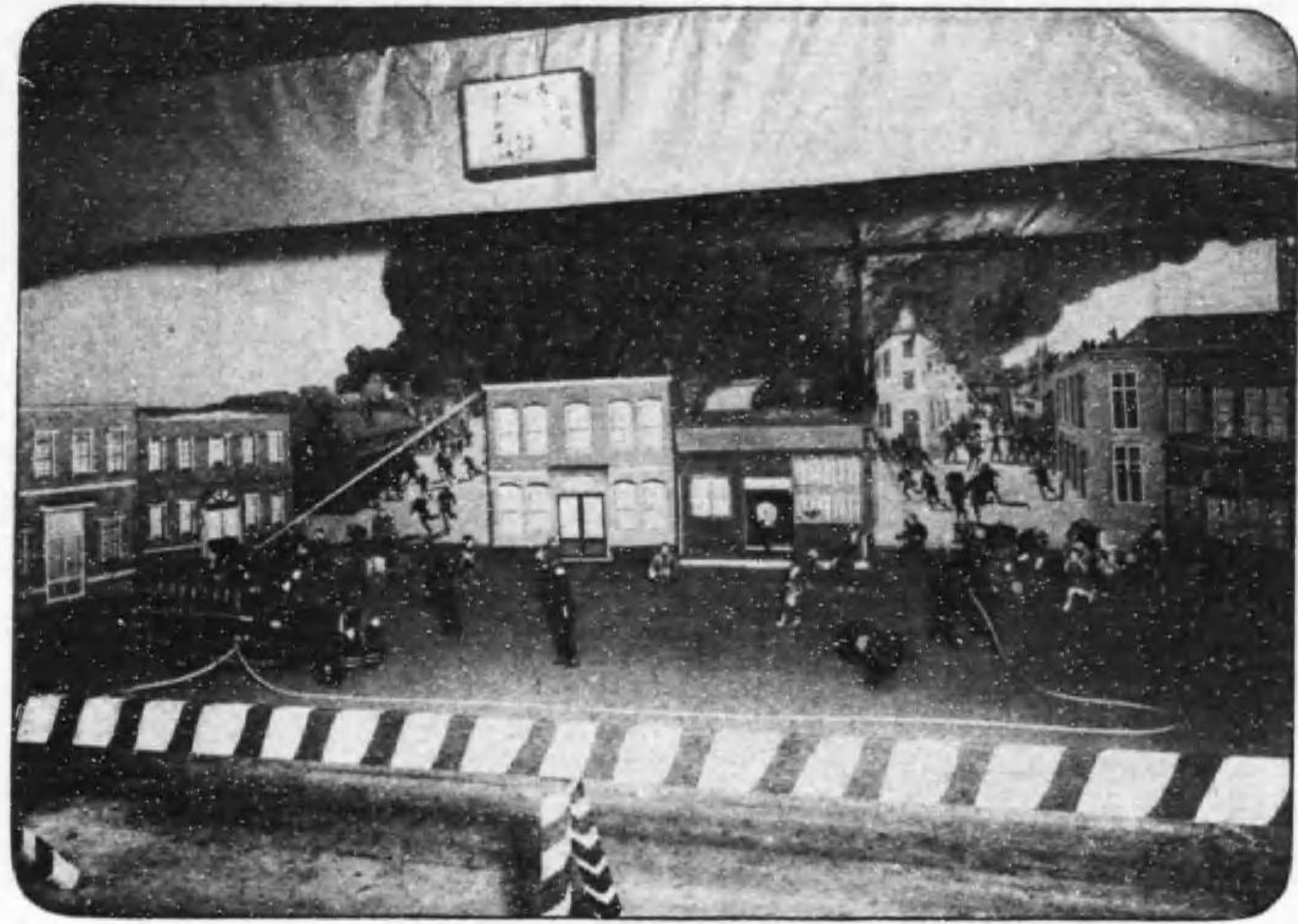


消防組出動

説明

11. 消防組出動

火事は最初の一分間が大事です、火災の時は直ぐ火災報知機若くは電話にて知らせして下さい。報知を受ければ消防本部では三十秒以内に出動準備が出来て居ります。

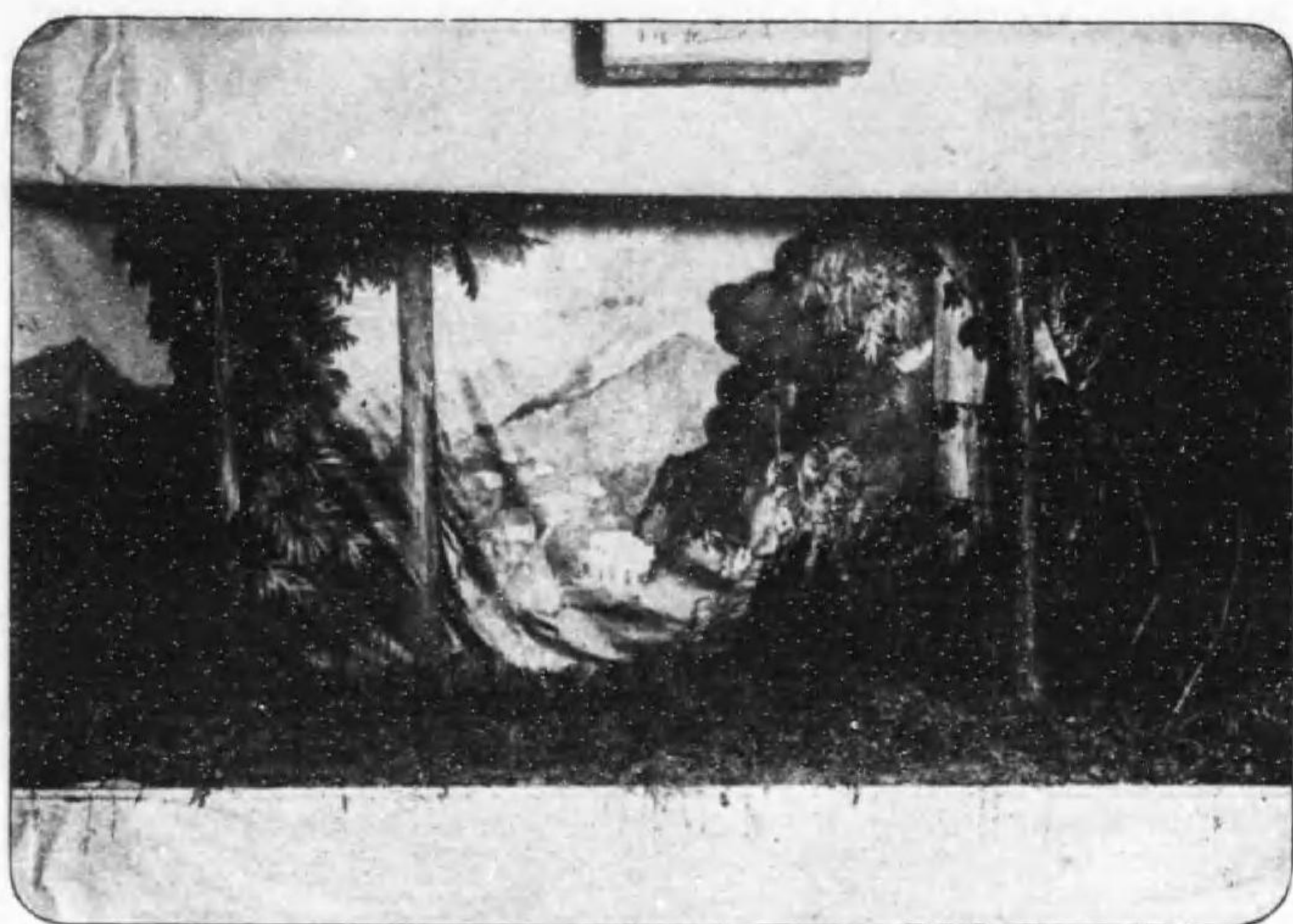


大火災

説明

12. 大火災

一本のマッチや煙草の火からこんな大火災となることがあります。お互注意が肝要です。

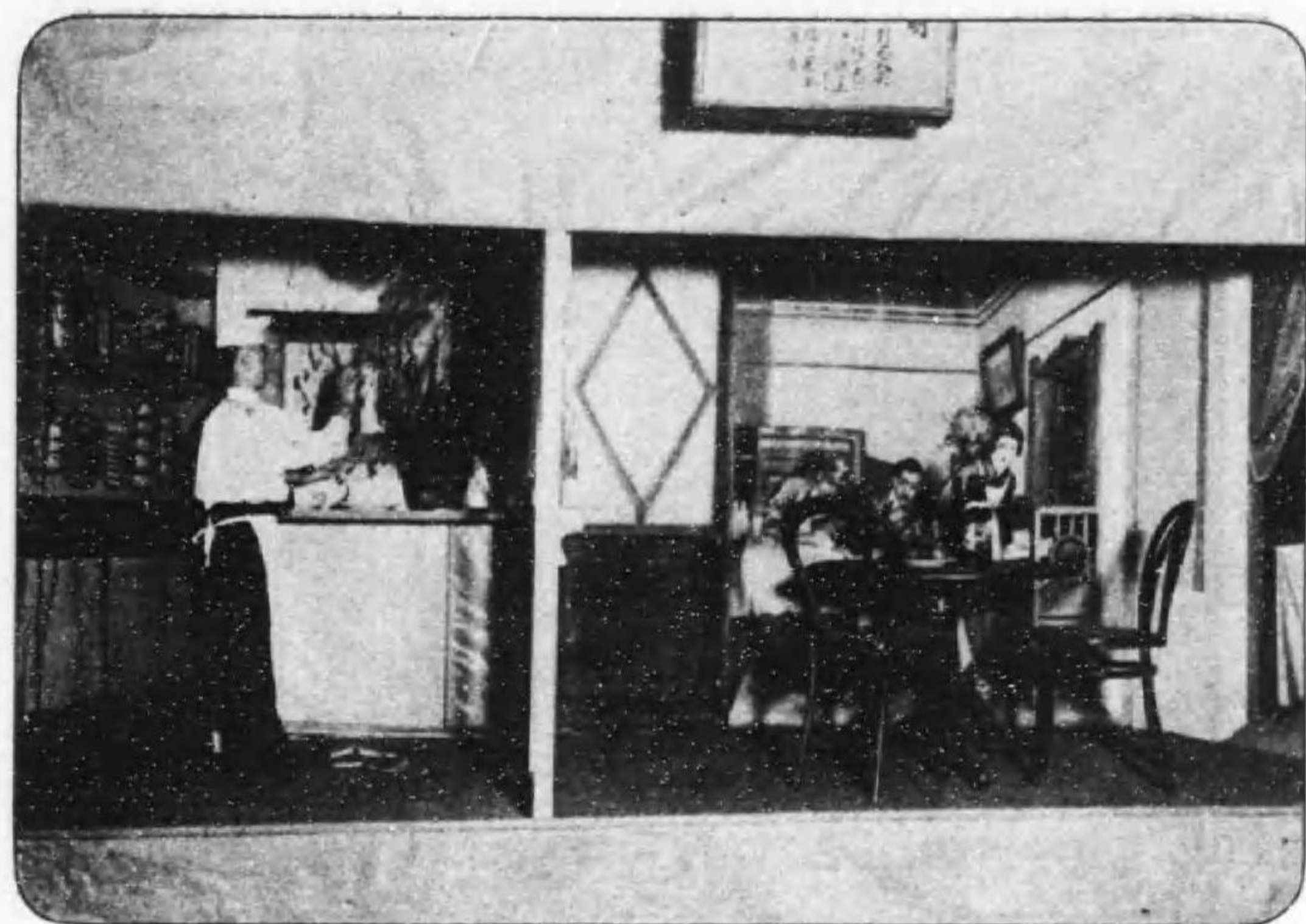


山 火 事

13. 山火事

説明

捨て行きたる煙草の吸殻より發火し遂に猛烈たる山火事となり今や隣接せる植林果ては一村を焼き盡さんとする状況であります  
お互に吸殻は消して捨てる様注意致しませう



天ぶら鍋に引火火災

14. 天ぶら鍋に引火火災

説明

飲食店の料理場の天ぶら鍋に引火し忽ち燃え上り火事となつたのであります。  
斯かる時には鹽及茶の葉を用意して置き直ぐに入れなさい。



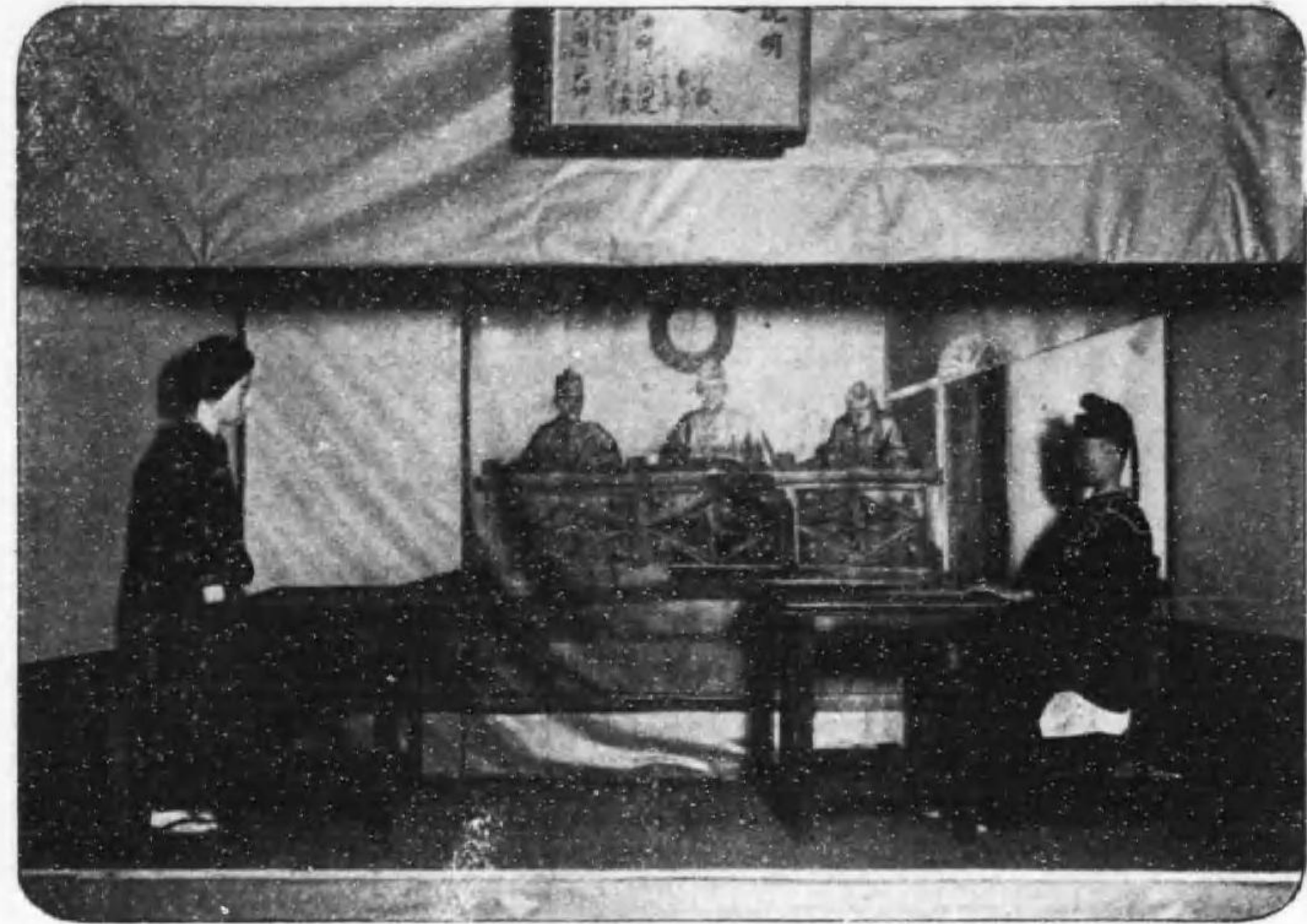
避 難

説明

15. 避 難

深夜に於ける大火の有様です。  
遂に我家は焼け妻子の住み場にも困つて居  
ります。

皆さん火の用心は何より大切です。



法 廷

説明

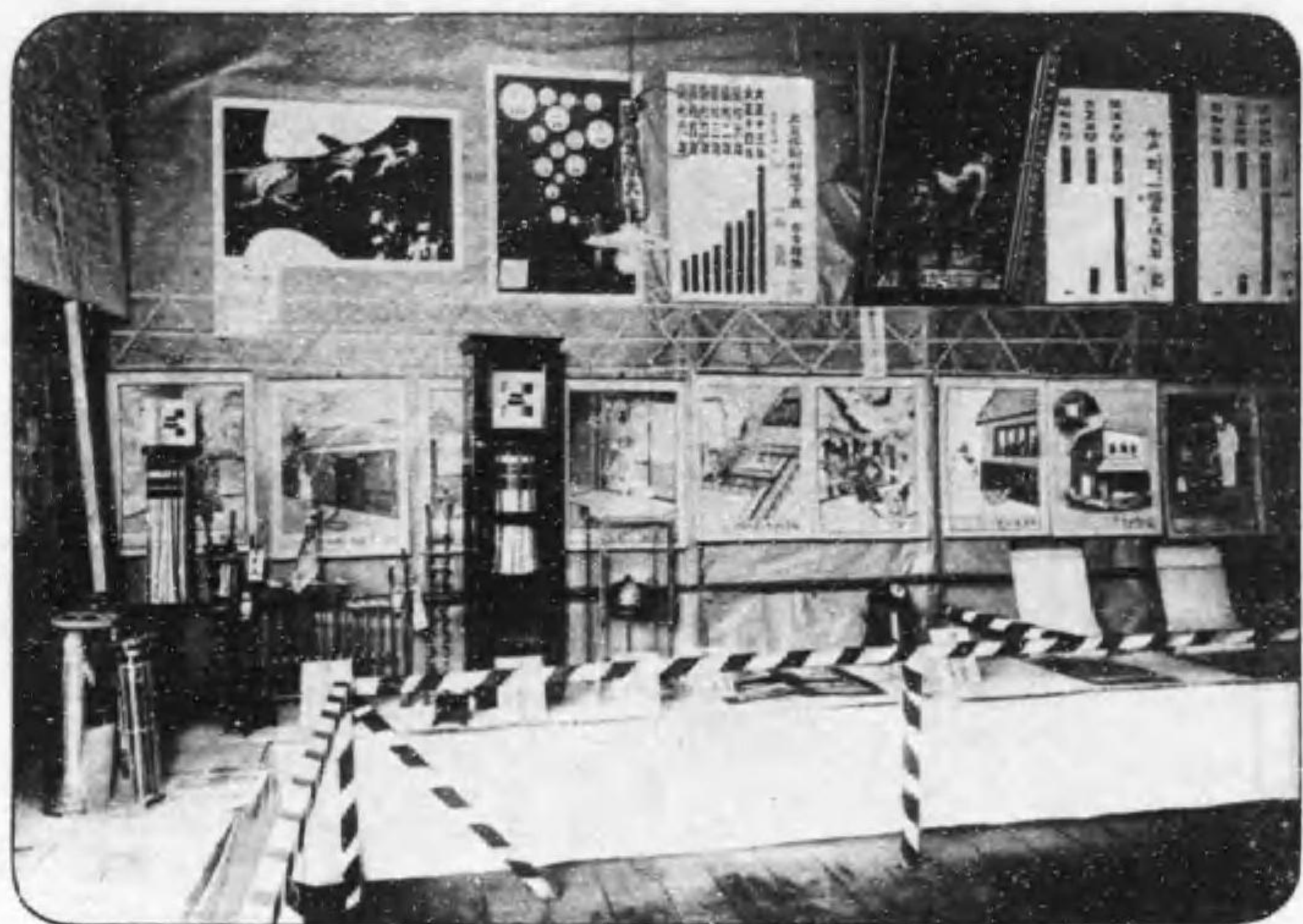
16. 法 廷

失火犯人が只今裁判官の前にて裁きを受け  
て居る處であります。  
一寸の油断から間違ひを起しこうした裁き  
を受けなければならぬのであります。  
お互に火の用心は大切です。



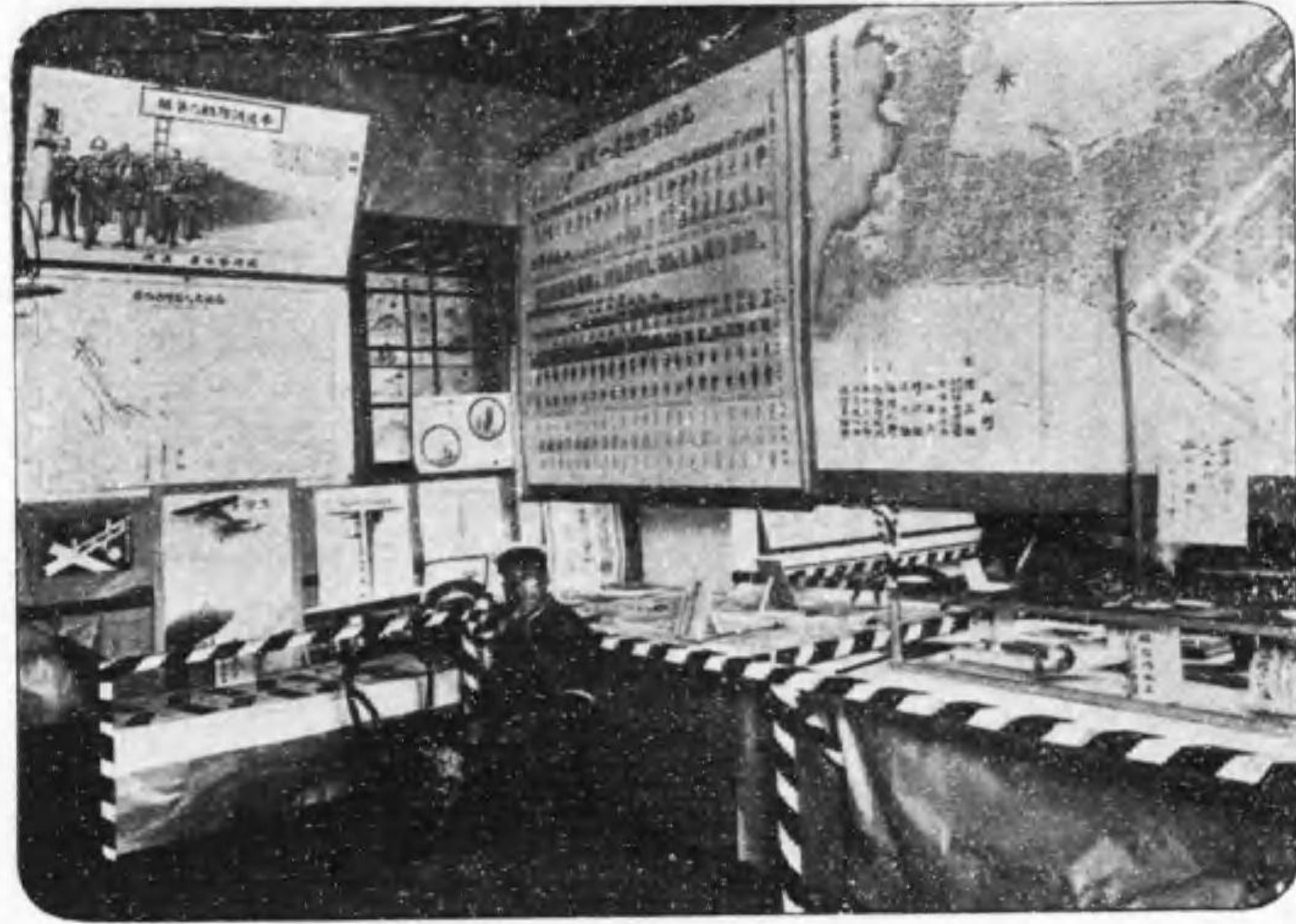
(一) 防消と防火

品名	出品人
火防と消防	
實物	
火事装束小倉頭巾	一 東京 加藤長九郎
類焼跡目印幟	一 同
町家火事装束小倉淺黄羽織	一 同
同 羅紗羽織	一 函館 勝田彌吉
武家火事装束	一 同
昔時使用せし火事場團扇	一 大阪 四天王寺
金馬籠繩	一 同
清水消防手血染の着裝及器具	一 函館 消防組
岡田式消火器	二 同
防火兜	一 函館 今井外太郎
獨逸ハンブルグ消防司令帽	一 函館 勝田彌吉
模型	
北海道開拓使廳火防の達	一 函館 警察署
開拓使庶務係火防の達	一 同
昔の消防器具	二 函館 村田奥太郎



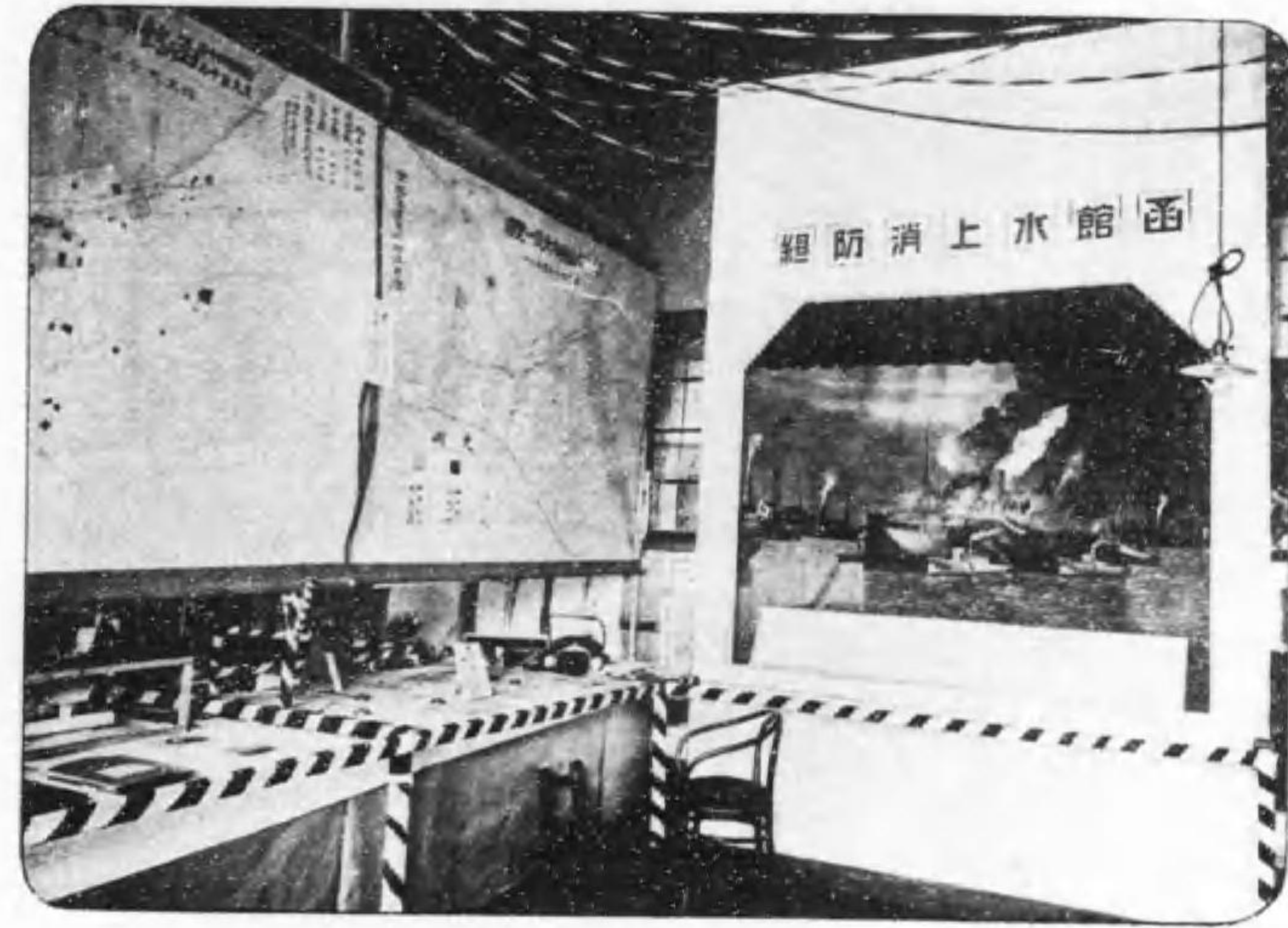
(二) 防消と防火

函館消防廳	一 函館 今井外太郎
上水道消火栓利用	一 函館 消防組
非常用水道消火水井	一 同
貯水タンク	一 同
消防飛行機	一 大阪 消防署
道しるべ。左火事なし町	一 函館 警察署
右用心町不用心町約三里	
寫眞	
獨逸消防の活動	一九 函館 消防組
各地火防宣傳寫眞集	二七〇 東京大日本消防協會
圖表	
函館大火の思出	一 函館 消防組
函館市風位風速	一 同
明治四十年以降焼失戸數調	一 同
火災報知機使用表	一 同
貯水池敷設以來ポンプ使用數一覽	一 同
貯水池非常用水個別ポンプ使用數	一 同
函館大火延焼方向圖	一 同
火災報知機惡戯町別比較	一 同
各都市一ヶ年平均暴風日數	一 同



(四) 防消と防火

濃りに焚火せぬ事	一	大阪	消防	署
消防自動車交通信號	一三	函館	消防	組
今の消防	同	同	同	同
消防機械別による活動率	同	同	同	同
平素の用意	同	同	同	同
接続廊下は導火線なり	同	大阪	消防	署
老人子供病人を二階又は奥深い室に寝せしめぬ事	同	同	同	同
防火壁一重で地獄極樂	同	同	同	同
近火の時は屋根や壁に水かけよ	同	同	同	同
煙に巻かれたら匍ふて出よ	同	同	同	同
耐火建築なら近火でも安眠出来る	同	同	同	同
早く持ち出さぬと焼けてしましますよ	同	同	同	同
火災は盜難に比較して損害が多い	同	同	同	同
消防設備充實すれば火の煩魔も上つたり	同	函館	消防	組
小敵たりとも侮るな、大敵たりとも恐るゝな、フレ！	同	大阪	消防	署
明治天皇御製	同	同	同	同
彌次馬に出て消防の活動を妨害するな	同	同	同	同
消防車に避難する事	同	同	同	同
消防用として常に水壺に水を満し消火器を備へ置く事	同	同	同	同



(三) 防消と防火

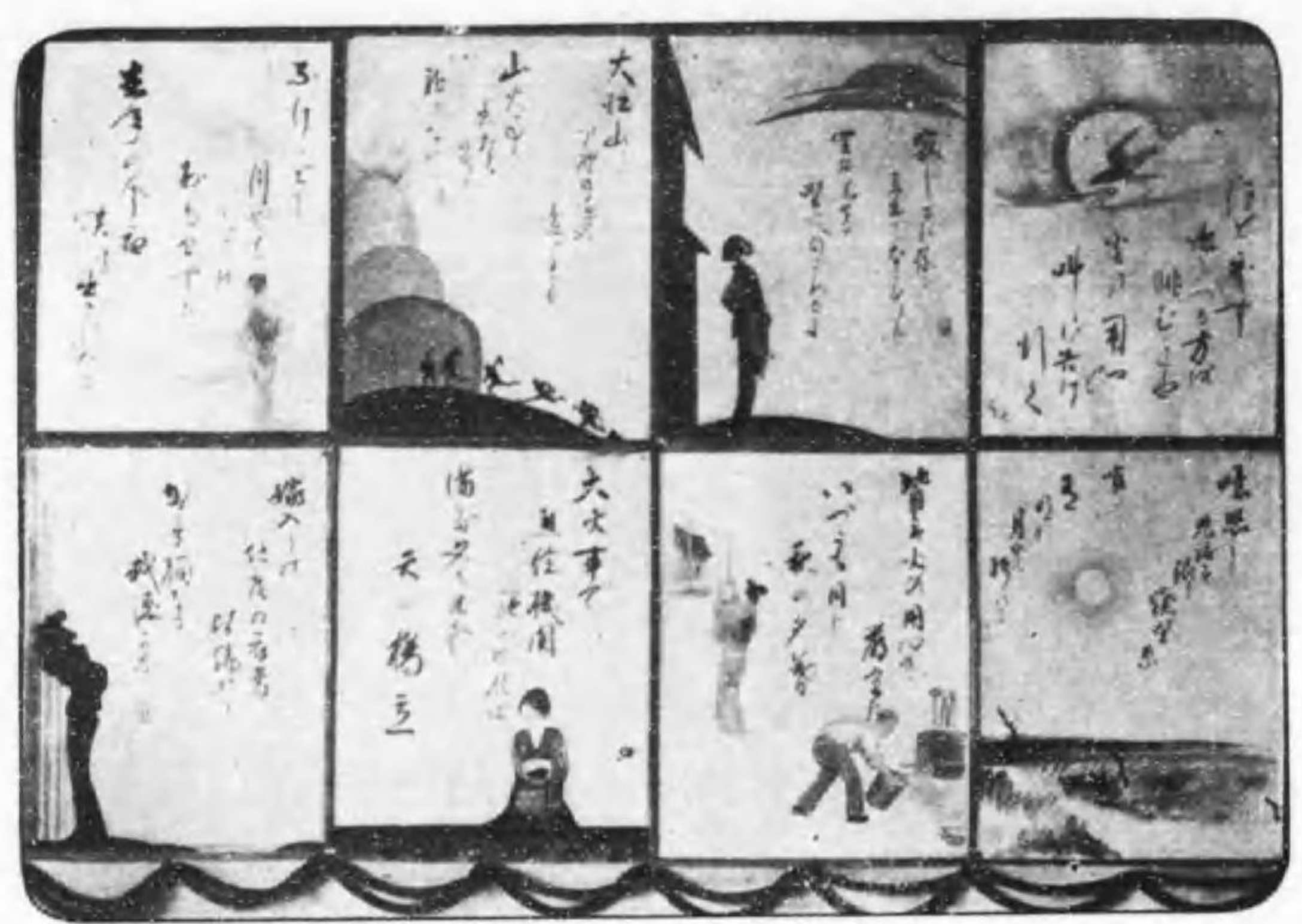
北海道火災	一	函館	消防	組
一ヶ年平均焼失損害額比較表	同	同	同	同
一千戸に對する一ヶ年の焼失率	同	同	同	同
火災保険料低下表	同	同	同	同
明治四十年大火風速一〇四	同	同	同	同
昭和年間火災原因	同	同	同	同
函館消防變遷一覽圖	同	同	同	同
函館消防水利一覽圖	同	同	同	同
大正十一年以降函館市大火一覽圖	同	同	同	同
自明治四〇年函館市火災一覽圖	同	同	同	同
至大正一〇年函館市火災一覽圖	同	同	同	同
水上消防出動港内船舶火災表其他	一	函館	水上消防	組
五階の火事を四階で見物	一	大阪	消防	署
子供の火なぶりを爲さしめぬ事	同	同	同	同
炬燵や火消壺に注意する事	同	同	同	同
風の吹く日や寝る前には火の見廻りをなす事	同	同	同	同
竈や風呂場の火始末をよくする事	同	同	同	同
火災は女性に關係深い	同	同	同	同
消防手の夢	同	函館	消防	組
火災は男性に關係が多い	一	大阪	消防	署





- 一三、焼け出され苦勞する身にくらぶれば昔はものを思わざりけり
- 一四、そそう火を出して彼是噂されかひなく立たん名こそおしけれ
- 一五、焼け出され住むに家なく雨ふれば我衣手は露にぬれつゝ
- 一六、隣居さん炬燵の中に夜具蹴込みけふこゝのへにほぬる哉
- 一七、やけぬやうと運び出したる皿小鉢くたけてものを思ふころかな
- 一八、永年の丹積も遂びやけうせてうきにたへぬは涙なりけり
- 一九、年毎に出火事多くなりぬれば山の奥にも鹿ぞなくなる
- 二〇、自らが注意足らぬで出した火事人をも身をも怨みさらまし
- 二一、過し日の火事を偲びて我袖は人こそ知らぬ乾く間もなし
- 二二、酔どれの逃る間もなくやけ死んでやくやもし保の身も焦れつゝ
- 二三、家寶やける煙のたなびきて雲がくれにし夜半の月かな
- 二四、我家のやけ跡に立ち見たるときいつみきとてか戀しからん

- 二五、家もやけ妻子もやけて淋しきも衣かたしき獨かもねん
- 二六、夜もすがら火事なかれよと祈るかな世を思ふゆへにも  
の思ふ身は
- 二七、火つけ人犬に吠へられ見出され忍ぶる事のみわりもぞする
- 二八、大火事に皆立ちいて里は今こそ見へね秋はきにけり
- 二九、馳せつけたポンプをかける邪魔になるあまの小舟のつなでかなしも
- 三〇、火の元を見廻りくれと出るとき人には告げよあまのつり舟
- 三一、何程か火災豫防のたすけにと吉野の里にふれる白雪
- 三二、のぼせたる八百屋のお七家をやき燵にくちなん名こそおしけれ
- 三三、家はやけ屋敷に残る一本の松も昔のともならなくに
- 三四、けむにむせ逃場失ひ迷ふとき人の命もおしくもあるかな
- 三五、火の元を見廻り来て安らかに夢のかよいち人めよくらん
- 三六、非常時の用意に水路せきとめて流れもあえぬ紅葉なりけり
- 三七、放火犯監房の窓に差こめる戀しかるべき夜半の月かな



(三) 多留歌防火

- 三八、やけ跡の一面に散る白き灰をきまどはせる白菊のはな
- 三九、風吹けば皆夜廻りに出でしまいねやのひまさへつれなかりけり
- 四〇、變電所焼けてまつくら眞のやみ有明の月をまちいづるかな
- 四一、消防の赤い袴てん幾度もぬれにぞぬれし色はかわらじ
- 四二、類焼の電報見たか吾つまは待つとききかば今かへりこん
- 四三、風吹けば終夜火元を見廻りてかたぶくまでの月を見しかな
- 四四、軒の端に吊れる提灯焼へだせりわがみよにふるながめせし間に
- 四五、山火事と見しはあやまり左にあらで三笠の山に出し月かも
- 四六、夜廻りの足もと照す提灯は晝は消えつゝものをこそ思へ
- 四七、火災豫防展覽會があると聞き人にしられて来るよしもかな
- 四八、消防が駆出す先の丸木橋身をつくしてもこいわたるべき
- 四九、刺子着て木遣り音頭のやかましさを猶あまりある昔しなかりけり
- 五〇、大火事で空一面は黒煙雲のいづこに月やどるらん
- 五一、大火事で池の溜れつかひはて行衛もしれぬ鯉のみちかな

- 五二、やけ跡のまだかたつかぬわが屋敷務たちのぼる秋の夕ぐれ
- 五三、火災豫防苦勞する身はやつれけりものや思ふと人の間ふまで
- 五四、大火事に焚出しの飯のこりけりあまりてなどか人の戀しさ
- 五五、ゆえたての髪も夕べの火事の爲亂れて今朝はものをこそ思へ
- 五六、サイレンを鳴して走る水管車乙女のすがたしばし止めん
- 五七、火災季に毎日つゞく山おろしはげしかれとは祈らぬもの
- 五八、夏やけし家の普請も未だ出来ずあわれ今年の秋もいぬめり
- 五九、火災豫防に注意を聞いてあきらめぬ人知れずこそ思ひそめしが
- 六〇、海河へ逃げ込みたれど火の粉來てからくれなひに水くぐるとは
- 六一、ストーブの煙筒欄目嚴重に長くもがなと思ひけるかな
- 六二、やけ出され避難所に住む幾日はいかに久しきものとかわしる

- 六三、やけた庭只一本残る梅花ぞ昔の香に匂ひける
- 六四、家倉もやけて急場の假住ひあしのまるやに秋風ぞ吹く
- 六五、風たてば火の用心に氣をつけよむべ山風を嵐と云ふらん
- 六六、朝火事にやけ出されたる我身には猶うらめしき朝ぼらけかな
- 六七、大火事に川の流れもつかい果てあらわれたるせいの網代木
- 六八、憂きことも知らで避難の小家の屋根もれ出る月の影のさやけさ
- 六九、地震火事つなみが來たて大騒ぎ末の松山波こさじとは
- 七〇、野次馬が駈けつけたれど非常線世におふさかの關はゆるさじ
- 七一、火事騒ぎ持だした鉢をおつことしわれてもすえにあわんとぞ思ふ
- 七二、近火にて夕はいとゞ寝も足らずあかつきばかりうきものはなし
- 七三、野次馬が共に火事場へ駈けつけて知るも知らぬも逢坂のせき
- 七四、船火事の煙は高くなびきて雲井にまがうおきつしら波
- 七五、氣をつけよ軒端に煙る蚊遣火はみそきそ夏ものしるしなりけり

- 七六、かねてより火防に功のありし人名こそ流れてなほ聞ひけり
- 七七、グツスリと寝込だあとでいた火事さしもしらじなもゆる思ひを
- 七八、筒先を揃へてそゞぐポンプ水懸ぞつもりてふちとなりぬる
- 七九、やけ續く野火の煙はたなびきてとやまの霞たゞずもあらなん
- 八〇、我つまは夕の火事にやけにけりながし夜をひとりかもねん
- 八一、留守の間に破れ障子に火がついて紅葉の錦かみのまに
- 八二、風たちて火の用心が氣にかゝりいくよねさめのすまのせきもり
- 八三、山火事で今を盛りの山櫻しづ心なく花のちるらん
- 八四、やけだされちぢにもこのそかなしけれわが身ひとつの秋にあらねど
- 八五、消防の働く上に梁落ちてつらぬきとめむ玉ぞちりける
- 八六、やけ出され残る荷物を背に尻をふり行くものは我身なりけり
- 八七、米や麥稗黍やけて何もなしあわで此世を過してよとや

- 八八、やけ出され親子兄弟ちりくゝに今一度の逢ふこともかな
- 八九、大火事で通信機關絶へければまだ文も見ず天の橋立
- 九〇、坊さんが火消し手傳ひ水に濡れころもほすてふあまのかぐ山
- 九一、川ばたの山火事に散るもみぢ葉はたつ田の川のにしきなりけり
- 九二、奥山にのこす煙草の吸殻は花よりほかに知る人もなし
- 九三、提灯を便所に忘れやけた跡よをうち山と人は云ふなり
- 九四、焼死者を弔ふ御經物淋し我たつそまにすみぞめの袖
- 九五、皆々が火の用心を嚴重にいづこも同じ秋の夕ぐれ
- 九六、氣をつけよ火災季節となりぬれば富士の高根に雪はふりつゝ
- 九七、火事出すな土地の發展心がけ今一度のみゆきまたなん
- 九八、火事に逢ひ逢ひ色里に身を沈め身のいたづらになりぬべきかな
- 九九、牛舎の焼跡に出たあのもぐらうしと見しよぞ今はこひしき
- 一〇〇、火事見舞混雑中のことなればいでそよ人をわすれやわする

乙 下の句變歌

- 一、君がため春の野に出で若菜摘む留守の間に火事を出さ  
じな
- 二、筑波根のみねより落ちるみな川溜め貯へて用水にせよ
- 三、契りきなかたみに袖を絞りつゝ無分別なるお七吉三
- 四、高砂の尾上の櫻咲きにけり花にうかれて火元忘るな
- 五、難波湯短かき蘆のふしのまも火の用心を大切にせよ
- 六、夜をこめて鳥のそら音ははかるとも鐘の鳴る音を聞き漏  
さしな
- 七、足曳の山鳥の尾のしだり尾の長々し夜は火元氣をつけ
- 八、有馬山猪名のさゝ原風ふけば野火の用心皆ぞ忘るな
- 九、秋の田の刈穂の庵の苦をあらみ焼け出されたる假の住  
居は
- 一〇、寂しさに宿を立ち出で眺むれば空を焦せる野火のこわ  
さよ
- 一一、春の夜の夢ばかりなる手枕の火の用心をぬかりある  
なよ
- 一二、此度はぬさも取りあへず手向山火事なかれよと祈る  
神々
- 一三、ほととぎす鳴きつる方をながむれば火の用心と叫び告  
げ行く

- 一四、久方の光りのどけき春の日に火の用心を忘れざらまし
- 一五、春過ぎて夏來にけらし白妙の蚊遣り線香に注意忘るな
- 一六、淡路島通ふ千鳥の鳴く聲に思ひ出して火元見廻る
- 一七、三芳野の山の秋風小夜更けて火の用心の鐵棒の音
- 一八、田子の浦に打出で見れば白妙の帆かけあらわに船の大  
火事
- 一九、きりぎりすなくやしも夜のさむしろに人驚かす警鐘  
の音
- 二〇、大江山いく野の道の遠ければ山火事出たら早く断出せ
- 二一、月見れば千々にもものこそ悲しけれ焼け出されての裏家  
住ひは
- 二二、白露に風の吹きしく秋の野は野火を起さぬ注意肝要
- 二三、小倉山峰のもみち葉心あらば火元そゝうな人をとがめ  
よ
- 二四、花さそう嵐の庭の雪ならで降りくるものは火の粉なる  
とは
- 二五、奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の住ひあらすな出すな山  
火事
- 二六、水らへばまた此頃やしのばれんありし昔の恐ろしき火  
事
- 二七、哀れともいふべき人はおもほへど火事に焼かれたプロ

レタリヤよ

- 二八、たまの緒のたへなばたへねながらへば火元々々人と人に  
怨まる
- 二九、八重もぐらしげれるやどの淋しさにたちたる跡の火鉢  
氣をつけ
- 三〇、よのなかはつねにもかもななきさこぐあまの小舟も火  
元氣をつけ
- 三一、おほけなくうき世の民におもふかな皆一致して火事を  
出すなと
- 三二、夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを火元に注意忘るもあ  
り
- 三三、わだのはら八十島かけてこぎ出ぬとでたが戻つて火の  
元を見る
- 三四、朝ぼらけ有明の月と見るまでに山にうつれる里の火事  
の火
- 三五、うらみわびほさぬ袖だにあるものを火元の怨み七代と  
知れ
- 三六、たれをかもしる人にせん高砂の火の用心の大切なのを
- 三七、わすらるゝ身をも思わすちかひてし火防組合規約勵行
- 三八、住の江の岸による波よるさへやポンプかけ場に都合よ  
かれと

- 三九、やま川に風のかけたるしからみは山火事を消す自然用  
水
- 四〇、心にもあらでうき世にながらへば社會奉仕に火防盡  
さん
- 四一、心あてにおらばやおらん初しものおく屋根は皆不燃質  
葺
- 四二、夜もすがらものおもふころは明けやらで一寸寝た間に  
そゝろ火を出す
- 四三、今こんといひしばかりに長月の待てる間に火の元見  
廻れ
- 四四、かくとだにもやはいふべきさしもぐさ線香の火とて消  
すを忘れな
- 四五、みせばやなおしまのあまの袖だにも焼穴一つせぬよ氣  
をつけ
- 四六、我いほは都のたつみ鹿ぞ住む類焼心配なくて安心
- 四七、やすらわでねなましものを小夜ふけて火元見廻る感心  
な人
- 四八、花の色はうつりにけるないたづらに襲ひ來れる野火の  
焔に
- 四九、あまの原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に火をば入  
れるな

- 五〇、瀧の音は絶えて久敷なりぬれど火防水貯めて安心
- 五一、御垣守衛士のたく夜の火はもえて晝は消へても用心をせよ
- 五二、名にしおはどあふ坂山のさねかづら山火事出すな山を愛せよ
- 五三、今はたゞ思ひたへなんとばかりに驚けり漏電の爲火花散れるに
- 五四、なにわ江のあしのかり彌のひと夜ゆへ火元氣をつけ火事を出さじな
- 五五、もしきや古きのきばにしのおにも火の用心のよき家としる
- 五六、ゆらのとをわたる舟人かちをたへ陸は火事だぞ早く舟着け
- 五七、瀬を早み岩にせかるゝ瀧川の水を取入れ火防水
- 五八、これやこのゆくもかへるもわかれては辻にまごつく焼けた迷兒
- 五九、有明のつれなくみえしわかれよりつい變心と火を放けにけり
- 六〇、もろともに哀れと思ひ山櫻花もまたずに焼け失せにけり
- 六一、あらしふく三室の山の紅葉は火のつきやすきものかわしれ
- 六二、あらざらんこの世のほかのおもひでにポンプ一臺寄附をしようか

- 六三、和田の原とぎ出で見れば久方の雲井にまがふ山燒の空
- 六四、戀すてふ我名はまだき立ちにけり火災豫防に熱心の爲め
- 六五、ちはやふる神代もきかず瀧田川水量豊かに心安かれ
- 六六、君が爲おしからざりし命さへ火事に焼かれて死にたくはなし
- 六七、風をよぐ奈良の小川の夕ぐれに皆氣をつけよ特に火元を
- 六八、吹くからに秋の草木のしをるれば火の用心を嚴重にせよ
- 六九、こぬ人をまつほのうらのゆうなぎに焚ける藪の下を氣をつけ
- 七〇、人もおしひともうらめしあじきなく類焼してのわびし住ひは
- 七一、みかの原わきて流るゝいづみ川火防水道の火源としれ
- 七二、めぐりあひてみしやそれともわかぬまに又も大火で右と左に
- 七三、世の中に名こそなれ思ひいる山の奥にも火事を出さじな
- 七四、おもひわびさても命はあるものを焼けて死ぬとはあわれなりけり
- 七五、風をいたみ岩うつ波のおのれのみ荒るときこそ火元を氣をつけ

- 七六、いにしへの奈良の都の八重櫻花の頃こそ火災季としれ
- 七七、わすれずの行末まではかたければ其の日くの火防忘れな
- 七八、かささぎのわたせるはしにおくしもの白き頃こそ火元氣をつけ
- 七九、みちのくのしのぶもじすり誰ゆへにみだれても火は大切にせよ
- 八〇、音にきく高しの濱のあだ浪は岸邊の火事に注ぐ消し水
- 八一、山ざとは冬ぞさびしさまさりける人も草も焼けてなくなり
- 八二、わびぬればいまはたおなじなにななる町のはづれに焼け出されつゝ
- 八三、なげけとて月やはものをおもわする去年の今夜焼け出されたと
- 八四、ちきりおきしさせもが露をいのちにて生ける虫さへ火を消さんとぞする
- 八五、うかりける人をはつせの山おろし吹けるときこそ火の用心をせよ
- 八六、あまつ風雲のかよひち吹きとちよ下を吹ては火防危険だ
- 八七、ながからん心もしらす黒髪の手悪しくは火ぞもへつかん
- 八八、あさぢふのおのゝしのはらしのぶれど吸がらとても油断すまじな

- 八九、たちわかれいなばの山の峰に居る松杉樹焼くな樵夫
- 九〇、秋風にたなびく雲のたへまよりもれ出る月に夜廻りをせよ
- 九一、明けぬれば暮るゝものとはしりながら暮れの混雑火元氣をつけ
- 九二、夕されば門田のいなばおとづれてわしの丸やけ秋風ぞしむ
- 九三、人はいざ心もしらすふるさとはやけて昔のおもかげもなし
- 九四、なげきつゝひとり寝る夜のあくるまは火の用心に氣ををられつゝ
- 九五、朝ぼらけうちの川霧たえぐゝにあらわれ出たる山やけの跡
- 九六、むらさめの露もまだひぬまきの葉に晝は消えつゝとまゐる電火
- 九七、しのぶれど色に出にけりわが顔は火事を出した悔の心に
- 九八、わが袖はしほひみえぬ沖のいしの人こそしらぬやき穴ぞある
- 九九、あふ事のたへてしなくばなかゝに油断をするな火の用心
- 一〇〇、あひみての後の心にくらぶればむかしは火をば大切にせり

昭和三年八月 於函館  
出鱈目を ならべたりけり  
いたづらに 百人分を おのれ一人で

(三) 商 品 部

衛生と火防

第一室

品 名 點數 出品人

實物

菊泉こもかぶり酒樽 (四斗入)	一	函館 林合名會社
同 (二斗入)	三	同
菊泉瓶詰 (二立八〇入)	三	同
同 (二八合入)	八	同
サツボロミルク (四打入)	二	梅津合名會社
同 (罐)	六	同
金太郎ミルク (四五〇瓦入)	六	同
同 (二二五瓦)	六	同
テーブルバクター (箱入)	六	同
同 (三七五瓦入)	六	同
ツバメ印虫取香水 (大)	六	鈴谷商店
同 (小)	五	同

ヒーロー霧吹キ

ハブ茶 (四五〇瓦入)	二〇	浅沼商店
同 (二三〇瓦入)	二〇	同
廣告用ハブ茶 (箱入)	一	同
大陽ストーブ	一	白崎合名會社
獨逸ビール	一	千代盛商會
オリヂナル	三五	同
時任バター (半斤入)	一〇	時任農場
同 (二斤入)	一〇	同
ゼルシー牛乳粉末入瓶 (小)	三	同
同 (大)	四	同
均質牛乳粉末入瓶 (小)	三	同
同 (大)	三	同
ホルスタイン牛乳粉末入瓶 (小)	三	同
同 (大)	三	同
ミルクエード (小)	五	同

ミルクエート (大)

六 時任農場

ブリキ煙筒

一 函館鐵力組合

クリームネリ入

二 同

風取器付煙筒

一 同

カゼイン粉入

一 同

羽目板張、小波板張、市松張、筋入、煉瓦張、中波板張、獨逸生張、金屬天井張、屋根鐵葺張、最新式雪止金物等ニテ作リタル家屋

一 同

カテイストーブ

一六 廣瀬商會

青竹生子トタン生垣

二 同

炊事用釜

五 同

ブリキ製鬼瓦

二 同

鐵瓶

二 同

ミツバ錯知ラズ

二 同

ストーブ用湯ワカシ

四 同

最新式雪止器

一 同

鍋

一 同

コーケンエナメル (特大)

一 同

網渡シ

一 同

コーケンエナメル (特大)

一 同

プレキモツコ

一 同

同 (大)

一 同

逆風押へ

三 同

同 (中)

二 同

煙筒

二 同

同 (小)

六〇 同

立金網

一 同

コーケンワニス

三 同

石炭

二 同

メロニヤ

五 同

新案通風装置

一 下田重吉

家庭ベイント

五 同

スレート煤煙掃除器付煙筒

一 函館  
ブリキ組合

ラツタニス

三 同

トタンペイント	五	金森船具店	時任農場	三	時任農場
矢萩式サイレン	四	同	同		
便利燈	三	同	同		
ホース	三	同	同		
町野式消火栓(大)	三	同	同		
同 (小)	一	同	同		
ホース付消火栓	二	同	同		
六尺本樫八角柄鳶口	一	同	同		
六尺本樫丸柄鳶口	一	同	同		
斧鳶帯革サツク付火造	一	同	同		
折込劍鳶サツク付	一	同	同		
折込鎌式鳶同サツク付	一	同	同		
管鎗	一	同	同		
麻製品	一	同	同		
麻見本	一	同	同		
寫眞	七	同	同		

保健衛生

第二室

品名 點數 出品人

實物					
生良散	五	森藥局	同 (九米入)	一	同
ミケゾール	八	同	同 (五百瓦)	一	同
ミケゾール原液	二	同	ラクトーゲン(大)	一	同
ミケゾール五十倍液	一	同	同 (中)	一	同
ミケゾール百倍液	一	同	同 (小)	一	同
ミケゾール三百倍液	一	同	フスゲン錠(小)	一	同
ミケゾール五百倍液	一	同	同 (中)	一	同
ミケゾール八百倍液	一	同	同 (大)	一	同
同 ポスター	二	同	同 (特大)	一	同
石倉特製ポスター	一	同	フスゲン末(小)	一	同
製精綿(二十五瓦入)	二	同	同 (大)	一	同
製精綿(百五十瓦)	二	同	フスゲン液(小)	一	同
同 (二百五十瓦)	二	同	同 (中)	一	同
同 (百七十五瓦)	二	同	同 (大)	一	同
同 (四百瓦)	二	同	同 (特大)	一	同
ガーゼ(三米入)	二	同	同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同
			同 (大)	一	同
			同 (中)	一	同
			同 (小)	一	同
			同 (特大)	一	同





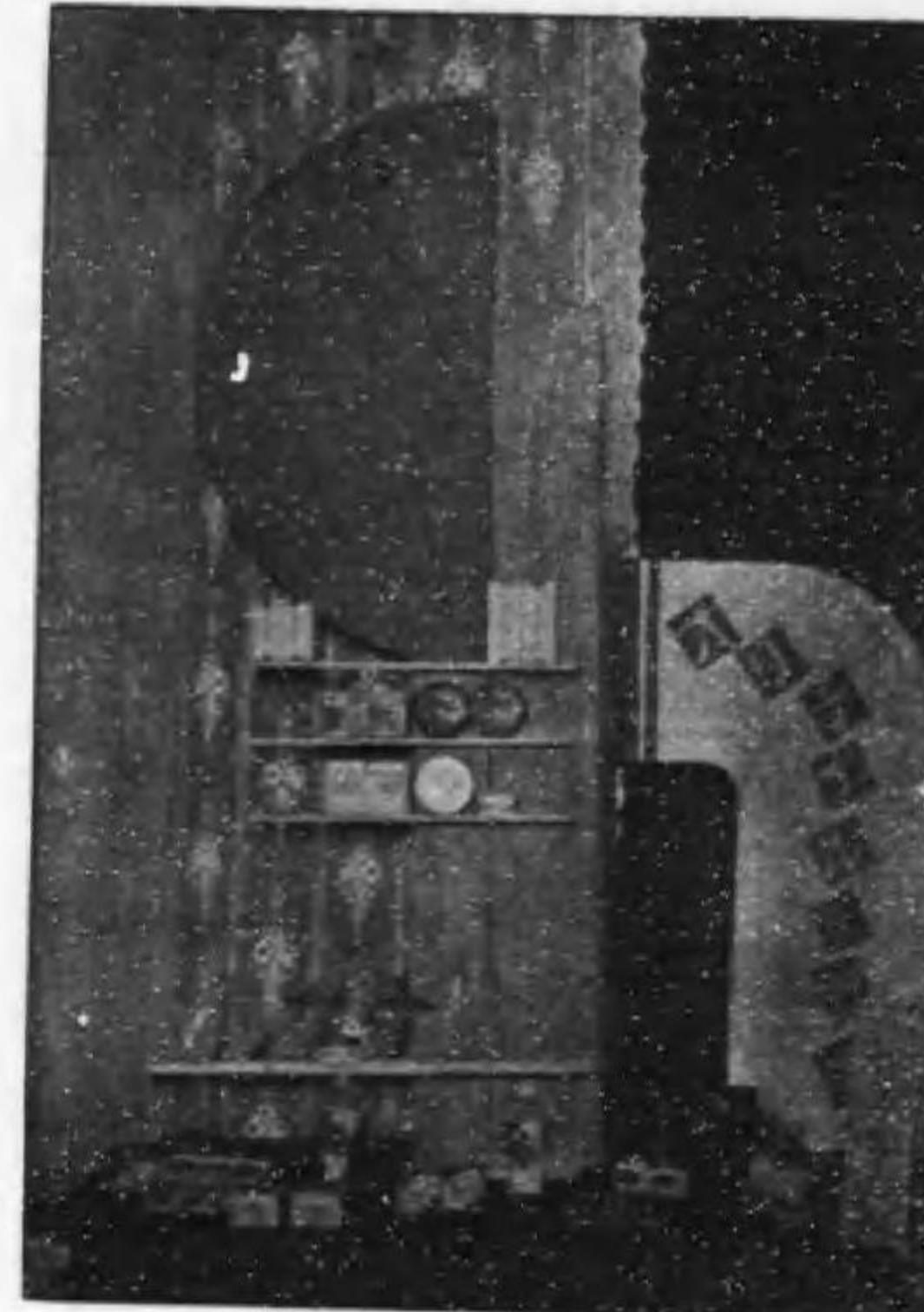


出品人  
資生堂

洗濯石鹼	香水	頬紅	コンバクト	オイデルミン
七資生堂	三同	二同	二同	二同
デンチ フライス	ボマード	ボチブリン	花香油	チユーブ入 歯磨
一同	一同	一同	一同	八〇同

出品人  
中山太陽堂

クラブ香水	乳液	ベークニーネ	香油	粉白粉	化粧水	白粉	ボマード	水白粉	水齒磨
四中山太陽堂	一同	一同	一同	二同	二同	四同	九同	二同	一同
洗粉	歯ブラシ	チユーブ入	齒磨	クリム	美の素	固練白粉	コンバクト	白粉下つぼみ	カティフード
一同	六同	三同	四同	一同	一同	二同	二同	二同	一同



出品人  
安藤井筒堂

ウテナ水白粉	化粧水	クリーム	固練白粉	粉白粉	もゝの花	水白粉	ローション	ボマード	香水紙	石鹼	ベークニーネ	練白粉	固練白粉
三久保政吉商店	二同	七同	三同	六同	二同	二同	二同	二同	六同	九同	二同	二同	二同

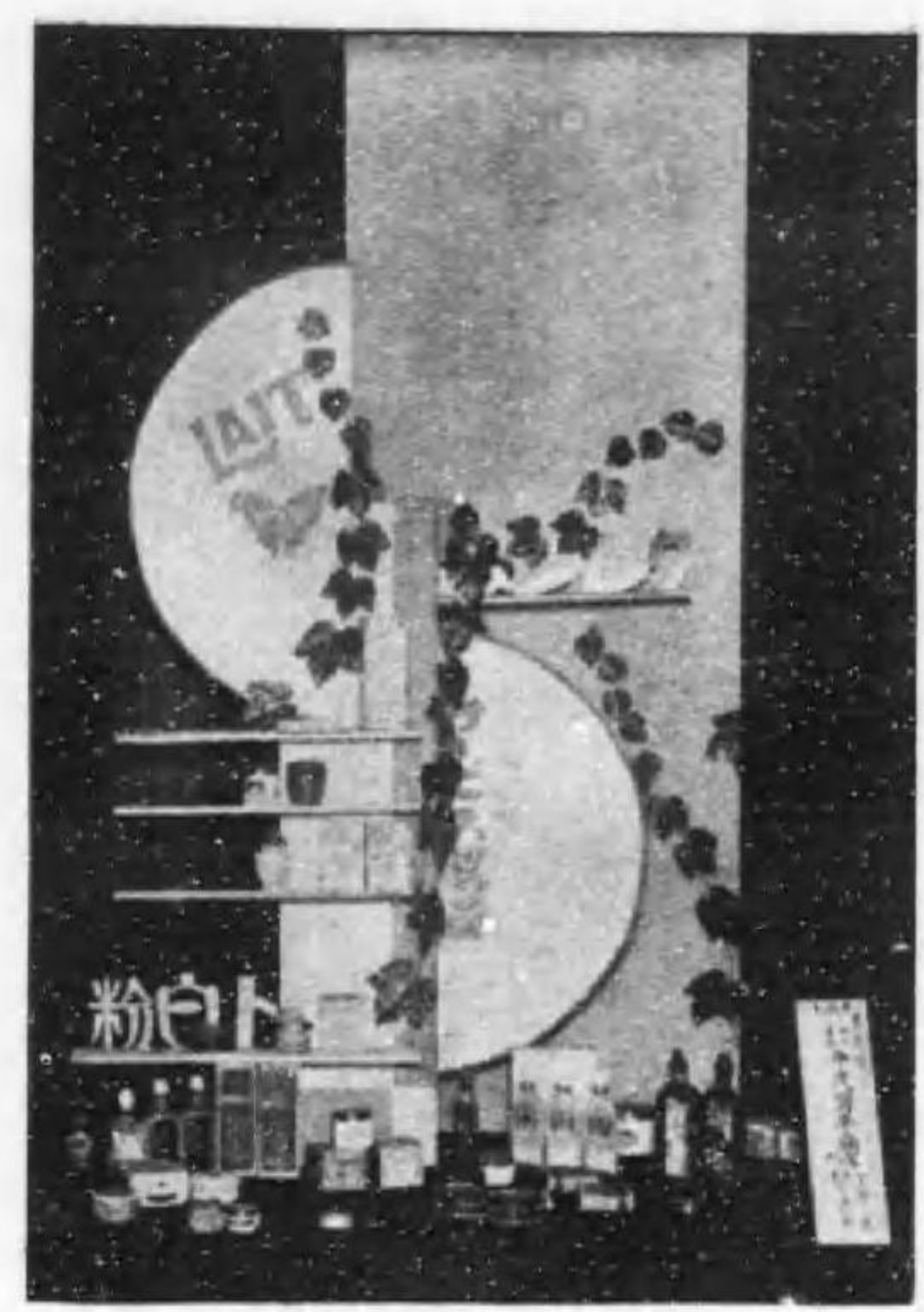
出品人  
久保政吉商店

オリチナル香水	クリーム	粉白粉	固練白粉	化粧水	ウテナ水白粉
一安藤井筒堂	三同	二同	二同	二同	二同





- レイト五色粉白粉 二 平尾贊平商店
- 粉白粉 一同
- 洋髪香油 一同
- クリーム 五 同
- ホマード五〇番 五 同
- 三色頬紅 三 同
- コンパクト 二 同
- 固練白粉 三 同
- ドリシ 一 同
- 白粉 一 同
- ソブラ 一 同
- 清涼香油 一 同
- 肌色レイト水白粉 三 同



出品人 平尾贊平商店

- ローション 一同
- 水白粉 三 同
- メリー 二 同

## 第六章 宣傳、催物

### 第一節 宣 傳

本會の眞價を普く宣傳し、多數の觀覽者を誘致して、本會の盛況を圖る爲めに、協賛會の成立するに及び其宣傳施設に就ては、協賛會の事業に待つところ多大であつたが、本會自らも協賛會と緊密に提携して、施設を怠らなかつたのである、此處に本會の施設に係るものを記述するに先ち、各新聞社が本會に倚せられた好意に對し感謝の意を表するものである。

一、ポスター圖案懸賞募集 本會宣傳用ポスターの圖案は宣傳の爲め之を懸賞募集を爲し、其懸賞圖案を理事會に於て審査の結果、左の如き當選及佳作を得た。

- 當選 函館市豊川町三十八番地 仲 元 吉
  - 佳作 (二點) 小樽市住ノ江町一ノ二九 平 野 宇 三 郎
- 斯くて當選圖案ポスター一千枚を作り、市内官公衙、學校病院、寺院教會、浴場理髮店、活動寫眞常設館其他要所に掲げた外、函館、札幌、室蘭、青森の各鐵道運輸事務所管内の各驛、道内及三陸地方官公衙、道南各町村役場に配付した。
- 二、宣傳ビラ 七月市主催の三陸地方巡回見本市巡航船に托して該地方に一萬枚の宣傳ビラを頒布した。
  - 三、塔、立札 青柳町電車停留所角と聖天坂下に裝飾を兼ねた宣傳塔を建設し、又市内、湯川、上磯の要所に二十枚、更に渡島、十勝、日高、下北地方の乗船賃割引航路船扱回漕店六十九箇所の店頭に廣告立札を建てたのである。



東濱棧橋の電飾

五、入場券前賣 各町組合役員諸氏を煩して、入場券を大人八錢小人四錢の二割引にて前賣したるに各位の努力により、大人券二萬七千五百二十九枚、小人券九千三百九十一枚計三萬六千九百二十枚の好賣行にて、入場者九萬に垂んとした豫期以上の成果も、この前賣に負ふ處が甚大であつたのである。

六、案内所 觀覽者の便利を圖ると共に、一面本會の盛況振作の爲め、函館驛前に間口十八尺、奥行十八尺、軒高十二尺の案内所を建設した。

七、輕氣球掲揚場 本會、ライオン齒磨口腔衛生部、相生町精養軒交互に會期中函館公園廣場に輕氣球を掲げ展覽會氣分を漂した

八、煙火 會期中毎日開場時刻と餘興開始時刻とを報ずると共に氣勢を添へる爲め夜間にも時々美麗な花火を打揚げて宣傳に努めた。

九、街頭裝飾 主催者である各町衛生火防組合は街頭に紅白幕を張り且飾り提灯を吊り、或は照明燈を裝飾し、或は要所に綠塔を建設する等各町思ひ／＼の意匠を凝らされて祝意を表され、學



青柳町電車停留場角裝飾塔

四、乗船賃割引 左記船主各位の奉仕的好意により、渡島、十勝、日高、下北地方の航路船の乗船賃を、八月五日より十九日間往復三割引とせられたことは、該地方からの觀客誘致となり、他面該方面への力強き宣傳となつたのである。

小樽市	藤山海運汽船株式會社
函館市	株式會社恒産組
同	渡島汽船株式會社
同	函青汽船株式會社
同	金森商船株式會社
同	東海運輸合資會社
同	高橋倉太郎
同	橋谷常吉

市一致の展覽會気分を全市に横溢せしめたのは、市内宣傳として大なる効果があつたのである。  
二〇、福引 會期二十一日から四日間毎日福引デーを催し、一等三圓、二等一圓、三等二十錢の賣店商品引換券を發行し入場券五百枚を二組として一日數回抽籤を行つて人氣を呼んだのである。

### 第二節 催物

本會の開催を一層有意義ならしめ、又觀覽者に感興を與ふる爲め、前述の如く各種の宣傳を爲したのであるが、此の外會期を通して各團體と協賛會との賛助から、間斷なく各種の催物を行つて、常に全市の興趣を集め、豫期の成果を收むることに努めたのである。

#### 一、各種デー

- 十二日 清潔デー 浴場組合から割引入浴券一萬枚、理髮保健組合と婦人結髮保健組合から割引券各五千枚を入場者に配付した。
- 十三日 蠅取デー 藥業組合にて場内に於てミゲゾール液、石油乳劑等を特賣した。
- 十四日 蛔虫驅除デー 同組合に於て同じく驅除劑を割引即賣した。
- 十五日 健康相談デー 醫師會から市内開業醫の無料診察券一萬枚を配付した。
- 十六日 愛齒デー 齒科醫師會函館支部から市内開業醫の無料診察券七千枚を入場者に交付した、外ライオン齒磨口腔衛生部からハミガキ粉・リーフレット等を夫々配付した。



函館驛前案内所



本廣町通裝飾



近附所留停車電橋年萬

十七日 結核豫防デー 「結核ト營養」と題するパンフレットを頒布し、尙和洋食組合が二百餘名の娘子宣傳隊を組織して、函館驛前から樂隊を先頭に、井上副會長新作の火防衛生宣傳歌を高唱しつゝ、電車通銀座街に行進し、會場に繰込み午後二時から餘興場に於て井上副會長作「函館小唄」を合唱したのである。

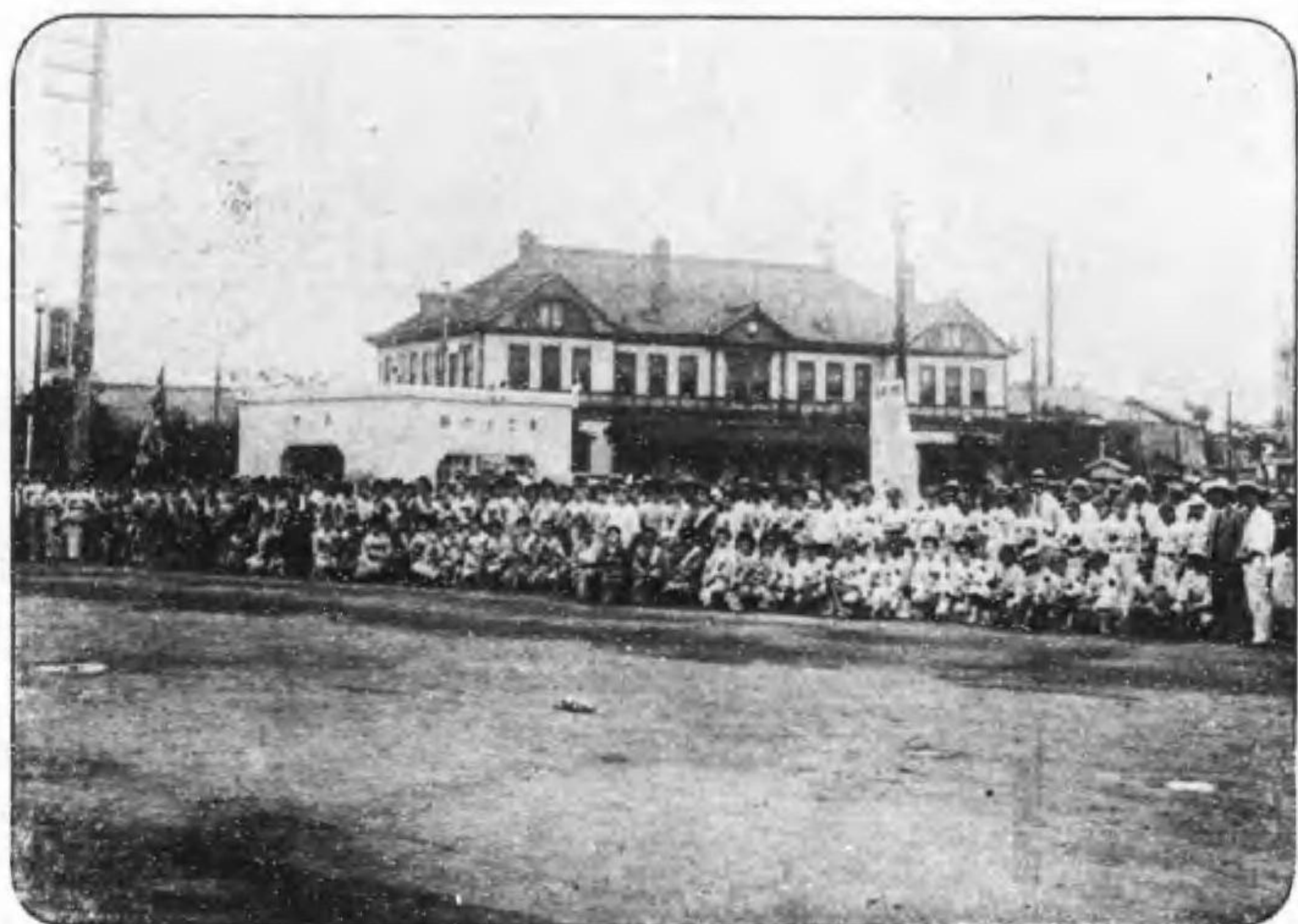
十八日 妊婦相談デー 産婆組合から妊婦無料相談券を入場者に配付した。

自十九日 火防デー 火災豫防聯合會から「火の用心」の文字入り風船玉を入場子供に毎日二千五百個を配付した、外に各町組合にては要所に「火の用心」旗を掲げ、巡視を行ったのである。

自二十二日 奉仕デー 協賛會賣店に於て毎日原價提供を爲し至二十四日 賣行も良好であつた。

二、奏樂、講習會

會場後庭に音樂堂を設け、晝間は函館オテントラン童話會の方



合集前驛隊傳宣防豫核結

々が出演して、童話、童謡、舞踊、童謡劇、兒童劇音樂等を催されて觀覽者の感興を唆り、夜間は大日本私立衛生會函館支會が主となつて、活動寫眞映寫による講演會等を催されて觀覽者の慰籍に資し、兼ねて衛生思想の普及向上を圖つたのである。

三、小唄と宣傳歌

和洋食組合が選抜ウェイトレスをして協賛會餘興場に於て、井上副會長新作の左記小唄と宣傳歌を演奏せしめて非常に人氣を博した。

郷土紹介

### 新函館小唄

井上金之助作詞  
新井榮四郎作曲

(一)

函館よいとこ マストの林  
出船入船 振るハンカチは  
沖の鷗か

アラヒラ／＼と

(二)

春の臥牛山 鶯雲雀  
かほる公園 櫻の夜さは  
花の小唄の

アラチラ／＼と



(三)  
金波銀波の 眺めもあやな  
月の夕の 立待岬  
沖にや漁り火

アラキラ／＼と

(四)

秋は紅葉の 大沼小沼  
牡鹿牝鹿の 睦まじ姿  
島のまに／＼

アラチラホラト

(五)

戀の五稜郭 隔てのお濠  
つなぐ縁しの 大橋小橋

松の峯の

アラユラ／＼と

(六)

宇賀の浦邊の 湯の川根崎  
温泉戀しや 花模様  
濱にやよる波

アラサラ／＼と

(七)

清き流れの 松倉川に  
映る乙女のおのトラピスト  
薫る鈴蘭

アラシラ／＼と

### 防火宣傳歌

(一)

モン／＼皆さん皆さんよ  
世界の中で火災程  
怖い恐ろしいものはない

井上金之助作詞

どうしても火事を

防ぎませう

(二)

何と言ふてもストローヤ

炬燵に火鉢爐に溜  
提灯燈明漏電に

皆で注意を致しませう

(三)

向ふのお山も焼かぬやう  
明けても暮れても油断なく  
大人も子供も氣をつけて

どうしても火事を

防ぎませう

(四)

一寸の粗忽で火事出せば  
忽ち火の海血の涙  
火事程怖いものはない  
皆で注意を致しませう

### 衛生火防宣傳歌

井上金之助作詞

モン／＼皆さん皆さんよ

世界の中でも日本程

幼い子供の死ぬのやう

人の恐るゝ結核や

凡ゆる物を灰にする

火災の多い國はない

どうしてそんなに多いのか

何と言ふても恥かしい

そんならみんなで

氣をつけて

向ふの國に負けぬやう

どんなに力を盡しても

みんなの身をすこやかに

又は火災のないやうに

ダンゲンダンゲン

衛生と火防に努めませう

衛生と火防に努めませう



踏 雜 ノ 口 入



# 第七章 観覧と取締

## 第一節 観覧

本會は八月十日正午開會式を終ると共に、一般公衆の観覧を許し、二十四日午後九時閉會したのであるが、會期十五日間は常に豫期以上の盛況を持續し、中にも十五日は一萬三千餘の観覧者を迎へ、入場總員八萬八千八百九十九人、一日平均五千八百七十二人強を占め、而も毎日午後五時から八時までには數千人を迎へて雑踏を極め、會場内外は人を以て埋まるの好況を呈したのである。

尙地方からの観覧團體の主なるものは七飯、峠下、森、八雲、福山の衛生火防組合員婦人會員等であつた。會期中毎日の入場人員は左の通りである。

日	大人		小		合計
	當日賣前	入場券	當日賣前	入場券	
十日	二、四〇〇	一、四三〇	七五八	五七〇	五、四〇八
十一日	一、八八八	一、一〇一	五九六	七六〇	五、三五六
十二日	二、一四七	一、七六六	六四五	一、三七〇	五、四四六
十三日	三、三三三	一、五六八	六四五	一、三七〇	五、四四六
十四日	二、四〇〇	一、四三〇	七五八	五七〇	五、四〇八
計	一、一〇七	三、三三三	二、一七二	一、一〇七	一、一三三
合計	一、一〇七	三、三三三	二、一七二	一、一〇七	一、一三三

日	大人		小		合計
	當日賣前	入場券	當日賣前	入場券	
十五日	五、六七九	二、八七三	三、四九四	一、二二三	一三、一五六
十六日	四、〇五〇	二、〇五九	一、三〇八	五八〇	一、八八八
十七日	三、四〇三	一、九三〇	八六四	四九五	一、三五九
十八日	一、八三七	九三八	四二一	二四九	六六〇
十九日	二、〇七七	一、一八六	五七一	三三七	九八
二十日	二、三〇六	一、二七〇	三六一	三六五	九九六
廿一日	二、六六〇	一、五九九	七六六	四一九	一、一五五
廿二日	一、九七三	六九三	四四五	三三五	六八〇
廿三日	三、一八一	一、六三四	八六四	五三三	一、三九七
廿四日	三、六六八	一、九九五	九八三	五九九	一、五八一
計	三、九八八	三、三五四	二、九三九	七、七三三	一、九六二
合計	三、九八八	三、三五四	二、九三九	七、七三三	一、九六二

## 第二節 取締

場内の取締は係委員の外、函館商業學校上級生三十八名を各室に配置して取締を兼ね委員と共に、説明の任に衝らしめ、一方警察官と消防員との派遣を得て、取締、整備に遺漏なきを期し、又場外は春日、青柳、相生各町の青年團員と在郷軍人班とは聖天坂一帯の交通整理、撒水、清掃等に當られたため、混雑に終始した本會も大なる事故なきを得たのである。

# 第八章 儀 式

## 第一節 開 會 式

開會式は風雨のため函館公園廣場の式場を市立函館図書館樓上に移して八月十日午前十一時半より擧げ左の順序にて正午終了した、式辭、告辭、祝辭等左の如くである。

- 式 順
- 一、開式ノ辭
  - 一、奏 樂 (君カ代)
  - 一、委員長申告
  - 一、會長式辭
  - 一、總裁告辭
  - 一、來賓祝辭
  - 一、閉式の辭
- 申 告

函館市内衛生火防關係各團體主催北海道衛生火防展覽會設備成り茲ニ本日ヲ以テ其開會ノ機運ニ達セルヲ欣フ

顧レハ昭和五年十一月開設ヲ企圖シ爾來主催團體役員一同ハ朝野ノ贊襄ヲ求ムルト施設計畫ノ樹立トニ熱誠努力セラレ越ヘテ本年四月事務開始以來本會役職員一同夙夜勉勵日モ亦足ラサルヲ憾ミシモ幸ニ關係諸官署ノ翼賛ト出品人諸氏ノ精勵トニ依リ諸般ノ準備ヲ整フルヲ得タリ

而シテ出品ハ本邦ニ於ケル資料ノ精ヲ拔キ其ノ陳列品ハ立體的ノモノ多ク且電動模型モ亦尠カラズ殊ニ衛生部ニ於テハ運動ニ關スル資料ト多クノ藥用植物トヲ展示シ又火防部ニ在リテハ失火ノ原因其他ニ付キバノラマ式ニ羅列スル等火ノ用心ト生ノ用心トヲ最モ組織的ニ且切實ニ觀覽セシムコトヲ念トセリ從テ會場ニ約二百坪ヲ増築シテ總建坪千三百坪ヲ算スルノ盛觀ヲ呈セリ

本會發起ヨリ茲ニ十閱月苦心經營セルモ未タ充實完整ヲ期セリト謂フヲ得サルヲ遺憾トスルモ幸ニ大過ナク進行シタルハ偏ニ官公有志ノ指導誘掖ト委員諸氏努力ノ賜ニシテ感謝措ク能ハサル所ナリ

茲ニ開會式ヲ擧ケラルルニ際リ其梗概ヲ述ヘテ申告トス

昭和六年八月十日

北海道衛生火防展覽會

委員長 高橋文五郎

式 辭

北海道衛生火防展覽會ノ設備整ヒ茲ニ開會ノ式典ヲ擧クルニ至リマシタコトハ洵ニ欣快ニ禁ヘズ所デアリマス

抑モ本會ノ開催ハ本道ニ於ケル衛生組合創立四十年及火災豫防組合創立二十年ヲ記念シ衛生火防ニ關スル道民ノ思想ヲ啓發シ之ヲ實行セシメムトシテ財界未曾有ノ大不況ヲモ顧ミス函館市内關係各團體カ提携主催シマシタ所幸ニモ一般ノ覺悟ヲ得内ニ在テハ總裁閣下ノ指導ト諸多委員各位ノ熱誠努力加フルニ協賛會ノ設置トニ依リ豫期以上ノ規模ヲ以テ開設スルニ至リマシタコトヲ衷心ヨリ慶フト同時ニ爰ニ謹テ敬意ヲ表スルモノデアリマス

希クハ大方諸彦ニ於カレテモ本會ノ開催ハ國家富強ノ基本デアツテ本道拓殖ノ原動力テアル道民ノ健康増進ト災害豫防トニ貢獻セムトセル趣旨ヲ諒セラレ本會ヲシテ有終ノ美ヲ濟サシメラレンコトヲ

一言所懐ヲ述ヘ式辭ト致シマス

昭和六年八月十日

北海道衛生火防展覽會

會長正五位勳四等 坂 本 森 一

告 辭

本日茲ニ北海道衛生火防展覽會ノ開催セララルニ方リ一言蕪辭ヲ述フルノ機會ヲ得タルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ

惟フニ近時複雑ナル世相ハ財界ノ不況ト相俟ツテ吾人ノ身體財産ヲ障害スルコト甚シク國家社會ノ爲遺憾ニ堪ヘサルモノアリ須ラク衛生施設ヲ整備シテ身體ノ健康ヲ保全スルト共ニ火防設備ヲ普及シテ財産ノ安固ヲ確保セサルヘカラス函館市コ、ニ見ル所アリ衛生火防展覽會ヲ開催シテ民衆ノ思想啓發ニ資スルト同時ニ健康週間ヲ實施シテ其ノ徹底ヲ圖ラントス定ニ時宜ニ適

シタルモノトイフヘシ

各位克ク協心戮力以テ所期ノ目的ヲ達成セラレンコトヲ

昭和六年八月十日

北海道衛生火防展覽會

總裁 池 田 秀 雄

祝 辭

茲ニ北海道衛生火防展覽會ノ開催ニ方リ其席ニ列シ祝詞ヲ述フルヲ得ルハ不肖ノ光榮トスル所ナリ

抑々衛生ト火防ハ社會生活ニ伴フニ大要務ニシテ其思想ノ普及施設ノ完備ニヨリ初メテ生命財産ノ安固産業文化ノ發展ヲ期待シ得ヘク實ニ人類ノ福祉ハ之ニ根源スト言フヲ憚ラサルナリ

今之ヲ實際ニ見ルニ我國ノ衛生状態ハ漸次良好ノ域ニ進ミツ、アリト稱スルモ其死亡率ハ未タ英國ニ三倍シ殆ント世界無比ノ高位ニ在リ而シテ之ヲ當市ノ實狀ニ顧ルニ市街ハ海ニ濱ミ山ヲ背ヒ空氣清新極メテ健康地タルノ素地ヲ備フルニ係ラス實績必スシモ之ニ伴ハサル憾アリ更ニ火災ノ災厄ニ付テハ明治四十年來幾度カ慘憺タル經驗ヲ嘗メ近年水利火防ノ施設漸ク充實シ建築ノ改良ト相俟チ再ヒ往年ノ災禍ヲ繰返スノ憂ナキニ至レルハ誠ニ住民ノ至福トスル所ナリト雖モ出火度数ハ必スシモ減セス未タ以テ晏如タルヲ容サ、ルモノアリ

此秋ニ於テ本展覽會ヲ開催セラル洵ニ機宜ヲ得タル企圖ニシテ以テ市民ノ覺醒ヲ促シ其福祉ニ貢獻スル所大ナルモノ有ルヘキ

ヲ信ス幸ニ多數市民ノ觀覽ヲ得所期ノ目的ヲ充分ニ達成セラレムコトヲ望ム  
聊カ蕪辭ヲ述ヘテ祝詞トス

昭和六年八月十日

北海道衛生火防展覽會  
協贊會長

函館商工會議所會頭 坂 本 作 平

祝 辭

北海道衛生火防展覽會ノ準備成リ茲ニ開會式ヲ舉行セラル、ニ當リ一言祝辭ヲ陳フルヲ得ルハ洵ニ光榮トスル所ナリ  
凡ソ衛生ト火防トハ共ニ吾人ノ生活ニ密接不離ノ關係ヲ有スルモノニシテ其ノ完璧ヲ期スルハ個人ノ幸福タルニ止ラス一面亦  
市民ノ一義務ナリト言ハサル可ラス之レカ爲メニハ各人ノ自省ニ俟ツヤ論ヲ俟タサルモ當局ノ指導啓發宜シキヲ得テ初メテ其  
萬全ヲ期スルヲ得ヘク主催者爰ニ鑑ミルトコロアリ乃チ本會ヲ開催シテ多數ノ資料ヲ蒐集展ホシ衛生火防ノ思想ヲ普及セシム  
洵ニ機宜ヲ得タルモノト謂フヘシ蓋シ本會開催ノ結果一般公衆ニ齎ス効果極メテ意想ノ外ニアラム終リニ臨ミ主催者ノ周到ナ  
ル計畫ト出品者各位ノ努力トニ對シ滿腔ノ敬意ヲ表ス

本日此ノ席ニ列シ欣快措ク能ハス一言叙シテ祝辭トナス

昭和六年八月十日

函館商工組合聯合會會長 齋 藤 榮 三 郎

祝 電

北海道衛生火防展覽會ノ開催ヲ祝ス

内務省衛生局長 赤 木 朝 治

遙ニ本日ノ盛典ヲ祝ス

北海道大學總長 南 鷹 次 郎

御盛典ヲ祝ス

室 蘭 市 長 松 尾 豐 次

御盛會ヲ祝ス

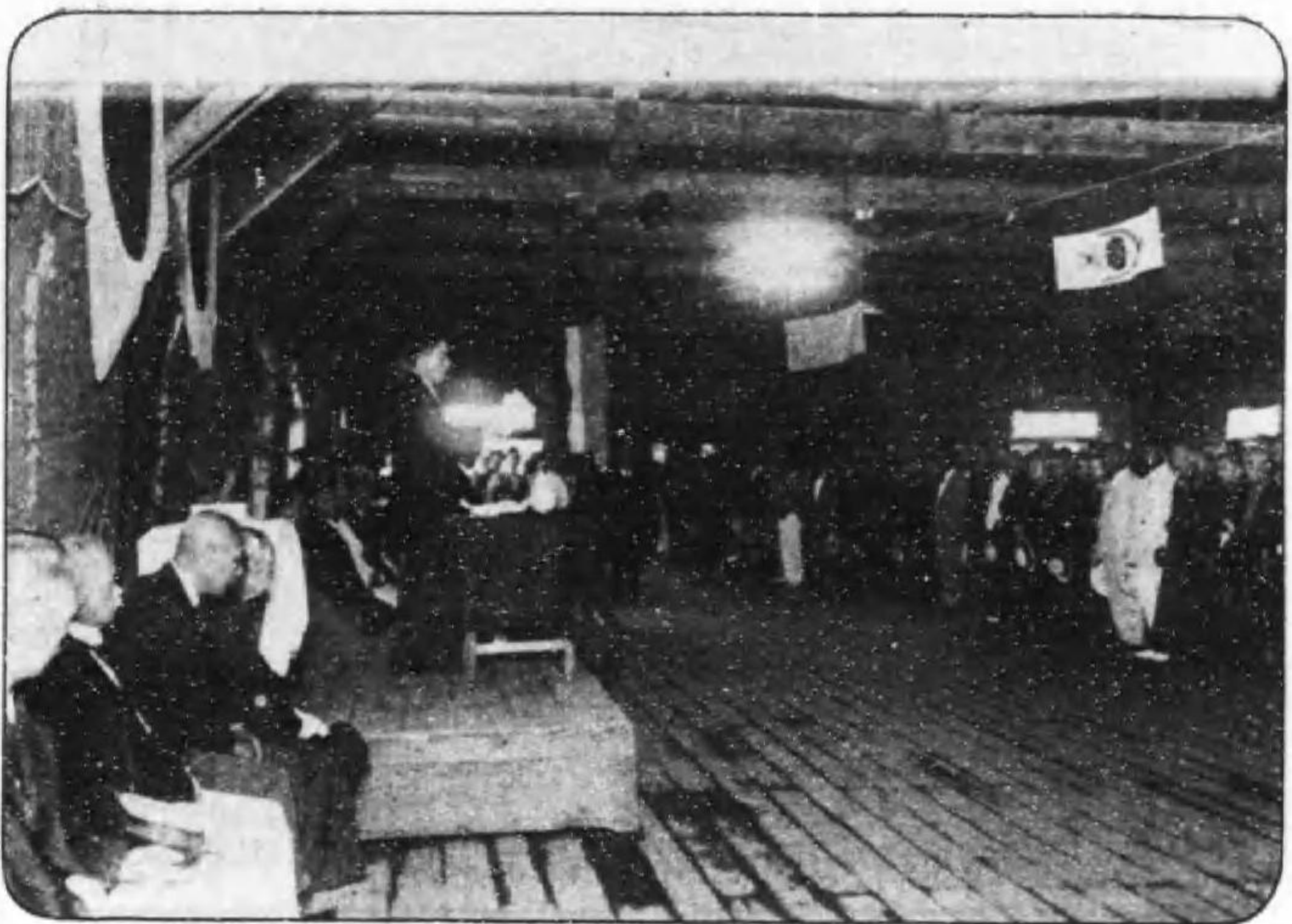
北海道會議員 佐 々 木 鐵 之 助

御盛會ヲ祝ス

大日本消防協會 星 出 隆 輔

展覽會ノ御盛會ヲ祝ス

岩見澤火防聯合會



第二節 閉會式

閉會式は八月二十四日午前九時より寶小學校に於て擧げたが、出席者は來賓及本會役員出品人等を加へ五百有餘に上り、成功を壽ぐ喜色は場内に滿ち渡りぬ。

式 順

- 一、開式ノ辭
- 一、奏 樂 (君カ代)
- 一、委員長申告
- 一、會長式辭
- 一、總裁告辭
- 一、來賓祝辭
- 一、閉式ノ辭

函館市内關係團體主催北海道衛生火防展覽會開會以來茲二十有五日間入場者八萬餘ノ多キニ達シ出品モ亦千三百坪ノ會場ニ滿ツ且ツ協賛會ハ餘興ニ、催シ物ニ保健衛生ト火防トニ因メルモノヲ選ミテ本展覽會開設ノ意義ヲ強調シ他面井上副會長新作ノ新函館小唄ヲ紹介シテ郷土宣傳ニモ努メ一校舎利用ノ施設トシテハ間然スル所ナキヲ得タルハ偏ニ官公有志ノ援助ト委員一

同ノ獻身的努力ト又開會以來本展覽會ノ江湖紹介ニ力メラレタル新聞社各位ノ深甚ナル同情トノ賜ニシテ茲ニ滿腔ノ謝意ヲ表スルモノナリ  
惟フニ本會ノ施設ハ本道ニ於ケル衛生火防界ニ尠カラサル貢獻ヲ爲シ得タルヲ疑ハス今ヤ會期滿ツ希クハ本日ヲ以テ閉會セラレムコトヲ

昭和六年八月廿四日

北海道衛生火防展覽會

委員長 高橋文五郎

式 辭

北海道衛生火防展覽會會期滿ち茲に本日をして成功裡に閉會の式を擧ぐるに榮りましたことは洵に歡喜に堪へぬ所であり

本會は其名の如く一の展覽會に過ぎないので大衆の歡迎する觀覽施設としては缺くる所多く且會期も短いのでありますが開會以來入場者實に八萬餘を算し殊に一日の多きは一萬三千餘の入場者がありまして當市に於ける共進會展覽會の最大記録を作りましたのは一に市郡に於ける住民各位の衛生と火防とに對する念慮の厚きを如實に物語るもので主催團體の努力も亦空しからぬ所であると信じます

庶くば本展覽會の開設を期として益々公私一致協心戮力以て保健衛生と火災豫防とに貢獻あらんことを終に委員各位の熱誠な

る努力と有志諸彦の深厚なる援助とに對し衷心より感謝の意を表するものであります  
一言を陳べ式辭と致します

昭和六年八月二十四日

北海道衛生火防展覽會

會長 正五位勳四等

坂

本

森

告 辭

北海道衛生火防展覽會々々期滿チテ本日茲ニ閉會式ヲ舉ク本會ハ規模宏大ニシテ内容充實シ經營亦其宜シキヲ得テ入場者數八  
萬八千ヲ超ユルノ盛況ヲ呈シ衛生火防思想ノ普及向上ニ致シタル功績蓋シ尠少ナラサルヲ信ス是レニ役員諸氏ノ熱誠ナル努  
力ノ結果ニシテ深ク其勞ヲ多トスル所ナリ

惟フニ函館市ハ我北海道ノ咽喉ヲ扼シテ内外交通ノ要路ニ衝ルノミナラス北洋漁業ノ根據地トシテ益々將來ノ發展ヲ期待セラ  
ル衛生火防施設ノ整備愈々肝要ナリト謂フヘシ

翼クハ諸氏克ク本會ノ實績ニ鑑ミ今後一層ノ奮勵アラントコトヲ

昭和六年八月廿四日

北海道衛生火防展覽會總裁

池

田

秀

雄

祝 辭

北海道衛生火防展覽會ハ本日ヲ以テ會期滿了シ茲ニ閉會式ヲ舉ケラル、ニ當リ一言祝詞ヲ述フルハ誠ニ欣幸トスル所ナリ  
顧ミルニ本會々々期十五日間其展示スル資料ハ汎ク全國ニ採リ系統ニ從テ之ヲ配列シ説明亦周到觀覽者ヲシテ一々衛生火防ノ忽  
ニスヘカラサル所以ヲ首肯セシムルモノアリ主催者ノ苦心察スヘシ宜ナル哉入場者溢カニ豫定ノ數ヲ超ヘ且道廳長官ノ特ニ駕  
ヲ枉ケラル、アリ其他本道視察者ノ之ヲ觀覽セルモノ亦少ナカラサルカ如キ尙獻意外ノ方面ニ及ヘルモノアルヲ知ルヘシ  
幸ニ天候順調豫期以上ノ成績ヲ以テ始終シ得タルハ協賛會トシテ滿腔ノ祝意ヲ表スルト共ニ主催者連日ノ精勵ニ對シ感謝措ク  
能ハサルモノアリ

一言蕪辭ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和六年八月二十四日

北海道衛生火防展覽會協賛會長

函館商工會議所會頭

坂

本

作

平

祝 辭

北海道衛生火防展覽會本日ヲ以テ終了ヲ告ケ爰ニ閉會式ヲ舉ケラル誠ニ慶祝ニ堪ヘス  
顧ミルニ本會ハ會期十有五日其ノ期間長シト謂フヘカラサルモ入場人員ハ實ニ十萬ヲ數ヘ其ノ展示セラレタルモノハ衛生火防  
ノ各般ニ亘リ切實ナル智識ヲ與ヘ觀者ヲシテ一日直チニ衛生ノ眞髓ト火防ノ至要トヲ覺ラシメ或ハ深ク内ニ顧ミ或ハ災禍ノ恐  
ルヘキニ戰慄セシムル等其ノ印象ヲ與ヘタルヤ極メテ多大ニシテ効果計ルヘカラサルモノアリ吾人ハ此ノ好成绩ヲ得タルヲ喜

ヒ會長始メ關係各位ノ努力ニ滿腔ノ敬意ヲ致スモノナリ  
 一言無辭ヲ述ヘテ祝辭トナス  
 昭和六年八月二十四日

函館商工組合聯合會  
 會長 齋藤榮三郎

### 第九章 經費

本會の經費豫算額一萬五千五百圓であるが之れに對し決算額一萬八千九百九十三圓九十四錢に上り、差引三千四百九十三圓九十四錢の超過を示したのである、これ入場料收入に於ては豫算と懸け離れた增收を見たと、北海道廳、函館市、市内各團體其他各方面の多大なる翼賛を得たことが其主因であつて、茲に感謝の意を表する次第である。

而して豫算と收支決算をせば左表の如くであつて、收支差引殘二千四百九十九圓八十錢より本報告編纂印刷其他の必要費を支出し殘餘は一時積立て置くのである。

#### 豫算

款	項	豫算額	摘
一、補助金	一、地方費補助	三、〇〇〇〇〇	
	二、函館市補助	一、〇〇〇〇〇	
	三、北海道火災豫防組合聯合會補助	二、〇〇〇〇〇	
二、醸出金	一、衛生火防組合醸出金	八、五〇〇〇〇	
	二、團體其他醸出金	四、五〇〇〇〇	衛生火防組合以外ノ關係團體其他有志
三、雜收入	一、入場料	四、〇〇〇〇〇	大人十錢三萬人 小供五錢一萬人
	二、雜入	三、五〇〇〇〇	不用品代使用料等
計		一五、五〇〇〇〇	

款	項	豫算額	摘
一、設備費		三、〇〇〇〇〇	

第一欸補助金	款	決算收入	金額							
			項	額	摘	要				
	八、豫備費	計	一、豫備費	1,000,000						
			六、雜費	100,000						
			五、會議費	100,000						
			四、雜給	500,000		旅費手當等				
			三、通信費	100,000						
			二、消耗品費	300,000						
			一、印刷費	300,000						
	七、事務費		二、雜費	1,000,000		閉關二回分				
			一、式典費	500,000						
			計	15,500,000						

六、諸費	五、審査費	四、宣傳費	三、會場費	二、直營室費	金額	
					項	額
					一、場外設備費	1,500,000
					二、場內設備費	1,800,000
					一、衛生室費	6,000,000
					二、防火室費	3,000,000
					三、室分一室二百五十圓	3,000,000
					十二室分一室二百五十圓	1,400,000
					一、四〇〇〇〇	1,400,000
					看視人給料其他	600,000
					下足扱人夫賃及草履代	600,000
					警備救護其他	600,000
					三、下足扱費	300,000
					二、視費	300,000
					三、雜費	300,000
					一、印刷費	1,500,000
					二、催費	300,000
					三、雜費	1,000,000
					一、審査諸費	300,000
					二、褒賞費	200,000
					計	7,000,000



款	項目	金額	摘要
第一款 設 備 費	一項 場 外 設 備 費	二,六二六〇〇	正門、裝飾塔、停車場案內所、裝飾幕其他
	二項 場 內 設 備 費	一四三,四〇〇	奏樂堂、廊下裝飾、場內電燈電力料其他
	二項 衛 生 室 費	七,〇〇三六〇	各室陳列裝飾、借入陳列品損料及運賃其他
第二款 直 營 室 費	二項 火 防 室 費	四,三五六〇	同上
	二項 火 防 室 費	二,四七〇八〇	同上
第三款 會 場 費	一項 看 視 費	一,九三三五〇	
	二項 下 足 拔 費	六〇六五〇〇	
	三項 雜 費	三〇〇五〇〇	
第四款 宣 傳 費	一項 印 刷 費	九六〇〇五〇	
	二項 催 費	二,〇三三七〇	
	三項 雜 費	一,四三二〇〇	
計		一八,九九九〇〇	

款	項目	金額	摘要
第一款 醜 出 金	一項 地 方 費 補 助	一,〇〇〇〇〇	
	二項 函 館 市 補 助	二,〇〇〇〇〇	
	三項 北 海 道 火 災 豫 防 組 合 聯 合 會 補 助	六〇〇〇〇	
第二款 寄 附 金	一項 衛 生 火 防 組 合 醜 出 金	五,三九五〇	
	二項 其 他 團 體 醜 出 金	四,六五九〇	五十組合醜出金 九團體醜出金
第三款 雜 收 入	一項 寄 附 金	三,三〇〇〇〇	有志百二十四名寄附金
	二項 雜 入	三,三〇四〇〇	
計	一項 入 場 料	七,三四〇一〇	
	二項 雜 入	六,〇四〇〇	

金額	醸金團體名	金額	醸金團體名
二七、〇〇	山背泊町	三〇、五〇	曙見町
二八、〇〇	豪見町	八〇、〇〇	青柳町
九五、〇五	船止町	九九、〇〇	春日町
二七、〇〇	駒止町	七〇、〇〇	谷地頭町
七七、〇〇	天龍町	一二三、七一	住吉町
五〇、〇〇	旅籠町	六九、〇〇	相生町
五九、二五	鍛冶町	一〇二、七五	相生町
八〇、五〇	大黒町	一一〇、二五	蓬萊町
七七、〇〇	外三淵町	六四、〇〇	寶藏町
二〇、〇〇	外四天ヶ町	八二、〇〇	惠比須町
四八、二五	富岡町	一一一、七五	地蔵町
一六二、〇〇	大仲濱町	一〇五、二五	船場町
一七五、〇〇	東末廣町	一〇八、二五	豊川町
七三、五〇	會所町	九七、〇〇	東川町
一〇二、〇〇	元町	九六、七五	榮町
一七五、〇〇	東末廣町	九七、〇〇	旭町

一三九

(甲)衛生火防組合

### 第十章 醸金及寄附金

計	第六款 事務費	第五款 諸費
六項 雜費	一項 印刷費	一項 式典費
五項 會議費	二項 消耗品費	二項 雜費
四項 雜給費	三項 通信費	一項 式典費
三項 通給費	二項 印刷費	二項 雜費
二項 消耗品費	一項 印刷費	一項 式典費
一項 印刷費		
二九五、七〇	一八〇、三〇	一、四三八、四〇
一〇五、〇〇	二九五、七〇	一、二九一、三〇
一四五、五〇	一八〇、三〇	三四五、三〇
八五六、〇〇	二九五、七〇	一、四三八、四〇
三六五、〇〇	一〇五、〇〇	一、二九一、三〇
三五六、九〇	一四五、五〇	三四五、三〇
一六、八四一、四〇	六項 雜費	一項 式典費

一三八



二五〇〇 湯ノ川共和見番藝妓置屋組合  
 二五〇〇 青柳町火衛防生組合  
 二〇〇〇 東部千代ヶ岱火衛防生婦人會  
 二〇〇〇 湯ノ川村火災豫防組合  
 二〇〇〇 大濱町火衛防生婦人會  
 二〇〇〇 仲濱町火衛防生婦人會  
 二〇〇〇 寶町火衛防生婦人會  
 二〇〇〇 蓬萊町火衛防生婦人會  
 二〇〇〇 函館製網船具株式會社  
 二〇〇〇 函館魚市場株式會社  
 二〇〇〇 拓殖無盡株式會社  
 二〇〇〇 函館結髮保健組合  
 二〇〇〇 函館洗濯業組合  
 二〇〇〇 函館清涼飲料水組合  
 二〇〇〇 函館肉商組合  
 二〇〇〇 函館信用組合  
 二〇〇〇 元町火衛防生組合  
 二〇〇〇 函館凍氷組合  
 二〇〇〇 函館見番組合  
 二〇〇〇 函館商船株式會社  
 二〇〇〇 株式會社林兼商店函館出張所  
 二〇〇〇 函館酒問屋組合  
 二〇〇〇 日本工船漁業株式會社函館出張所  
 二〇〇〇 函館船渠株式會社  
 二〇〇〇 合名會社 酒原商店  
 二〇〇〇 函館 吳服商組合  
 二〇〇〇 相生町 若山德次郎  
 二〇〇〇 西濱町 太刀川善吉  
 二〇〇〇 谷地頭町火衛防生組合有志  
 二〇〇〇 新川町東部衛生火衛防生組合  
 二〇〇〇 大黒町火衛防生組合  
 二〇〇〇 海岸町火衛防生組合役員一同  
 二〇〇〇 湯川商業同志會  
 二〇〇〇 湯川共和見番  
 二〇〇〇 湯川旭見番藝妓置屋組合  
 二〇〇〇 湯川旭見番

一五〇〇 湯川村衛生組合  
 一五〇〇 西川町衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 北海無盡合資會社  
 一五〇〇 清水商事株式會社  
 一五〇〇 西信組代表 小野庄吉  
 一五〇〇 會所町衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 春日町衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 住吉町衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 東川町 塚田才次郎  
 一五〇〇 辨天町 岩船峰次郎  
 一五〇〇 曙町 衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 汐見町 衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 海岸町 衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 大繩町 衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 三ヶ淵町 衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 船見町 衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 湯見町 衛生火衛防生組合  
 一五〇〇 根崎川 旅館專業俱樂部  
 一五〇〇 龜田郡 第一理髮保健組合  
 一五〇〇 船見町 衛生火衛防生組合  
 一〇〇〇 大黒町衛生火衛防生組合  
 一〇〇〇 榮町衛生火衛防生組合  
 一〇〇〇 鶴岡町衛生火衛防生組合  
 一〇〇〇 第一印刷株式會社  
 一〇〇〇 函青汽船株式會社  
 一〇〇〇 高森衛生火衛防生組合  
 一〇〇〇 株式會社 函館運送社  
 一〇〇〇 函館重油タンク株式會社  
 一〇〇〇 函館冷藏株式會社  
 一〇〇〇 大日本人造肥料株式會社  
 一〇〇〇 帝國製菓株式會社  
 一〇〇〇 函館木工家具組合  
 一〇〇〇 西川町衛生火衛防生組合役員一同  
 一〇〇〇 函館空物商組合  
 一〇〇〇 函館古物商組合  
 一〇〇〇 函館履物商組合  
 一〇〇〇 函館味噌醬油組合  
 一〇〇〇 函館金物商組合  
 一〇〇〇 大黒町衛生火衛防生組合  
 一〇〇〇 榮町衛生火衛防生組合  
 一〇〇〇 鶴岡町衛生火衛防生組合  
 一〇〇〇 第一印刷株式會社  
 一〇〇〇 函青汽船株式會社  
 一〇〇〇 高森衛生火衛防生組合  
 一〇〇〇 株式會社 函館運送社  
 一〇〇〇 函館重油タンク株式會社  
 一〇〇〇 函館冷藏株式會社  
 一〇〇〇 大日本人造肥料株式會社  
 一〇〇〇 帝國製菓株式會社  
 一〇〇〇 函館木工家具組合  
 一〇〇〇 西川町衛生火衛防生組合役員一同  
 一〇〇〇 函館空物商組合  
 一〇〇〇 函館古物商組合  
 一〇〇〇 函館履物商組合  
 一〇〇〇 函館味噌醬油組合  
 一〇〇〇 函館金物商組合

一〇〇〇〇〇	函館書籍商組合	相生町	杉村米藏
一〇〇〇〇〇	函館鑛工業組合	惠比須町	大植アサエ
一〇〇〇〇〇	函館酒造業組合	相生町	吉田謙助
一〇〇〇〇〇	函館餅饅商組合	同	井上利三吉
一〇〇〇〇〇	函館製綿業組合	同	小山上友次郎
一〇〇〇〇〇	函館鍼灸按摩術組合	同	西川寺尾庄藏
一〇〇〇〇〇	函館水産組合	同	西川寺尾庄藏
一〇〇〇〇〇	函館畜産組合	同	鶴岡町
一〇〇〇〇〇	松竹座	新川町	及能千松
一〇〇〇〇〇	演藝座	若松町	鎌田支店
一〇〇〇〇〇	三井物産株式會社	松風町	能登川一郎
一〇〇〇〇〇	辨天倉庫株式會社	高砂町	菅谷健一
一〇〇〇〇〇	千島汽船株式會社	新川町	信濃俊一郎
一〇〇〇〇〇	小倉倉庫株式會社	同	杉野三太郎
一〇〇〇〇〇	擇捉水産株式會社	同	高木莊次
一〇〇〇〇〇	谷地頭町品田政雄	中濱町	青木雄
一〇〇〇〇〇	惠比須町澤口倉松	大濱町	木村多吉
一〇〇〇〇〇	惠比須町魚谷藤松	同	木島松藏

一〇〇〇〇〇	富岡町橋本捨次郎	北海道銀行若松町支店
一〇〇〇〇〇	同桂久藏	北門銀行函館支店
一〇〇〇〇〇	鍛冶町烏海義映	十二銀行出張所
一〇〇〇〇〇	鮎淵町田村與三郎	國産製菓株式會社
一〇〇〇〇〇	旅籠町衛生火防組合	函館紹介業組合
一〇〇〇〇〇	中央火災保險代理店大澤源次	函館共融會社
七〇〇〇〇	函館下宿業組合	龜田食品加工組合
七〇〇〇〇	臺町衛生火防組合	函館青物市場
五〇〇〇〇	辨天町美人バード 澁木周二	臺灣青果函館荷受組合
五〇〇〇〇	根崎溫泉親睦會	飲料水銀線工場
五〇〇〇〇	根崎衛生火防組合	函館私立消毒所 柏留吉
五〇〇〇〇	志田倉庫株式會社	新川町木島製綱工場
五〇〇〇〇	葛西倉庫	遊樂座
五〇〇〇〇	及能倉庫	中央座
五〇〇〇〇	浦田倉庫	合名會社共同河漕店倉庫部
五〇〇〇〇	北門貯蓄銀行函館支店	駒井合名會社
五〇〇〇〇	拓殖銀行松風町出張所	西濱町松川商店
五〇〇〇〇	安田貯蓄銀行函館支店	富岡町住谷寅吉





函館海產同業組合長 齋藤榮三郎	下宿業長 吉川安太郎	函館藝妓組合長 中村善太郎	蓬萊町藝妓組合長 桑高賢牛	函館見番長 叶内喜平	湯川置屋組合長 門脇末一	湯川溫泉旅館組合長 山口喜平	料理屋組合長 山脇末一	湯川溫泉旅館組合長 山口喜平	組川置屋組合長 門脇末一	味噌油製松居竹之助	造業組合長 宮崎大四郎	理髮保健組合長 大塚忠四郎
函館結髮組合長 笹谷キヲ	浴場組合長 高原熊吉	旅人宿業組合長 下山長之助	料理業組合長 安達新松	和洋食業組合長 平山力松	餅饅頭組合長 關山庄次郎	肉商組合長 土橋多次郎	清涼飲料水業組合長 廣安幸次郎	製氷業組合長 北原鉦太郎	質商組合長 濱崎金助	貸座敷業組合長 西島儀助	鍼灸按摩業組合長 種市福右衛門	請負業組合長 竹内新太郎
運送鮮業組合長 齋藤五一郎	藥業組合長 白崎七左衛門	藥種商組合長 濱野清吉	菓子商組合長 中瀬彌八郎	鐵工業組合長 目黒徳次郎	麵類商組合長 大橋喜太郎	古物商組合長 増野清次郎	製綿商組合長 坂口善助	金物商組合長 進藤榮太郎	吳服商組合長 荻野清六	書籍商組合長 佐野政治	木材商組合長 齋藤初三郎	和洋小間物商組合長 齋藤修平

團體代表

齋藤初三郎	杉村福松	澁谷源吉
-------	------	------

和野芳次郎	荻野清六	秦茂三	濱崎金助	橋谷甚右衛門	濱岡平八郎	石塚彌太郎	市川龜次郎	神永貞助	辻才次郎	谷藤巳松	竹内新太郎	谷富平	武田元次郎	鷹田善太郎	高村善太郎	岡本康太郎	宮本武之助	佐野鎮治	坂井權十郎	酒井權十郎	佐々木玄吉	小島清吉	前田嘉左衛門	大坪孝一
-------	------	-----	------	--------	-------	-------	-------	------	------	------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	--------	------

函館商工會議所議員

松田令司	山崎松次郎	田中定正	谷川定次	河合繁	金子勉	加藤強	菊池洲二	齋藤友二	佐々木文治	厚谷厚	小川彌四郎	小森良三	藤山四郎	白尾	菅宮清	宮川義	植川道一	三森一郎	木内一	白尾	菅宮清	宮川義	植川道一	三森一郎	木内一
------	-------	------	------	-----	-----	-----	------	------	-------	-----	-------	------	------	----	-----	-----	------	------	-----	----	-----	-----	------	------	-----











元 會 東  
 所 濱  
 町 三 高 佐 久 浦 石 岡 前 伊 渡 宮 寺 新 小 花 渡 江 秦 秦 秦  
 戶 橋 々 保 田 井 本 田 豫 本 井 綱 井 邊 渡 敬  
 與 善 木 勝 嘉 武 四 富 彌 熊 健 清 茂 三  
 直 熊 榮 東 次 左 德 階 之 郎 完 太 吾 四 健 清 茂 三  
 吉 吉 吉 吉 七 一 郎 門 郎 助 助 衛 一 郎 平 郎 作 八 三 郎

青 藤 小 柳 岩 須 深 大 小 堀 小 小 梶 布 山 高 北 宮 小 上 松 中  
 木 野 澤 見 藤 谷 塚 林 林 川 川 日 內 橋 上 崎 林 田 川 島  
 初 平 善 仁 榮 文 忠 佐 清 大 倉 久 喜 正 善 保 良  
 太 太 常 慶 三 太 次 太 太 三 太 一 次 良  
 郎 郎 吉 助 七 納 吉 七 郎 吉 治 吉 吉 忠 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎 作

東 末 廣 町 東 部  
 濱 濱  
 一六一 武 阿 高 杉 若 淺 北 岡 三 松 寺 村 新 石 清 田 石 高 內 神 田 村  
 內 部 岡 村 岡 出 本 條 本 井 上 谷 川 田 本 塚 尾 山 永 村  
 留 金 德 康 清 正 新 榮 盛 哲 貞 五  
 時 彦 福 梅 太 太 泰 次 太 廣 次 永 又 重 盛 哲 貞 五  
 三 七 郎 松 郎 吉 郎 郎 治 郎 郎 居 郎 吉 吉 繁 郎 雅 雄 助 郎

大 帆 仲 小  
 黑 影 舟  
 小 小 高 白 竹 荒 玉 玉 堀 濱 平 野 堀 竹 村 千 濱 買 竹 町  
 橋 林 橋 倉 坂 井 村 村 崎 山 口 田 山 葉 谷 手 本  
 和 作 松 熊 茂 傳 清 與 岩 七 外 要 又 三 三 之 太  
 太 二 米 成 五 郎 松 吉 造 郎 吉 郎 郎 吉 藏 吉 郎 吉 助 郎  
 臺 幸 辨 新 西

場 天 濱 濱  
 田 山 井 藤 細 和 齋 小 橋 村 村 太 新 工 角 小 大 町 桑  
 町 中 谷 山 田 川 治 五 小 甚 右 雄 善 三 一 隆 房 次 與 次  
 仙 鶴 久 吉 伊 五 一 五 衛 川 與 進 隆 房 次 與 次  
 郎 藏 藏 松 吉 郎 郎 郎 門 吉 吉 郎 郎 三 吉 郎 門 郎

末 廣 町 西 部 仲 濱 大 富 岡  
 金 塚 小 佐 安 町 大 小 崎 木 大 大 柴 山 青 町 福 松 寺 町 山 富  
 井 本 島 藤 井 八 林 川 島 谷 庭 田 根 木 山 田 木 本 櫻  
 初 嘉 清 平 理 常 健 德 松 幸 彦 榮 政 助 榮 奧 之 次  
 太 久 郎 平 吉 吉 平 藏 藏 治 藏 平 平 吉 吉 雄 七 作 藏 松 郎



汐

留

若本町 北毛森齋藤小大大野内仲鶴谷 兒上田小宮高  
 林間 原利 藤 堂 越 村田 藤 玉 村 田 島 定 島  
 乙茂 鉦甚 又 德 久 梅金伊 巳 松 喜 誠 右 衛  
 吉市 郎 衛 吉 郎 吉 藏 郎 太 郎 郎 郎 吉 松 助 春 郎 二 門 清

豐

川

西

川

新高村山岩石外外高齋花名小小齋馬山小 喜佐小黒  
 田田田本 田 田 藤 野 取 林 山 關 場 口 野 多 々 林 丸  
 喜由久 李 茂 傳 情 村 木 富 士 永  
 久太一太三 太 安 信 太 文 歲 知 次 菊 豐 信 樂 將 峰 佐 太  
 太郎 郎 郎 郎 郎 吉 吉 郎 太 松 雄 郎 治 作 齊 平 造 吉 一 郎 助

東

川

一六五

田室池丸加菊古佐山平山黒小及水川中渡米乾 杉景  
 村 田 山 藤 地 谷 藤 口 賀 本 田 林 川 野 崎 邊 屋 澤 澤  
 喜 作 松 佐 松 清 七 與 喜 慶 熊 增 菊 天 誠 喜  
 文 次 太 太 次 次 三 三 彌 良 次 甚 新 三 太 源 太 次 意 一 喜  
 郎 吉 郎 郎 郎 郎 郎 平 太 吉 郎 吉 作 吉 郎 三 郎 郎 智 郎 七

寶

新海後三本上廣石井永中青永飯 柿岩梁安本小佐井  
 谷野 村 田 田 筒 井 島 井 本 見 川 達 田 林 藤 上  
 安 藤 涌 井 黑 常 藤 宗 三 芳 永 松 淺  
 次 次 藏 之 治 三 武 次 太 元 太 五 良 次 次 太 新 幸 次 喜 信  
 郎 郎 彰 吉 助 郎 郎 藏 郎 郎 吉 郎 郎 太 郎 郎 郎 作 吉 郎 一 三

惠

比

須

長長齋濱淺魚澤若瀧 石妹吉村熊島町吉本榊横館長  
 谷 藤 野 谷 澤 田 田 谷 田 間 山 川 谷  
 森 川 庄 崎 孫 口 佐 兵 石 八 常 啓 彌 清 川  
 長 權 太 金 右 藤 倉 太 太 正 百 長 藤 次 用 鐵 次 金 太 太 吉  
 五 郎 郎 助 門 松 松 豐 郎 郎 治 造 作 助 郎 吉 藏 郎 作 郎 郎 藏  
 吉 郎 郎 助 門 松 松 豐 郎 郎 治 造 作 助 郎 吉 藏 郎 作 郎 郎 藏

地

藏

一六四

坂三西西小田中佐河郡塗及生外進佐久町 山田山横淺  
 本 堀 澤 西 脇 野 合 師 能 駒 山 藤 保 田 村 口 山 沼  
 木 佐 普 太 山 郎 武 太 四 之 三 三 平 太 佐 馬 市 與 太 豐 三  
 音 耕 郎 八 郎 藏 松 雄 郎 郎 助 郎 郎 治 郎 市 吉 郎 助 郎 吉 郎  
 藏 三 助 八 郎 藏 松 雄 郎 郎 助 郎 郎 治 郎 市 吉 郎 助 郎 吉 郎

旭

河大齋田渡高大澁瀧佐小竹能宮長片鈴國 村山熊川  
尻島中邊橋山谷山<sup>\*</sup>林田崎谷野木兼 瀬本谷 添  
元堅 田與大川保 定源  
四次豐次兼仁喜豐庄德龍三辰新辰 元正右  
作郎吉郎藏作平作作郎治郎藏郎吉郎平英 郎吉藏門

東

雲

中山四大島高高高坂谷古加中 中江谷前菅笹山吉神  
村田<sup>迂</sup>輪田杉橋野牛內谷藤村 田口多原谷口川垣  
謙勝泰彌與喜太勇擔市太嘉喜甚良太三太  
重之太四 藏郎藏郎藏郎藏郎七 一郎吉郎吉郎郎郎吉  
作助郎郎吉作藏郎藏藏藏郎七 一郎吉郎吉郎郎郎吉

一六七

山菅熊岩昌今小佐草大長島長村高小揚河網小角歌北  
本野井崎中野川 刈谷田井原林本部坂田田 村  
莊榮辰仁千部松秀與悅 與松  
信桑泰春五太太嘉家鐵高太三次太三 三助次 忠義三  
助助郎吉郎郎郎吉造次藏郎郎郎郎寶郎八郎助次郎

水松松高金金笠東早蛭加柴木澤星增米小工森千岡佐  
間原尾島曾會川坂名藤田村野田光林藤秋部<sup>\*</sup>  
金幾石平 勘尙重一真壽 蒸多直  
善武之太民良太次 儀龍政貞 尙重一真壽 蒸多直  
吉次助八郎吉助郎郎助初治一次治助郎吉治信助吉吉

榮

淺士濱中桶野喜淺神植瀬森 町 金世押渡岸冥井笠柏佐  
尾井田島村多野田田川 道良見邊彌賀上川藤  
增聰正六藤治山定靜百 庄秀清貞右喜朝治留與  
久太太用 治 百 秀 衛  
助郎郎吉義松松郎二吉三藏 藏夫作作門作吉助吉作

一六六

木吉石熊小田伏木高緣塚田成松大三桶岩加堀山青佐  
村川谷菅中木多鹽庭倉島島田好井藤內本木 藤  
音矢粕 余泉西與 宇  
次平善太忠朝宗音幸與仁太豐東之三 吉與桑末宗三  
郎治吉郎治治重映吉作松夫松七泰助郎松松藏八一郎





千代ヶ岱西部

田島杉藤水伊畑小檜赤岡小田山四勝富林松外白關  
 島田井田島豫館澤杉中内戸榎本淵  
 儀三濱太三理正彌太太吞治友太秀五眞太孫五三  
 平藏吉郎郎松利助郎郎風郎勇記郎吉郎次郎吉郎松

櫻北芦永吉小糸小須近松山齋眞笠安宮秋磯大丸梁村  
 井田井原林川島藤藤永内藤狩井保田山見山藤田木  
 順久房太嘉喜繁留悖忠喜  
 太恭助之太政石長信三之一儀重太太久鶴太健太之  
 傳郎藏松助郎吉藏七一郎丞郎一平郎郎彌松郎三郎助

高

森

平松高木西細吉菊佐表小佐堀宮遠高布高稻古中副  
 田橋村田地藤形木川藤杉垣野島  
 初初爻清松木彌仁孝藤賢末  
 壽謙太彌次山太笑五定山三太三龜吉一二常太清  
 吉郎三郎吉郎七郎平郎吉郎松郎郎治藤郎郎喜郎繁

大

森

木井西石中上木寺阿宮井小北米荻船永後山田岡田西  
 村戶村岡野原村崎部上黑川田原木田藤崎野本川  
 熊米德福崎梅千九兵幾八清治藤鐵爲善  
 太太次太代藤之吉太百梅萬文貴次三太太三政太  
 吉吉郎郎郎郎吉治助藏郎藏吉藏造治郎郎郎郎吉郎

大淺高森岡竹戶小工武石出豐金深清濱平中原奧植久  
 川利田谷野内村野藤田川町田子尾野谷岡野田下村保  
 重佐新幸庄亭重仁松彌藤德  
 正太久次次太熊鐵直次兵鐵幸珍三英太乙金重三太太  
 清郎治郎郎郎吉藏藏郎衛外作藏吉治郎松藏藏郎郎郎

新

川

町

東

部

熊庄神爲進遠北東松佐川大野大佐增片山稻菅阿福  
 谷子谷國士藤橋見岸西村沼藤田山田垣原部井  
 熊直與堅甚一暢之代喜一次義一太亮淺寅次忠幸太  
 郎助助二正平郎藏助治美郎則美郎治治藏郎治次郎

海

岸

岡町 川河村前長笠不廣長岡小本阿林關蛇山大柴齊加  
 本 田 上 田 田 松 京 瀬 澤 崎 林 間 部 谷 川 越 田 藤 藤  
 藤 茂 見 善 秀 清 宗 萬 三 久 德 一 次 長 太 定 十 菊  
 太 政 豐 三 政 豐 三 見 善 秀 清 宗 萬 三 久 德 一 次 長 太 定 十 菊  
 郎 一 吉 郎 間 二 吉 藏 一 清 藏 太 吉 松 郎 郎 孝 郎 雄 松 治 昇

龜

田

村

細内 吉竹鈴原中高野成鍛西山赤坂藤木小小金福松能  
 井 田 原 谷 谷 橋 村 田 冶 上 田 阪 口 野 村 泉 林 田 原 丈  
 辰 辰 善 芳 陸 慶 繁 榮 松 正 仁 市 幾 仁  
 五 之 太 彼 一 次 之 豐 安 一 太 由 太 善 次 之 太 五 次 喜 三 丈  
 郎 助 郎 吉 太 郎 丞 吉 吉 郎 郎 松 郎 助 郎 助 郎 郎 郎 藏 郎 吉

一七三

工石管水松長濱竹菅小福佐高內福川筒絹寺氏伊山土  
 橋 山 岡 田 坂 田 原 河 田 橋 村 久 島 井 田 井 家 藤 吹 岐  
 藤 原 岡 田 坂 田 原 河 田 橋 村 久 島 井 田 井 家 藤 吹 岐  
 德 清 小 佐 木 米 久 榮 清 甚 五 源  
 圭 爲 治 音 長 寅 作 之 勇 一 市 五 權 太 甚 太 次 吉 三 一 八  
 一郎 松 郎 吉 市 藏 彌 助 松 郎 松 郎 作 郎 藏 郎 郎 助 崎 郎 郎 郎

新川町西部

西 淺 野 髭 錢 富 上 長 松 佐 永 黑 小 但 吉 川 佐 北 阿 木 菊 神  
 多 田 塙 本 谷 成 島 井 本 藤 田 須 田 野 田 崎 木 口 部 浪 地 藤  
 久 太 次 仕 次 宗 太 太 源 一 米 次 清 清 謙 福 常 文 慶 平 三  
 松 郎 郎 平 郎 吉 郎 郎 治 郎 吉 郎 郎 助 吾 勝 郎 吉 勝 吉 重 郎

松 一 長 石 辻 酒 木 福 小 淺 青 渡 中 北 勝 貞 堀 齋 島 坂 日 一 羽  
 田 色 川 眞 新 榮 藏 五 次 用 卒 萬 次 太 太 武 定 貞 五  
 助 潔 郎 郎 次 郎 藏 郎 正 郎 實 郎 作 清 郎 藏 郎 郎 藏 郎 郎 藏 郎 雄 吉 郎

大

繩

磯 坂 草 西 畝 荒 高 北 川 荒 岩 只 曾 後 佐 町 越 松 三 青 保 信  
 西 井 野 村 田 木 谷 村 島 井 岸 野 我 藤 野 前 田 山 木 夫  
 角 與 粕 福 要 淺 長 金 千 藤 本 吉  
 次 爲 之 太 次 一 太 新 之 次 仙 太 幸 市 一 嘉 彦 喜 秀 太  
 郎 吉 助 藏 郎 郎 雄 郎 助 助 郎 藏 寬 郎 助 藏 郎 藏 吉 郎 雄 郎

一七二

組函 聯函  
合館 合館  
聯市 聯市  
合火 合火  
會災 會災  
豫豫  
長防 長防

岩 市 理  
谷 田 事  
平 龜 太 郎

聯函 聯函  
合館 合館  
會市 會市  
副火 副火  
會災 會災  
豫豫  
長防 長防

一七五 村 伊  
田 藤  
奧 時  
太 郎

伊竹佐松今伊大疊後北蛭井福吉出小  
田藤田野藤下藤口子川田林林  
與々與政甚貞慶外宇作清  
孝三太三二右英次治次之太水英與  
治吉郎松郎門司郎郎郎吉郎年賀二吉

亘芳松若倉仁菊竹齋佐福山高室藤杉  
理賀澤濱知木地中藤島田本原浦  
文駒憲鐵市寅熊  
之高茂豐次一熊定三金紋丈三太  
輔信郎吉郎郎吉一郎治藏郎作郎郎治

川齋野野阿高金中阿梁伊手三向  
村藤村田部階谷村部川藤坂上山  
勝菊亮虎吞吉三齋鶴米一小英  
觀藏輔穰治治治郎松松造郎吉二

五

稜

佐齋鈴森濱西坂八日柳小菅菅野池黑澤三前田吉時  
々藤木田郷本重野町市原原村上川田上濱原村梅  
木重熊子櫻口久仁久三藤高參石卯留源德  
条太信米七文之岩與治太五太五次三龜之次之三  
司郎一治郎平助郎郎郎郎郎夫郎郎郎治吉郎丞郎郎

須田井加乘箱齋天片佐松岸若中橫川向增佐西坂赤吉  
藤中元藤木石藤野桐木原山島田口山田藤村東石村  
康清義兼幸澄百善辰平久榮源元多  
保次廣吉作司助吉郎門郎藏郎八輔郎松吉也郎藏郎藏  
千代ヶ倍東部

渡松工佐遠室間石荒鈴阿水小佐水佐村川清福北成  
部藤藤山井山川岡木相上塚木口藤田村水澤原田  
慶時悅三菊源友新大角金米太太嘉清清誠次  
治郎司榮郎郎享松三佐郎吉馬郎松郎郎藏一一吉郎

一七四

函館市醫師會會長	木 內 幹	函館市醫師會副會長	新 田 淑 郎
大日本私立衛生會	齋 藤 與 一 郎	大日本私立衛生會幹事	野 田 房 太 郎
北海道齒科醫師會	長 谷 川 千 代 三	北海道藥劑師會	若 佐 豐
函館支商部	小 林 貞 一	函館商工會議所	島 崎 定 次 郎
函館商工部	三 橋 寬 五 郎	函館警察署衛生主任	深 井 定 吉
函館警察署警部	齋 藤 久 七	醫學博士	西 村 安 敬
函館警察署消防主任	阿 部 龍 夫	函館病院婦人科長	陽 田 傳
函館病院小兒科長	勝 田 彌 吉	函館消防組第二部長	菅 原 重 太 郎
函館消防組頭	宮 島 與 作	函館市書記	齋 藤 久
函館市衛生課長	中 途 退 任		

總務部  
 部長 宮 島 與 作  
 副部長 岩 谷 平 八  
 同 三 橋 寬 五 郎

委員  
 祐 村 勇 次 郎  
 谷 本 吉 造  
 內 藤 始

庶務係  
 係長 齋 藤 久 次 長 深 井 定 吉  
 係員 間 瀬 八 郎 同 副 組 長 岡 田 金 作  
 船場町組長 安 達 愛 次 船場町副組長 森 本 一 郎  
 同 副 組 長 佐 藤 善 次 住吉町組長 丸 山 喜 助  
 同 副 組 長 石 橋 住 藏 函館市事務員 星 武 見

會計係

係長 函館市收入役 坪 山 照 次 次長 東濱町末廣町東部組長 石 塚 彌 太 郎  
 次長 鶴岡町組長 五 香 他 次 郎  
 係員 末廣町東濱町東部組長 森 清 馬 東 雲 町 組 長 鈴 木 定 衛  
 鶴岡町副組長 內 田 寬 三 東 雲 町 副 組 長 芦 野 歡 次 郎

會場係

係長 大町仲濱町組長 當摩彦太郎  
次長 西川町副組長 大黒三次郎  
係員 住吉小學校長 田村胤次郎

大町仲濱町副組長 和田芳次郎  
元町副組長 山田竹次郎  
青柳町副組長 岡田幸助  
相生町副組長 井上利三吉  
旅籠町副組長 牧野政恒  
新川町東部副組長 川岸一美  
同副組長 岡川香風

工營係

係長 函館市技師長 本島正輔  
次長 函館市技師 小南武一  
係員 大繩町組長 稻葉治郎右衛門

大繩町副組長 佐藤郡治  
海岸町副組長 竹林山次郎  
海岸町組長 大宅鶴吉

接待係

係長 廣安幸次郎  
次長 惠比須町組長 佐々木耕作  
係員 長辨天町外四ヶ町組長岩船峰次郎

辨天町外四ヶ町副組長 小川彌吉  
豐川町、汐止町副組長 徳田安吉  
同副組長 宮川吉次郎  
若松町副組長 鷺田孝吉  
松風町副組長 藤林良男  
新川町副組長 平澤豊吉  
高森町副組長 濱田縫之助  
大黒町火防衛生副會長 成田カシ  
同副會長 尾越セイ

豐川町、汐止町副組長 前側末松  
眞砂町組長 浦田平吉  
若松町組長 工藤吉藏  
松風町組長 水谷友右衛門  
新川町組長 菅村純之  
高森組長 松岡陸三  
大黒町火防衛生會長 成田コウ  
同副會長 尾越セイ



式場係

係長 曙町組長 伊藤 時百 次長 青柳町組長 和田 權十郎

次長 鍛冶町組長 川端 新兵衛

係員

曙町 副組長 金澤 音之助 鍛冶町 副組長 杉野 勝太郎

經營部

部長

宣傳係

係長 菊池 州二 次長 秋尾 浩

同 各新聞社

係員

船見町組長 山崎 勉治 同 副組長 田村 明吉

千代ヶ岱東部組長 増岡 登三郎 同 副組長 中村 清右衛門

催係

係長 寶町組長 村田 奧太郎 次長 高砂町組長 古川 金兵衛

次長 音羽町組長

係員

大森町組長 西島 儀助 寶町 副組長 國松 源右衛門

高砂町副組長 藤山 四郎 音羽町 副組長 阿部 清吉

大森町副組長 木村 友七 同 宮島 與八

衛生部及火防部

部長 副部長

出品係

係長 白崎 七左衛門 次長 及川 榮造

同 松谷 利喜智

係員

地藏町副組長 荻野 清六 同 町火防副組長 宮崎 善四郎





柏野療養所 長谷川文博 同 阿部壯次

裝飾係

石井善二 次長 目黒松太郎

東川町組長 堀田才次郎 龜田村副組長 梶塚吉藤

說明係

齋藤與一郎 次長 刈田留藤

野田房太郎 小林乙五郎 武内正治 市原五市 水島繁太郎

審査部

森信 飯淵舜男 光錢源吉郎 矢幅政尙 中江萬藏 留守契 喜多正幸 茂木繁

審査係

松田彰 次長 菅原重太郎 加藤輝光

幹事

齋藤久 小笠原平孝 新田保之 飯田建吉 榎藏一 大澤五郎 中山郡治 坂田仁太郎 志村國治

友田松之助	三戸己之助	久保田仙太郎	上田徳三郎	柳谷彌太郎	保刈辨太郎	高津寛市	三浦秀四郎	下村三治	小林勘右衛門	小泉常太郎	會田謙造	金澤豊次郎	小平義房	高田勝藏	村木市太郎
西郷武輔	石澤末次郎	高桑信吉	星山武三郎	一戸象三	池島定吉	市村宇之助	高柳全志郎	黒澤喜三郎	羽山孝次郎	菊地安治	小貫貞三	新田軍平	長谷川義兼	時岡光孝	佐藤政太
須藤辰治	山田由藏	木立兼次郎	工藤源一郎	加藤豊吉	井上辰藏	野島彌三郎	本間良平	遠藤熊三郎	村井敬次郎	奈良正次郎	中澤初太郎	八木豊吉	千葉金太郎	渡邊三郎	犬塚徳一

### 第二編 協賛會

#### 第一章 組織

岩谷誠三	松井貞義	書記	高橋一郎	田村好文	山本昌一	富永龜次郎
	菊谷末五郎		柏倉長右衛門		佐藤厚八	
	向井					銳

昭和六年三月北海道衛生火防展覽會長から函館商工會議所會頭に協賛方交渉があつたので、會頭は會議所役員會に諮り、更に函館商工組合聯合會函館商工協會と議を重ね、茲に函館商工會議所、函館商工組合聯合會、函館商工協會の三團體を母體とする協賛會の設立を見るに至つたのである。

#### 北海道衛生火防展覽會協賛會規則

第一條 本會ハ北海道火防衛生展覽會協賛會ト稱ス

第二條 本會ノ事務所ハ函館商工會議所内ニ置ク

第三條 本會ハ北海道衛生火防展覽會ノ事業ヲ協賛スルヲ以テ目的トス

第四條 本會ニ於テ施設スル事業ノ概目左ノ如シ

- 一、觀覽者ノ便利ヲ圖ルコト
- 一、餘興ノ設備及觀覽者ノ勧誘ニ努ムルコト
- 一、來賓及團體觀覽者ノ接待及之カ設備ヲナスコト
- 一、即賣部ノ經營（即賣部ハ主トシテ商工協會ヲシテ取扱ハシム）
- 一、其他協賛ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、會長 一名 一、副會長 二名 一、常議員 若干名
- 一、事務委員長 一名 一、事務委員 若干名

右役員ノ外本會ニ顧問ヲ置ク

第六條 會長ハ函館商工會議所會頭、副會長ハ函館商工組合聯合會長並函館商工協會々長ヲ以テ之ニ充ツ

常議員、事務委員ハ會長之ヲ囑託ス

第七條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス、副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス、常議員ハ主要事項ノ協議ニ參與ス

事務委員長ハ會長ノ命ヲ承ケ事務委員ヲ指揮シ本會ノ事務ヲ掌ル事務委員ハ事務委員長ノ命ヲ承ケ事務ヲ擔當ス

第八條 本會ノ經費ハ商工會議所、商工組合聯合會、商工協會並即賣部出品者ノ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 會務ノ經過狀況及收支決算ハ之ヲ報告ス

第十條 本會ハ所期ノ目的ヲ達シタル後之ヲ解散ス

## 第二章 協 贊 事 業

### 第一節 餘 興

餘興の設営如何が、展覽會の成功不成功を決するといふ程迄に重大なれば、協贊會は當初より深甚なる注意を拂ひ、先づ神永貞助、杉村廣太郎、古川二龜市の三氏を餘興の特別委員に擧げ、委員は興味を唆るべき卓越と洗練されたもの、選擇に苦心され、遂にオギハラレウ一團、吾妻家美佐男と政之助一座、才原自轉車曲技一行を聘して、會場中庭に設けた演藝場に於て毎日五時から、レヴュー、獨唱、古典舞踊、寸劇、ダンス、音曲、萬歳、民謡、曲藝、奇術、衛生劇、火防劇等を開演せしめたのである。

當時の世評にも終始好人氣を以て傳へられ、就中、本會開催の趣旨に固める、衛生劇「看護婦」「烏賊一杯」火防劇「人性の焔」等は最も好評にて、此餘興のため如何ばかり觀覽者を誘致したか、測知すべからざるものがあつた。

會場樓上二室に清楚な裝飾を施し且小熊冷蔵庫から贈られた草花入氷柱に涼味を漂し、一方中庭に天幕張を爲し、何れも卓及椅子を配して設備を整ひ、毎日四名宛の委員と事務員とが、本會の接待委員と共に詰合ひ、來賓及團體觀覽者に茶菓を饗せしが、主なる來賓は小池逋信次官、池田本會總裁、稻垣本會副總裁等なりき。

尙、中庭中央に大天幕を張り椅子を配して、一般觀覽者の休憩に便した所、殊の外喜ばれたのであつた。

第三節 即賣店

物産の即賣は展覽會の一の賑ひで又觀客誘致の一方法である、茲を以て協賛會は函館商工協會を中心に場内即賣店の經營に當つた處、出店申込多く、豫定の百六十坪に不足を告げ九十坪を増築して第二室と爲して木工家具類の陳列に充てたのである  
出品店は左の如く市内一流の商店のみで、而も良品廉價をモットーとしたので、財界不況を外にした景氣にて、就中期末に於ける奉仕デーは人氣の焦點となり、賣上も良好であつたのである。

第一室

- |          |       |           |       |         |       |
|----------|-------|-----------|-------|---------|-------|
| 相生町 藤細工  | 西村與三郎 | 末廣町 家具商   | 神永 貞助 | 新川町 金物商 | 山下慎太郎 |
| 末廣町 漆器雜貨 | 松 柏 堂 | 海岸町 鈴木 庄一 | 原 一太  | 東雲町 自轉車 | 荒木 賢吉 |
| 青柳町 墨表   | 菅浦篤一郎 | 松風町 金物    | 出村 喜作 | 相生町 小間物 | 森 立也  |



來賓休憩室の一

- |                |         |                |        |
|----------------|---------|----------------|--------|
| 末廣町 陶器         | 森 清馬    | 眞砂町 壺鍵         | 野村仙石衛門 |
| 新川町 額縁         | 常野 彌助   | 東雲町 藤細工其他須藤 源造 |        |
| 新川町 鍍鍍金物       | 前 末吉    | 惠比須 化粧品        | 外崎友太郎  |
| 惠比須 蓄音器        | 山コ樂器店   | 西川町 神佛具        | 笹井松治郎  |
| 高砂町 かもじ小間物     | 吉田 清    | 高砂町 煉炭具        | 土谷 納   |
| 千代ヶ岱 化粧品粉末     | 柳澤禮太郎   | 惠比須 玩具         | 本田卯一郎  |
| 同 雨傘靴          | 金井勝太郎   | 末廣町 紙文具類       | 高瀬 商店  |
| 末廣町 金物         | 寺井金物店   | 五稜郭 文化コンロ      | 濱田熊七郎  |
| 千代ヶ岱 ハコ石鹼金子順次郎 |         | 谷地頭町 洋雜貨       | 立山 泰治  |
| 鶴岡町 布團類        | 河村 定一   | 鶴岡町 靴          | 山田 庄吉  |
| 豐川町 海産加工       | 早崎 政六   | 末廣町 陶器類        | 寺井陶器店  |
| 末廣町 海産加工       | 井印後山庄太郎 | 音羽町 洋服類        | 山崎 健藏  |
| 蓬萊町 同          | 柿 芳三郎   | 西川町 洋服         | 小野洋服店  |
| 相生町 菓子とパン精     | 養 軒     | 榮 町 海産加工       | 鳥井興三郎  |
| 地蔵町 金物         | 曲ヨ進藤商店  | 東雲町 海産加工       | 豐 年 堂  |
|                |         | 新川町 洋品雜貨       | 曲森森田商店 |

東雲町 炭礦 石塚 商店 西川町 神佛具 小山 菊 旭町 杉崎 郡作

地藏町 ○ヤ齋藤義次郎 西川町 一山リ松並常次郎 同 同 一山大堀井商店

音羽町 山天野 商店 同 三上 嘉六 同 同 曲夕前田太三郎

末廣町 一工小寺井家具店 音羽町 古川二龜松 同 同 青柳町公園前 加島屋

末廣町カフェー 黒 猫 大森町カフェー 曲 平 青柳町公園前 加島屋

### 第三章 經費

衛生火防展覽會協贊會經費收支決算

一金壹千圓也 收入ノ部 總收入金  
 內譯 金五百圓也 出品者寄附金  
 金參百圓也 會議所協贊負擔金

金壹百圓也 商工組合聯合會同上  
 金壹百圓也 商工協會同上  
 支出ノ部 總支出金

內譯 金五百九拾參圓拾四錢 餘興費  
 金壹百貳拾七圓六錢 接待費  
 金貳百七拾九圓八拾錢 雜費

### 第四章 役員

北海道衛生火防展覽會協贊會役員

會長 坂本 作平  
 副會長 齋藤 榮三郎  
 副會長 岡本 康太郎  
 常議員 宮本 武之助 高村 善太郎 瀨崎 初三郎



終

